

令和6年度 北海道苫小牧支援学校

研究集録



【研究主題】

「ICT を活用した生きる力を育む授業の実践を目指して」

～ICT を活用した授業づくりの基礎を通して～（1年次）

～ICT を活用した授業づくりの実践を通して～（2年次）

は じ め に

本校は、旧苫小牧市立明德小学校の校舎を活用し、令和3年(2021年)4月に開校した特別支援学校です。設置する学部は小学部と中学部で、今年度は小学部49名、中学部36名の合計85名でスタートとなりました。本校は基本理念を「地域と共に学び 地域と共に育つ人材の育成」、学校教育目標を「地域社会で心豊かにたくましく生きる児童生徒を育てる」と設定し、児童生徒一人一人が学びを深め、将来の社会生活に必要な資質・能力の育成に取り組んでおります。

さて、本校の開校年度である令和3年(1月)には、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議(報告)」及び「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」がまとめられました。答申では、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来など、急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力について「新学習指導要領の着実な実施」と「ICTの活用」などを通して、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要であると示されました。

そこで本校では、令和5年度より研究主題を「ICTを活用した生きる力を育む授業の実践を目指して」～ICTを活用した授業づくりの基礎を通して～(1年次)、～ICTを活用した授業づくりの実践を通して～(2年次)とした2カ年計画の校内研究に取り組みました。研究ではICT機器の効果的な活用から「生きる力」の育成を目指した授業実践交流により研究主題の検証に取り組みました。

今年度は、令和6年12月20日(金)に公開授業研究会を開催し、全道から多くの御参加をいただきました。その成果等を含め研究集録として発刊するものです。

結びに、2年間ご指導いただきました北海道特別支援教育センターの皆様及び北海道教育庁ICT教育推進局ICT教育推進課の皆様をはじめ関係の皆様、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和7年(2025年)3月

北海道苫小牧支援学校

校 長 小笠原 正 樹

目 次

はじめに

第1章 研究概要

1 研究主題について	2
2 主題設定の理由	2
3 研究仮説の設定	2
4 研究の構想	2
5 年次計画と具体的取組	3
6 研究の重点	3
7 研究の進め方(1年次)	4
8 2年次の取組	4
9 研究の進め方(2年次)	5
10 2年次の推進日程	6

第2章 小学部の研究

I 実践報告	8
--------	---

第3章 中学部の研究

I 実践報告	88
--------	----

第4章 公開授業研究会

I 単元計画・指導案	129
------------	-----

第5章 研究のまとめ

I 研究の成果	183
II 今後の課題	184
III 「生きる力」の体系的図示	185
IV 情報活用能力の系統的図示	187

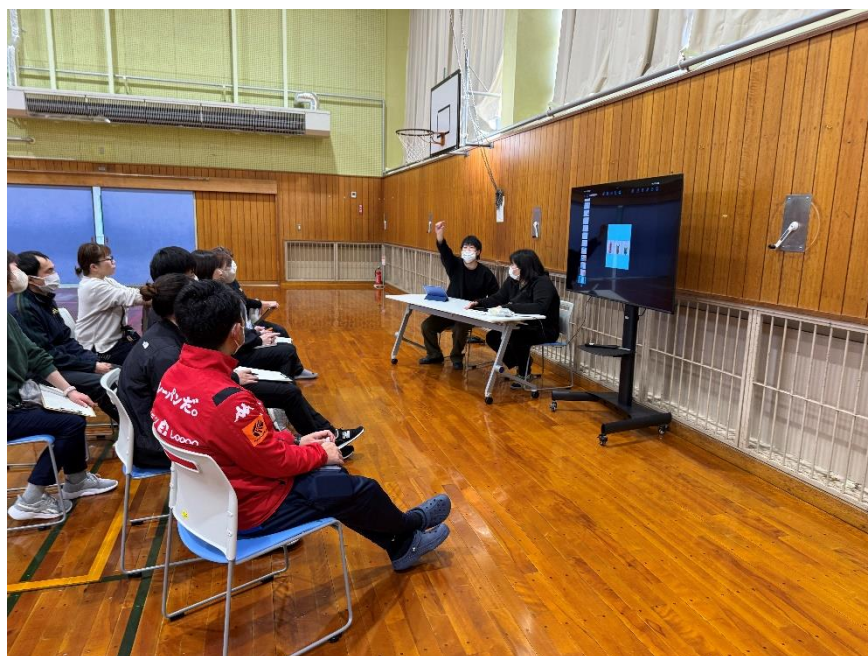
第6章 研究資料

I 研究だより	191
---------	-----

○研究同人・研修支援

第 1 章

研究概要



1. 研究主題について

『ICT を活用した生きる力を育む授業の実践を目指して』

～ICT を活用した授業づくりの基礎を通して～(1年次)

～ICT を活用した授業づくりの実践を通して～(2年次)

2. 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

2008 年(平成 20 年)3月の小・中学校学習指導要領改訂で、次代を担う子どもたちが、これからの社会において必要となる「生きる力」を育むことが示され、さらに、2017 年(平成 29 年)の改訂においても「生きる力」を育むため、子どもたちに身に付けさせたい三つの柱が提示されている。「生きる力」とは知・徳・体のバランスのとれた力であり、変化の激しい現代社会を生きるために必要な力とされている。

一方、GIGA スクール構想によって、2021 年(令和3年)4月から学校における1人1台端末環境下での新しい学びがスタートし、多様な子どもたち一人一人に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる ICT 環境が整ってきている。北海道教育推進計画【2023 年度～2027 年度】【p.11】によれば、ICT は特別な支援を必要とする児童生徒の学習上または生活上の困難を改善・克服させ、指導の効果を高めることができる重要な手段としている。ICT を活用することは、個別最適な学び、多様な子どもに対する学習支援の充実を図ることに繋がるため、本校でも「生きる力」を育成する可能性のある手立てとして積極的に取り入れていきたい。

(2) 教育目標の具現化から

本校の教育目標は「地域社会で心豊かに たくましく 生きる児童生徒を育てる」である。また、「自主」みずから(知)、「友愛」なかよく(徳)、「創造」こころゆたかに(体)を目指す児童生徒像として掲げ、知・徳・体バランスのとれた人格形成を目指し、全職員が一丸となって児童生徒の育成に力を注いでいる。

また、重点教育目標「一人一人の教育的ニーズに応じた自立と社会参加を目指す教育の推進—社会に開かれた教育課程の編成と実施—」達成のための重点実践事項として、児童生徒に対する「SDGs 質の高い教育の推進」とある。その中で、「確かな学力・生きる力を育む授業の実施」や「安全で安心な教育の実施～ICT 教育の環境整備、教育活動の推進」が掲げられており、ICT の活用を行うことは児童生徒の学習の理解を助け、情報活用能力等の育成となることから、目指す児童生徒像および教育目標の具現化につながると考える。

以上のことから、今年度の研究では、「ICT を活用した生きる力を育む授業実践」についてテーマとして取り組み、ICT 機器の効果的な活用から「生きる力」の育成を研究することとした。研究を進めるにあたっては、本校の児童生徒に身に付けさせたい「生きる力」を明確にし、効果的な ICT の活用を考え、授業実践により研究主題を検証していきたい。

3. 研究仮説の設定

・学習場面において、ICT を活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。

4. 研究の構想

本研究は2カ年計画で行う。1年次は、理論研修を軸に、本校の教職員が考える当該児童生徒にとっての「生きる力」を育むことができるように、授業づくりの視点「個別最適な学び」を押さえながら、ICT 機器の基礎的な活用を取り入れた授業研究を進めていく。2年次は、1年次の研究を経て現れた課題を踏まえ、授業づくりの視点「個別最適な学び」に加え、「協働的な学び」との一体的な充実の視点にも注目し、より実践的な ICT 活用を取り入れた授業研究を進める。

5. 年次計画と具体的取組

年度	主題～副題～	具体的取組
令和5年度 (1年次)	ICTを活用した生きる力を育む授業の実践を目指して ～ICTを活用した授業づくりの <u>基礎</u> を通して～	○研究主題、仮説、方法、内容等の設定 ○研究計画の立案 ○授業実践 ○研究授業 ○研究報告会の実施 ○一年次のまとめと二年次の見通し
令和6年度 (2年次)	ICTを活用した生きる力を育む授業の実践を目指して ～ICTを活用した授業づくりの <u>実践</u> を通して～	○研究主題、仮説、方法、内容等の設定 ○研究計画の見直し ○授業実践の継続と資料の累積 ○研究授業 ○研究報告会の実施 ○研究のまとめ

6. 研究の重点

北海道教育委員会の小・中学校教育課程改善の手引によれば、「各学校においては、授業づくりの視点について全教職員で共通理解を図り、共通実践による授業改善に取り組むことが重要」とあり、授業づくりの基本「5つの視点」が示されている。特に、[視点3]については、ICTをツールとして活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、授業改善につなげていくことが大切とあり、本研究に直接的に結びつくものである。そこで、本研究における授業づくりの重点を、授業場面に応じて具体化することで、より具体的に子どもの姿をとらえることができると考える。

1年次

〔重点①〕多様な方法で目標達成を目指す指導の個別化

- ☐ 一人一人の特性・学習進度に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行っているか
- ⇒ 全ての児童が目標を達成することができるよう、一人一人に応じた効果的な方法で学習を進める

〔重点②〕自ら最適な学びとする学習の個性化

- ☐ 一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行っているか
- ⇒ 児童自身が最適な学習に向けて調整できるように、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する

2年次（重点1および2に加え、）

〔重点③〕最適解や納得解を求める協働的な学び

- ☐ 一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働する場面を設定されているか
- ⇒ 異なる考え方を組み合わせ、よりよい学びを生み出していくことができるように、資質・能力の育成を目指した対話や協働等により、知識やアイデアを共有する

7. 研究の進め方(1年次)

研究の進め方としては、授業研究を行う。学年で2コマの研究授業(前期に1コマ、後期に1コマ。学年に学級が1つの場合、所属するブロックと統合)行って進めていく。研究授業の事前には、「生きる力」を育むための ICT 活用の方法を明確にした上で、後述する授業づくりの重点①～③を踏まえた学習方法や学習場面を設定しているかについて討議するなど、指導案を検討する。また、事後ではその成果や課題について交流する。

□学年研①

・苫小牧支援学校の教職員が考える、「生きる力」とは？

—各学年(ブロック)で話し合う(Jamboard)

—学校教育目標および小中それぞれの学部目標を参考に、当該学年の児童生徒にとっての「生きる力」は何か、考えを出し合う。

□学年研②

・学年研①で考えた「生きる力」を育むため、具体的にどのような ICT 活用が考えられるか

—各学年(ブロック)で話し合う(Jamboard)

—出された考えから、学年で共通して取り組めるものを決め、様々な授業で活用していく。

※「様々な教科等で広く行う」「長期的に継続して行う」ことで、子どもの学びがどのように変わったか、何が身に付いたかが見えやすいと考える。また、どの教師も ICT を活用することで指導力の向上に資すると考える。

□学年研③～⑤・⑥～⑧の進め方(この間に行っていただきたいこと)

⇒学年の教育推進部員が中心となり、学年研究の計画を立てて推進する

—年間指導計画等をもとに、学年で1コマの研究授業の構想を行う

—研究授業の設計(指導案の作成)をする

—指導案検討を行う(進め方は後日提案)

—授業の実施

—事後研(授業の反省)を行う(進め方は後日提案)

—成果と課題の報告に向けた準備(報告の様式は後日提案)

□研究報告会(前・後期)【令和5年度(1年次)】

・前期報告(10月)・・・各学年で1つの授業研究について、成果と課題を報告する。

・後期報告(2月)・・・各学年で1つの授業研究について、成果と課題を報告する。

8. 2年次の取組

①「生きる力」、ICT 活用

…当該学年で話し合った「生きる力」を育むため、学年で長期的に共通して取り組む ICT の活用

②研究の重点「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「自立活動の視点」

…主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善には、「個別最適な学び」だけでなく「協働的な学び」についても充実を図ること。個々の ICT の活用だけでなく、お互いの感性や考え方に触れたり、知識やアイデアを共有したりするなど、より他者と協働する場面の設定が求められる。

…自立活動の視点については、障がいによる学習上又は生活上の困難さを改善・克服するために、ICT を活用する視点であり、特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。各教科及び自立活動の授業において、個々の実態等に応じて実施。*「特別支援教育における ICT の活用について」(文部科学省)

③(公開研に向けた)単元計画・指導略案の作成…主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが大切⇒本校の単元計画様式を活用し、単元や時間のまとまりを通して、その中で育む資質・能力の育成に向けた ICT 活用の手立てや学習の様子について表記を工夫する

④公開授業研(12/20(金))の実施

…授業改善、指導力向上⇒子どもたちの育成したい資質・能力につながる

…全学年当日 1 コマ実施(午前授業 13:25 下校)、全道に参加者募る、午後から(13:45~)事後研(意見交流会)、ICT 関連の講演?

⑤研究報告…年1回(1月)ブース選択形式で実施。

⑥研修支援(①ICT 課:研究授業(公開研)での参観・助言、研究のまとめについての助言

②特セン:研究報告会での助言(※ICT 以外の研修(夏季等)について依頼する?))

⑦「生きる力」(=本校の育成を目指す資質・能力)の体系的整理 →推進部(1月~)

⑧情報活用能力の系統的整理 →推進部(1月~)

⑨研究だより…学年の実践交流のツールとして。ICT 活用の紹介など →推進部(7,8月~(隔月))

⑩研究のまとめ(電子化)…冊子ではなく、電子化や HP など活用して発信 →推進部(資料整理がメイン、統合は1月~)

9. 研究の進め方(2年次)

①学年で「生きる力」の確認(5/29(水))

当該学年の児童生徒にどのような力を身に付けさせたいか、どんな力を育てたいか

②そのために考えられる ICT の活用とは(6/26(水)まで)

・①の力を通年で育てていくために、学年で長期的に共通に取り組む ICT 活用

※①が研究の目的であり、②は手立てとなる。

・以降、順次取り組む(通年:学年で共通して長期的に取り組む ICT 活用)

※1年次と異なり、通年で取り組む

③授業実践

④公開授業研に向けた単元計画、指導略案(~11/22まで提出)の作成

⑤公開授業研に向けた事前研(指導案検討等) ※記録があるものは提出をお願いする

⑥公開授業研および事後研(意見交流会) ※記録の提出をお願いする

⑦研究報告会(~1/17まで提出)

⑧研究のまとめ

公開授業研究(12/20(金))は、「ICT を活用した」と銘打つこともあり、下記を含む(a・b・cについてはいずれか1つ)授業をお願いしたい。

・「生きる力」を育むために長期的に学年共通で取り組んでいる ICT を活用したもの

a.「個別最適な学び(ICT)」を踏まえた授業改善の視点

b.「協働的な学び(ICT)」を踏まえた授業改善の視点

c.「自立活動の視点(ICT)」

10. 2年次の推進日程

	日時	内容
①	5/29(水)	全体研究および学年研究①(生きる力)
②	6/26(水)	学年研究②(ICT活用)
③	7/24(水)	学年研究③(単元計画作成等)
	8/27(火)	夏季教職員研修会
④	9/6(金)	学年研究④(指導案作成等)
⑤	10/23(水)	学年研究⑤(指導案検討①等)
⑥	11/29(金)	学年研究⑥(指導案検討②等)
⑦	12/20(金)	公開授業研究日(事後研、交流会)
⑧	1/31(金)	研究報告会(ブース形式)
⑨	2/26(水)	外部講師研修(特セン:zoom) ((仮)「自立活動の指導の充実について」)
⑩	3/21(金)	研究のまとめ(2年間のまとめと次年度の方向性)

※研究日以外(学年会等の活用)で推進するなど、学年研究の進め方は各学年の推進部員にお任せいたします。



第 2 章

小学部の研究



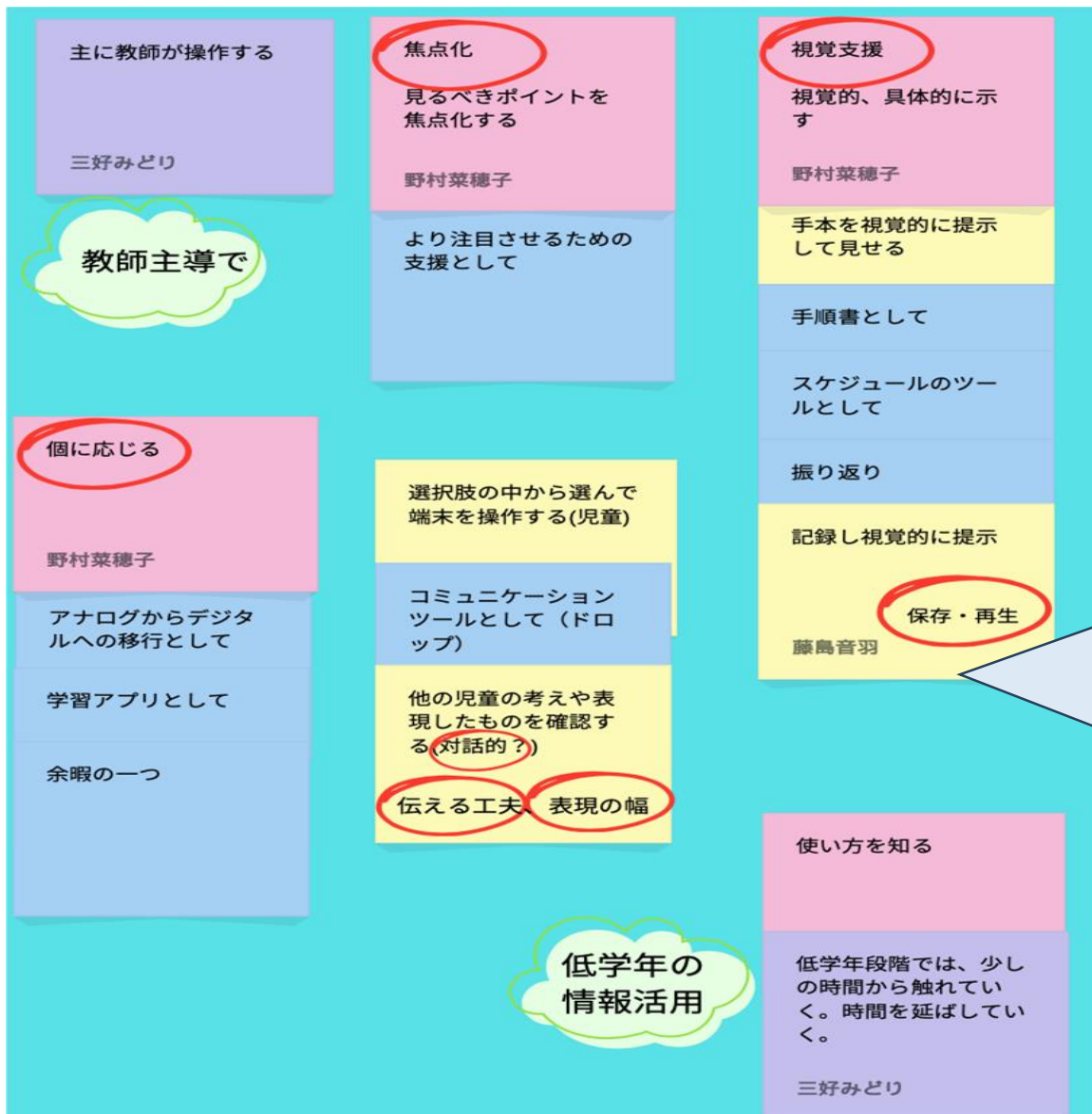
小学部 1学年



小学部 1 年生が育成したい「生きる力」



「生きる力」を育成するためのICT活用



- ・ 注目・焦点化
- ・ 視覚的な提示
- ・ ICT機器の扱い方の理解
- ・ コミュニケーションの拡大 etc.

「生きる力」を育成するためのICT活用

各教科・合わせた指導

注目する力

見通せる力

「学習内容の説明」「手順の確認」

「学習の振り返り」

PowerPoint・Keynote・写真や動画・BGMやSE



活動に見通しをもって最後まで取り組むことができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

各教科・合わせた指導

あいさつ

意思表示

自分に合った伝え方

「あいさつ」
Drop Tap・Drop Talk



「がんばることの発表」
Drop Tap



BIG Mack



一人一人のやり
方で伝えること
ができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

各教科・合わせた指導

自己決定・自己選択

意思表示

「選ぶ」
Drop Tap、Keynote等



自発的に選択し、意思表示できた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

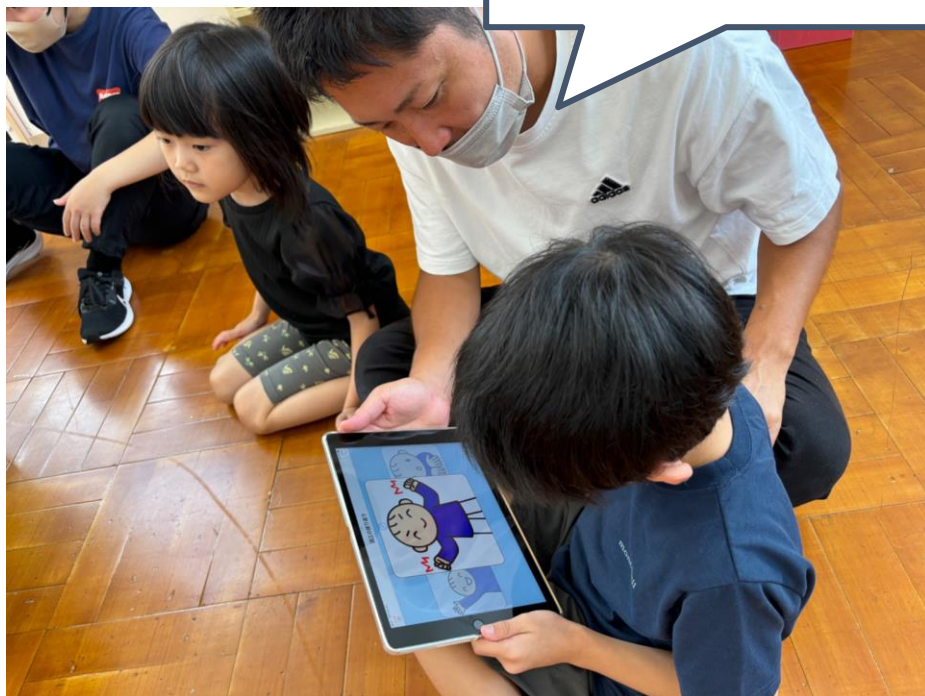
各教科・合わせた指導

意思表示

情報活用能力

ルール理解

「ふりかえり」
Drop Tap・Keynote



「ルールや約束の確認クイズ」
DropKit・Kahoot!・Keynote



選択肢の中から
考えて選ぶこと
が増えた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

生活単元学習

注目する力

見通せる力

楽しむ力

「サンタのメッセージ映像」
Canva・音読さん



見通しをもち、
クリスマス会の
活動に意欲的に
取り組んだ。

「生きる力」を育成するためのICT活用

生活単元学習

日常生活動作

情報活用能力

注目する力

「買い物練習」
Keynote



「信号を見る練習」
信号機



模擬練習によっ
て校外学習当日
も意識して行動
できてきた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

生活単元学習

情報活用能力

生み出す力

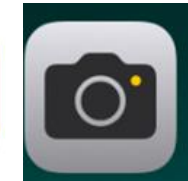
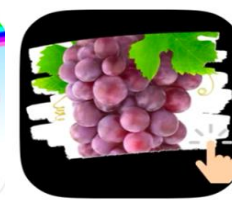
楽しむ力



「探検」
コード



「タブレットをつかおう」
キラキラ・なぞってマッチング・
Petting Zoo・カメラ



他教科でiPadを
使うときもスム
ーズに行うこと
ができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

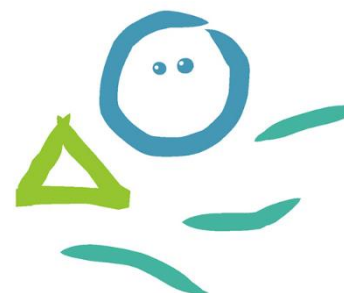
音楽

「おとあそび」
Chrome music labo



OSCILLATOR

情報活用能力

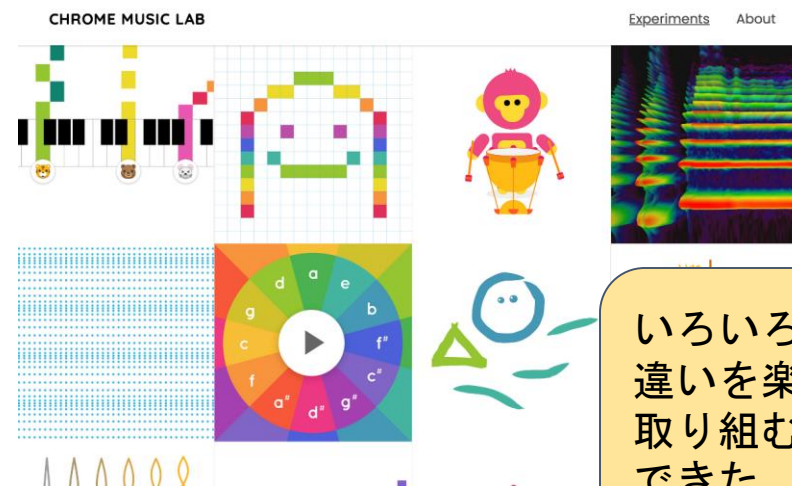


KANDINSKY

楽しむ力



RHYTHM



いろいろな音の
違いを楽しんで
取り組むことが
できた。

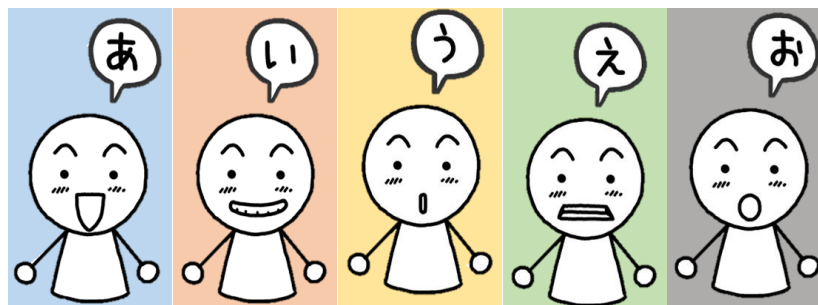
「生きる力」を育成するためのICT活用

音楽

「発声練習、歌唱」
マイク・スピーカー・
こえキャッチ・インカメラ



意思表示



注目する力

楽しむ力



口の形や声の大きさを確認しながら、はっきりと声を出すことができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

音楽



身体

意思表示

関わり

「身体表現」
Keynote
一緒に活動する友達を選択



友達を意識しながら、一緒にペースを合わせて活動できた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

音楽

「楽器演奏」
Canva・Keynote

注目する力

楽しむ力



画面の楽譜に注
目してタイミン
グよく演奏する
ことができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

図工

情報活用能力

生み出す力

楽しむ力



「絵を描く」
キラキラ・描画キャンバス

色や形状を変え
ながら思い思い
に描画すること
ができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

図工



情報活用能力

注目する力

関わり

「ファッションショー」
カメラ・BGM



友達のランウェイに注目し、カメラ役の児童は友達を写すことができた。

「生きる力」を育成するためのICT活用

図工

情報活用能力

注目する力

関わり



「鑑賞」
Padlet・カメラ

画面に注目して
友達の作品を鑑
賞することがで
きた。

ICTを活用したことによる成果

ICT 活用の有用性 11カテゴリ

2 発表・伝える工夫 協働



発表や振り返り、意見交換で相手に伝えるために活用

4 対話的な学び



対話的に学ぶために活用

1 保存・再生 協働



学習の記録や作ったものを見返したり、考えを深めたりする活用

3 焦点化



見るべきポイントを焦点化するために活用

5 情報を集める



情報を集めるために活用

6 表現の幅 個別



様々な表現方法で制作活動に取り組むために活用

8 個に応じる活用 個別



個々の特性や学習の進み具合、習熟度、ペースに応じて学習に取り組むために活用

10 まとめ



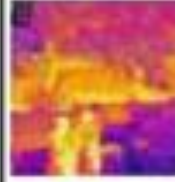
まとめで振り返るために活用

7 試行錯誤



間違えることへの抵抗を減らし、繰り返し学習に取り組むために活用

9 視覚化・具体化



情報や感覚的内容(温度や音、気持ちなど)を視覚的、具体的に示すための活用

11 興味・関心、意欲の喚起



興味・関心を高めたり、学習意欲を喚起したりするための活用
※ただし、そもそもの題材設定や教材教具の工夫などが影響していることも考えられる

研究の重点内容に関して

個別最適な学び

- ・ 全員がICTを使うことにこだわらず、ICTの操作が難しい肢体不自由の児童はアナログ教材を使って選択するなど、一人一人に合わせて活動を行い、自己決定や意思表示を促すことができた。
- ・ 発語が難しい児童はDrop Tapを使用して発表するなど、個に応じた手段で意思表示することができた。

- ・ 4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用に関すること
- ・ 6 コミュニケーション (2) 言語の受容と表出に関すること
- ・ 6 コミュニケーション (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

協働的な学び

- ・ 一緒に活動したい友達を選択したり、ペアやグループで学習したりする機会を設定することで、友達と関わり相手を意識して活動することができた。
- ・ ICTを使って作品を提示することで注目を促し、友達の様々な作品を鑑賞することができた。

- ・ 3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること
- ・ 3 人間関係の形成 (4) 集団への参加の基礎に関すること
- ・ 4 環境の把握 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること

結論



学習場面において、ICTを活用しながら児童が主体的に学ぶことで、小学部1学年児童は、【意思表示】【注目する力】【関わり】【情報活用能力】【生み出す力】等の生きる力を育むことができた。

小学部 2学年

図画工作科

題材名「クリスマスの飾りをつくろう」

育成したい「生きる力」

- 興味のあるものや好きなものを選ぶこと・伝えること
→何が好きなのか分からない。
- 話を聞く力、集中力
→聞いて、分かって行動することが難しい。
- 自分の考え・思いを伝える力・表現する力・語彙力
→支援を求めることはできるが、表現が少ない。
→発表には積極的だが、伝える力が弱い。

⇒ 「選ぶこと・伝えること」に焦点を当てる

活用したICT～1年を通して活用したもの

□DropTap

例) 買い物学習で買うお菓子を選ぶ。

振り返り活動で活動の写真を選んで発表する。

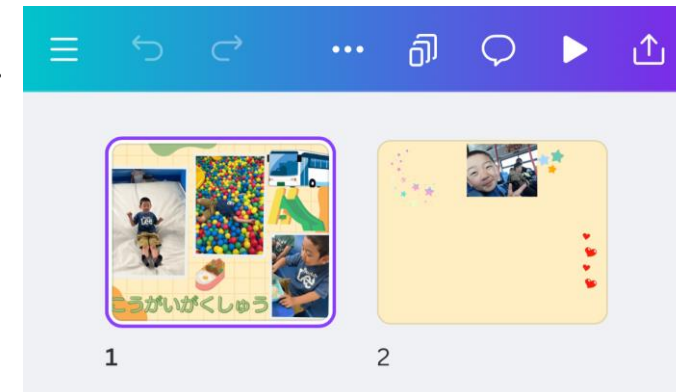


□Keynote

例) 振り返り活動で、文章や写真を選んで発表する。

□Canva

例) 校外学習のまとめ活動で、写真を選んでスライドを作成する。



活用したICT～授業研で活用したもの

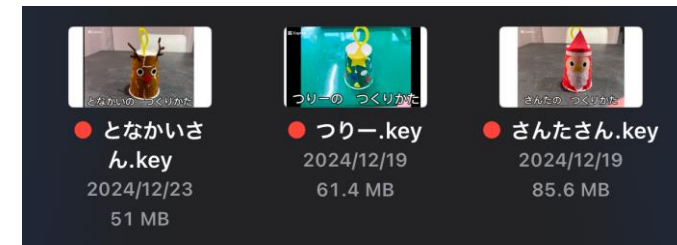
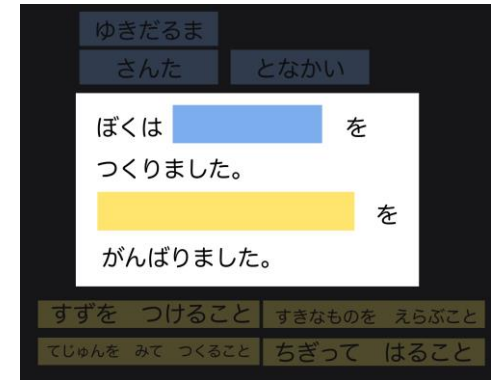
□DropTap

発表の場面で、自分が作ったデザインや頑張ったことの発表に活用した。

□Keynote

- ①発表の場面で、自分が作ったデザインや頑張ったことの発表に活用した。
- ②作り方のスライドをデザイン毎に分け、作りたいデザインを選ぶことができるようにした。
- ③振り返りの場面で、本時の目標の中で特に頑張ったことを選ぶことができるようにした。

※動画は写真フォルダに保存し、一時停止しながら見られるようにした。



成果

- 写真やイラストをタップして選択ができるようになった。
 - 買い物学習では、それぞれ好きなお菓子を購入できた。
 - 保護者に確認すると、よく食べるものだと分かった。
- 少し詳しく頑張ったことを伝えられるようになった。
 - 帰りの会で「音楽を頑張った」と発表していた児童が「音楽で〇〇を頑張った」と少し詳しく伝えられるようになった。
- 授業の中で教師と児童のやりとりが成立する場面が増えた。
 - 教師が発問すると答えようとするがオウム返しか、挙手しただけで答えられない児童が多かった。今は少しずつ欲しい答えが返ってくるようになってきた。

課題

- 場面が限定されていて、日常生活には般化されていない。
- 学年全体で選択する力は身に付いてきたが、伝える力については、まだ語彙が不足していたり、伝えようとする意欲がまだ低い児童がいたりする。
- 教師の話を聞く姿勢はよくなってきたが、友達の発表を聞く姿勢がまだできていない。

授業改善の視点から

(研究の重点について)

- 図画工作においては、作成の手順が動画・静止画・全体提示の中から児童が分かりやすいものを提示できるのでよい。
- 作品紹介の際、実際の作品を選ぶ形をとることができたのは良かった。ICTばかりに目を向けるのではなく、アナログのほうが良いこともあることを忘れずに授業に取り入れていく必要がある。
- 選ぶことや伝えることへの意欲につながるようなアプローチが不十分だった。
⇒ 「選ぶ、伝える　そして　選びたい、伝えたいへ」

結論

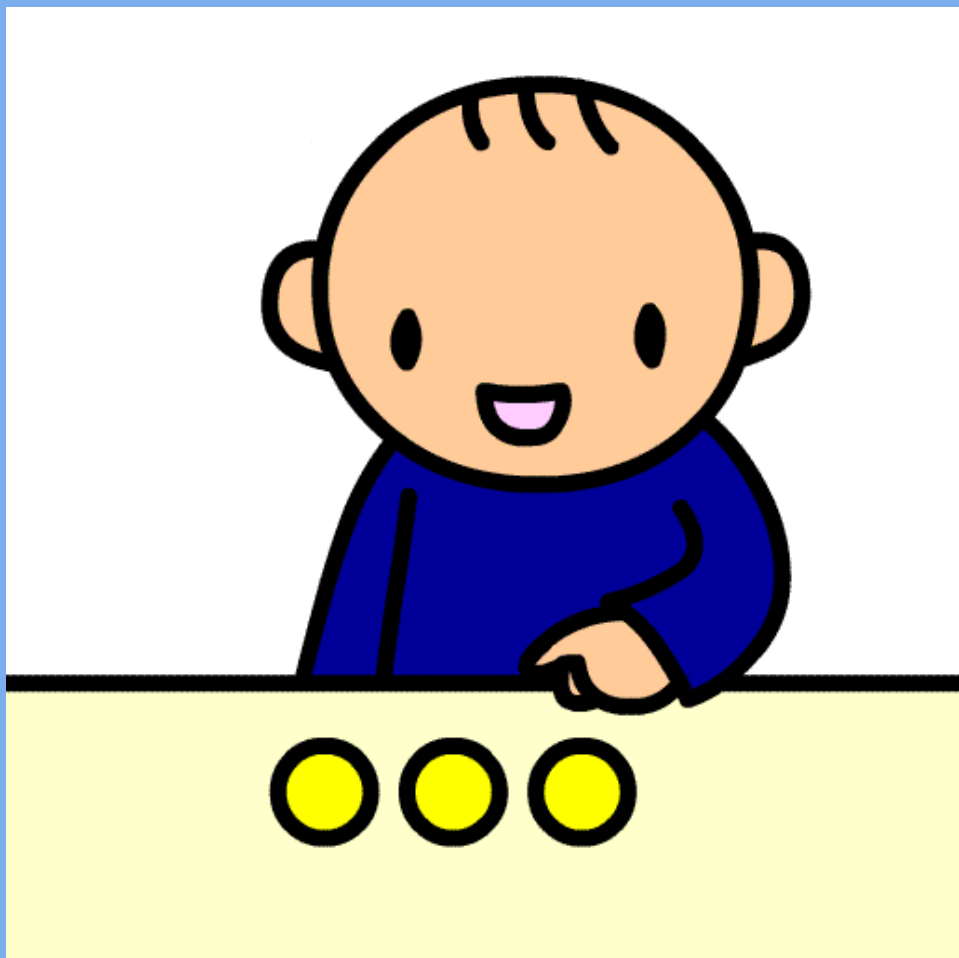
- 学年全体では、選ぶことができるようになった児童は多く、一定の成果を見ることができた。
- 一部の児童は振り返りなどの発表の場面で、より詳しく伝えることができるようになり、成果があった。
- 児童の選びたい、伝えたいという意欲につながるようなアプローチが必要。
- 継続して取り組むことで、タブレット自体の操作が上達してきた。日常生活でも活用できるようにさらに継続していくことが大切である。

ぼくは となかい を

つくりました。

ちぎって はること を

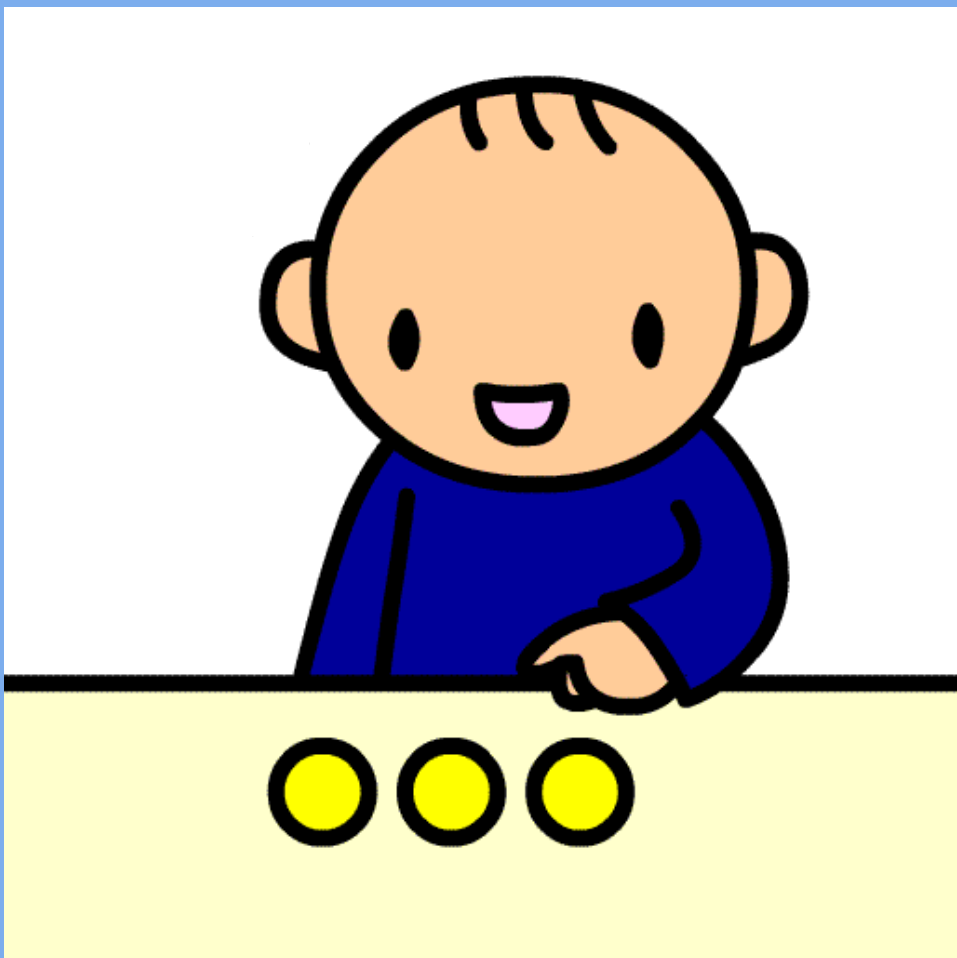
がんばりました。



すきな でざいんを
じぶんで えらぶこと



がんばったことを
はっぴょうすること



すきな でざいんを
じぶんで えらぶこと





がんばったことを
はっぴょうすること



さんた



となかい



つりー



小学部 3学年

生活単元学習

題材名「クリスマス会をしよう」



育成したい「生きる力」

(1) 理解（見通しをもつ） (2) 選択する
(3) 表出（表出手段） (4) コミュニケーション

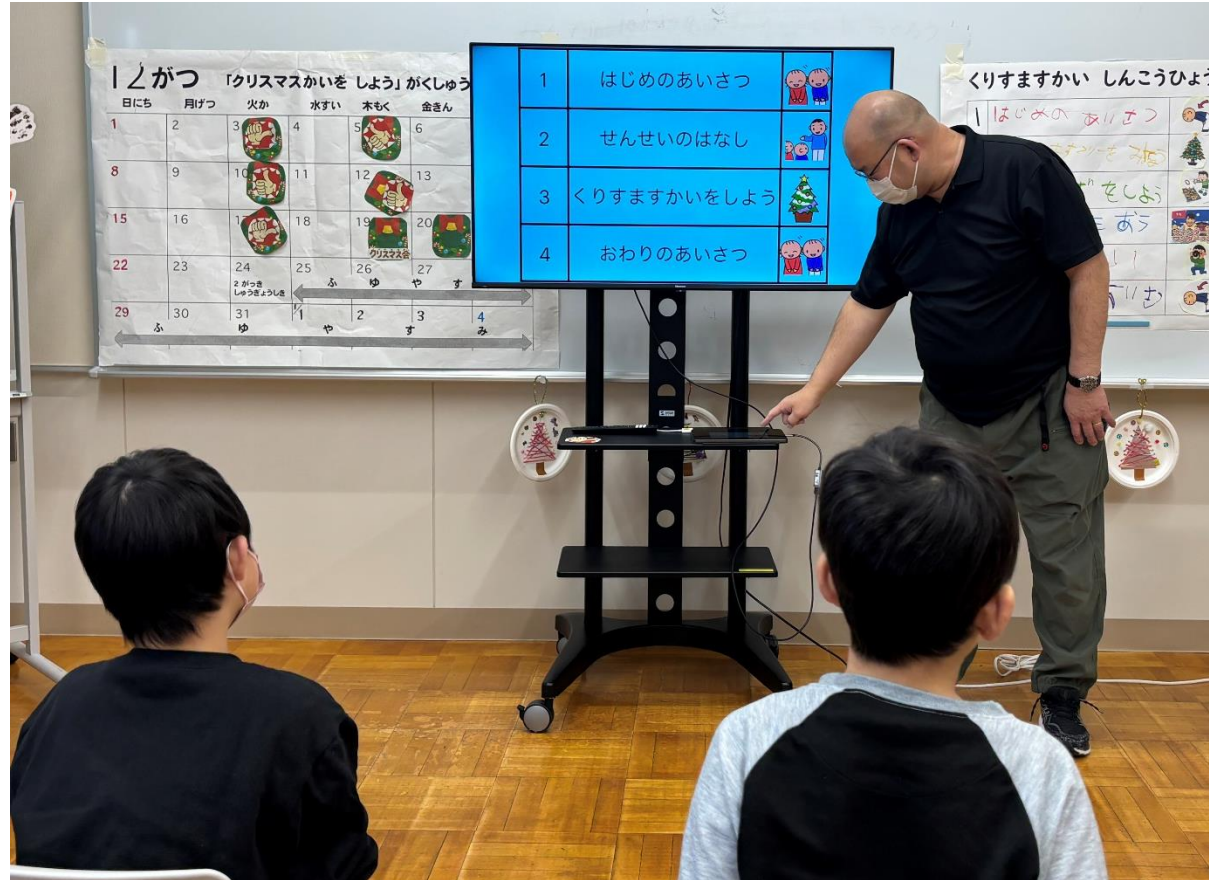
の4点を設定した。

●手立てとしたICTの活用

- (1) 本時の学習内容を文字とイラストで提示し、理解を促す。
- (2) カレンダーでクリスマス会の日時を分かりやすく提示する。
- (3) 振り返りシートを見て、友達の発表を理解する。
- (4) 画面のイラストや文字を見て、頑張ったことを発表する。

活用したICT Ⅰ

(Ⅰ) 本時の学習内容を文字とイラストで提示し、理解を促す。

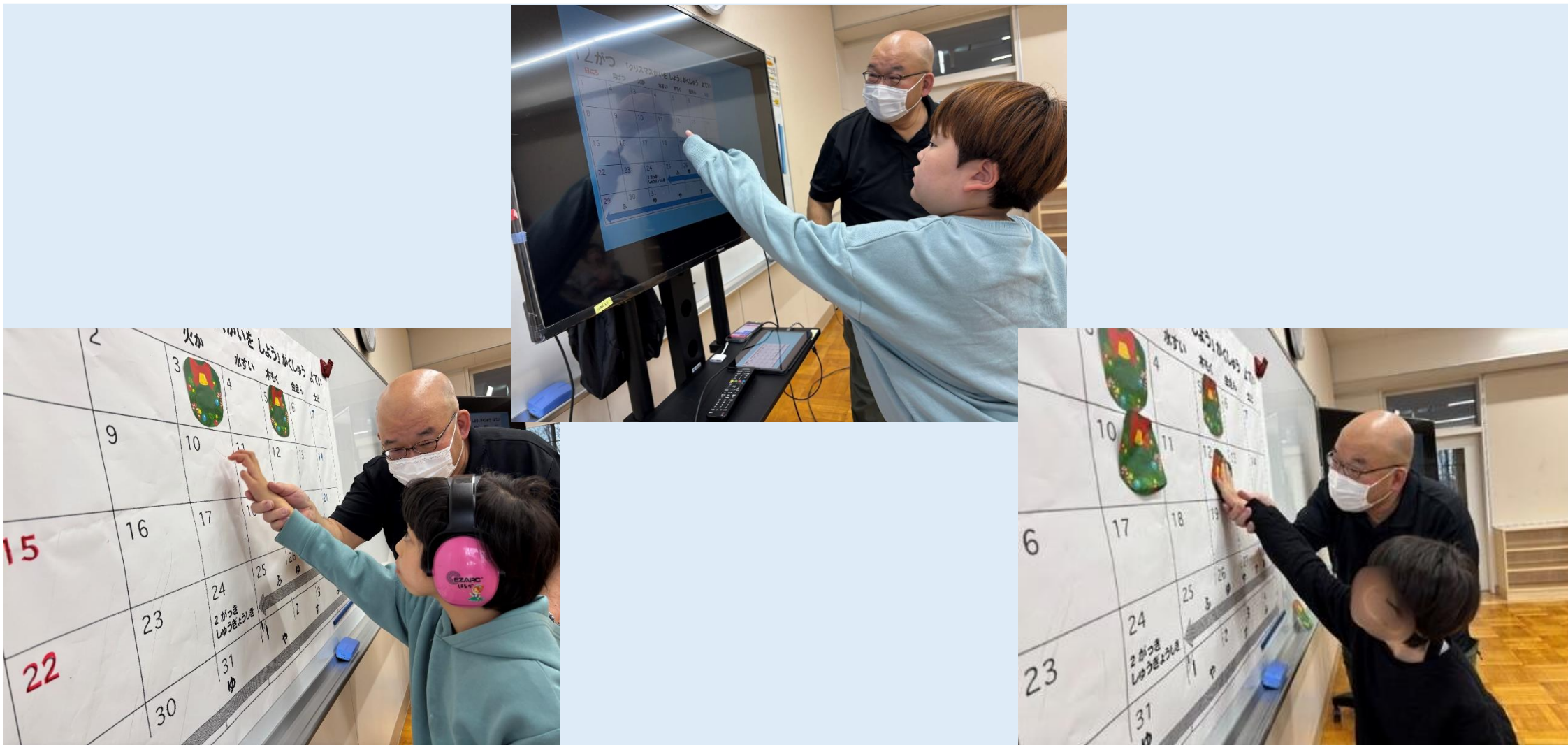


活用したICT 2

(2) カレンダーでクリスマス会の日時を分かりやすく提示する。



児童の活動の様子



活用したICT 3

(3) 振り返りシートを見て、友達の発表を理解する。



手立てとしたICTについての説明

I 共通事項

- ア keynoteを使って、本時の学習内容を文字とイラストで提示し、理解を促す。
- イ keynoteを使って、カレンダーで今日、クリスマス会の日時をわかりやすく提示する。
- ウ keynoteの振り返りシートを見て、友達の発表を理解する。
- エ keynoteの画面のイラストや文字を見て、頑張ったことを発表する。

手立てとしたICTについての説明

2 個別事項

ア 重点1 個別化

keynoteの写真を見て、楽しかったことを選んでスワイプして、ふりかえりシートを作る。

イ 重点1 個別化

keynoteの写真、文字プレートを見て、楽しかったことを選んでスワイプして、ふりかえりシートを作る。

ウ 重点2個別化

ふりかえりシートを早く作り終えた児童は写真フォルダから思い出の写真を選んで貼り付ける。

- クリスマス事後学習では、**Keynote**を活用した。
- 1学期に**Pages**（ペイジズ）を利用して、目標シートを作成したが、データフォルダを開いて画像や文字テンプレートを選択してシートに記載するため、タブレット端末の操作手順がやや複雑だった。
- Keynoteは画面に映っている写真や文字テンプレートを画面でスワイプしてシートを作成することができた。

Pages

こうがいがくしゅう
がんばったしーと

なまえ みうら ゆうか

いつ 10がつ 18にち きんようび

どこ



がんばったこと



べすとしょっ



Keynote

 **くりすますかい
ふりかえり しーと**

たのしかったです

「ういんたー・わんだーらんど」が
たのしかった

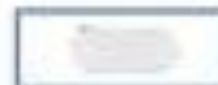
うたをうたったのが たのしかった

げーむ・うたの かかりが
たのしかった

しかいが たのしかった

つりーかかりが たのしかった

わなげが たのしかった



あれん

けいご

ゆうか

Keynote



くりすますかい
ふりかえり しーと



たのしかったです

ゆうか



るい

けいご



はるか

児童の活動の様子



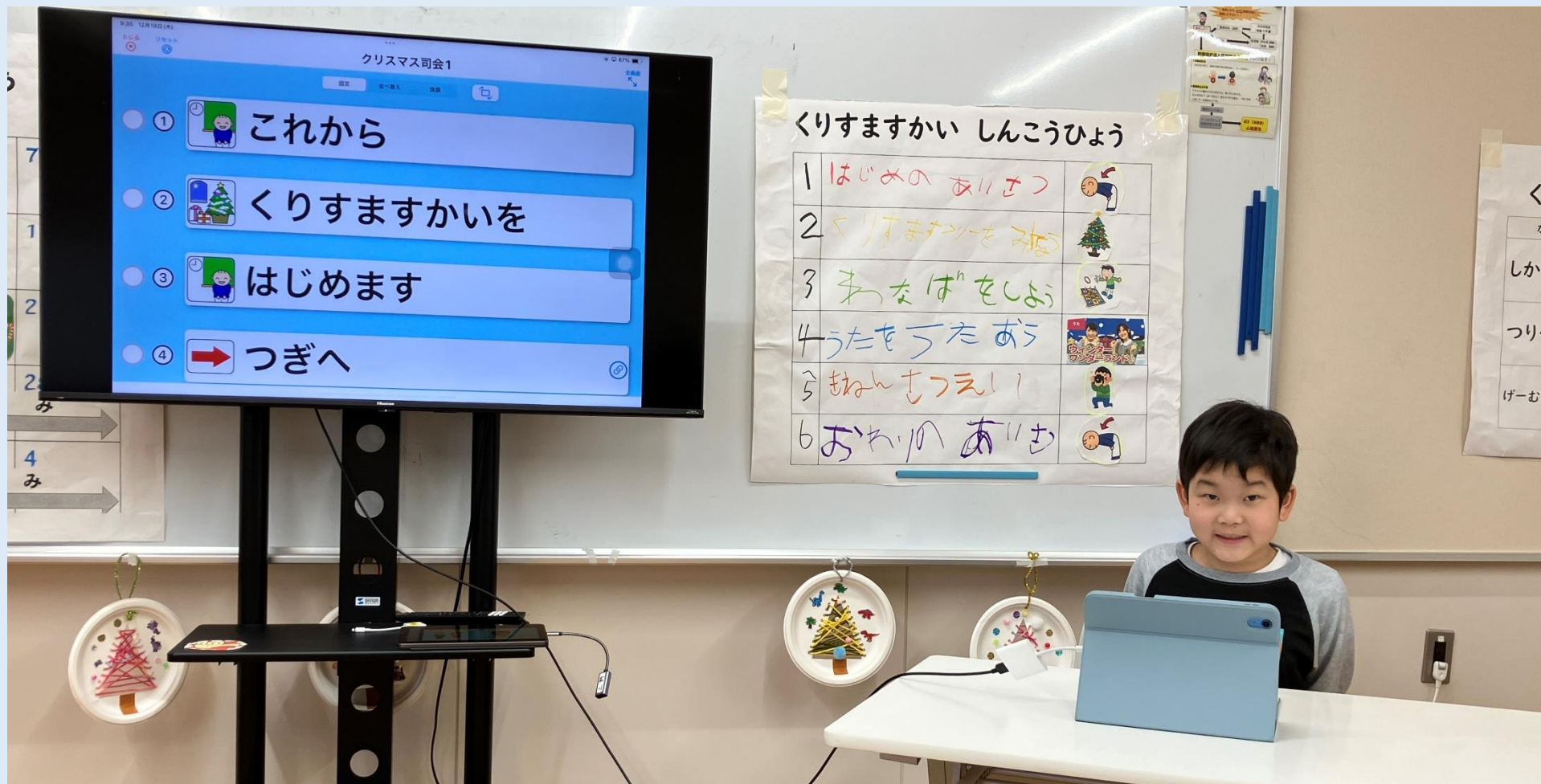
児童の活動の様子



児童の活動の様子



児童の活動の様子



成果

- ・ 活動の流れを理解することで、学習に興味を持ち、積極的に挙手し、発表しようとする様子がみられた。
- ・ 自分の体験を思い出しながら、振り返りシートにまとめ、発表することができた。
- ・ 繰り返し、打ち合わせを設けることで授業の共通認識ができ、TTがうまく機能していた。

課題

- ・ 本時の目標について、具体的に提示すること。
- ・ ワークシートのレイアウトが、縦、横バラバラだった。
- ・ ワークシートの情報量が過多だった。
- ・ ワークシート作成の過程を他の児童にも共有できるとよい。

今後の方向性

- ・ 本時の目標について、「がんばる」だけではなく、「大きな声」や「みんなの方を向く」など具体的に提示すると、より明確になる。
- ・ ワークシートの枠が横だったが、縦の写真もあり、こだわりの強い児童だと拡大しにくくなるため、レイアウトも工夫する必要がある。
- ・ ワークシート作成の際は、文字や画像の情報量を減らし、操作しやすいデータを作成する。
- ・ 工夫するする力の育成のため、ワークシート作成の過程を他の児童にも共有できるとよい。

授業改善の視点から

(個別最適な学びについて)

成果

- ①児童が見通しを持って活動に取り組むことができた。
- ②自分が経験したことを思い出してまとめ、意欲的に発表することができた。
- ③児童が発言しやすい環境作りをすることができた。

課題

- ①ICTでのわかりやすい、提示の仕方、操作しやすい位置。
- ②入力、タブレット操作の補助具の用意。
- ③児童の実態に合った、タブレット操作の指導方法。
- ④ワークシートの情報量の最適化。

結論

- (1) 理解（見通しをもつ） (2) 選択する
(3) 表出（表出手段） (4) コミュニケーション

4点の目標について、達成することができた。

- ・ 今回の単元だけではなく、自立活動や他教科と連携しながらICTの活用を進めていくことが大切だと考える。
- ・ デジタル一色になるのではなく、デジタルとアナログのハイブリットを進めていけたらよいと考える。

R6年度 校内研究

小学部 4 学年

生活単元学習

単元名「調理 ホットケーキをつくろう」

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

- イメージを持って活動→お手本の動画を用意
- 目標と自己評価をする→自己肯定感を上げる
- 自分で選択する

表出

受け入れる

題材の理解

具体的取組みの理解

振り返り
次回に向けて

選択、表出手段

参加度アップ

自分で

自分の体調や現在の調子を相手に伝えることができる

中村彩奈

人に伝わるように伝える

土田毅

挨拶などのコミュニケーション力

Kenji Kimura

自己選択、自己決定の機会

自分の気持ちを伝える力

Kenji Kimura

困った時に助けを求められる

大辻知衣

困った時に助けを求められる

中村彩奈

報告する

1人でできることを増やす

土田毅

自分でスケジュールや持ち物移動場所などを管理できる

中村彩奈

自分で調べる

中村彩奈

授業の参加度をあげる(手を挙げるだけではない)

湯藤瑞代

最後までやり抜く力

大辻知衣

相手の意見を受け入れる

融通をきかせる

変更を受け入れる力柔軟性

自分のやりたいことと、やるべきことの折り合いをつける

Kenji Kimura

集団(周り)に合わせて動くことができる協調性、柔軟性

大辻知衣

導入場面のスライドや動画〜興味関心

アプリを活用することで抽象的な事柄を可視化したり数値化してわかりやすく伝えられる

土田毅

そのために考えられる「ICT活用」とは

情報を仕入れたり、わからないことをその場で調べる

土田毅

手順書や工程表の可視化

Kenji Kimura

手順書

中村彩奈

イラストや音声があることで気持ちの表出がしやすくなる今の自分の気持ち、状況の理解がしやすくなる

大辻知衣

簡単な操作で入力が可能絵日記、ワークシートなど

大辻知衣

キーボードで打ち込むことで意思を表出する

ドロップタップで気持ちややりたい事を表出する

中村彩奈

教師が提示した選択肢から、選ぶ。選択肢は写真、イラスト、実物など本人がわかるように。選んだ後、調整(2人ずつのグループなど)

湯藤瑞代

いくつかの選択肢から選ぶ

大辻知衣

参加度アップ

実態に応じて、スライドなども使用する事で、参加度アップができる

中村彩奈

スケジュールや持ち物、移動場所などを自分で管理する

中村彩奈

zoom等でのリモートでのやりとり

Kenji Kimura

写真や動画で記録

Kenji Kimura

作文や観察日誌などのテキスト化〜修正がラクに

Kenji Kimura

振り返り動画

Kenji Kimura

友達の作ったものなどを鑑賞する。

湯藤瑞代

本単元では

理解、受け入れ

全体提示

- 題材の理解
- 具体的取り組みの理解
- 評価ポイントの理解

個別のICT

- 動画を見て振り返り

自分で

個別のICT

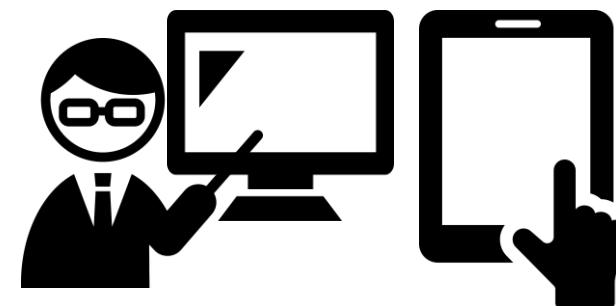
- 調理時の手順書活用

表出

個別のICT

- 自己選択して評価
- ワークシートを基に発表

などの部分でICTを活用



活用したICT：keynote



理解、受け入れ

自分で

表出

- 調理する際のポイントを全体に提示
- ポイントを押さえないとどうなるか教師の演示を動画で提示
- 手順書内にポイントをわかりやすく提示



活用したICT：keynote

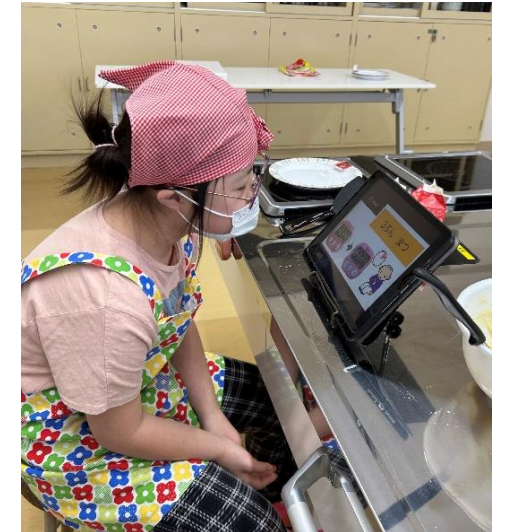


理解、受け入れ

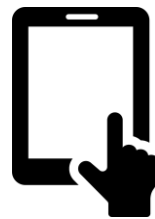
自分で

表出

- 調理時の手順書の活用



活用したICT：finger board



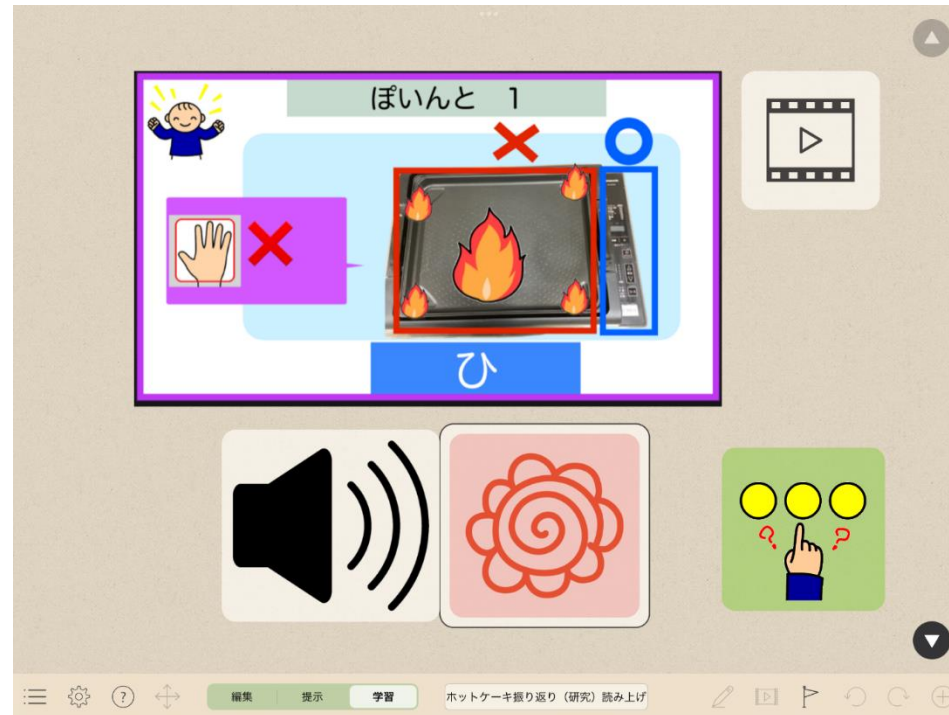
理解、受け入れ

自分で

表出

メリット

- タップすると選択肢が出る。
- 選んだものをドラッグする途中で、編集されることがない。
- 自分のタイミングで動画を確認できる。
- 読み上げる機能があるので、発語が難しい児童も自分で発表ができる。





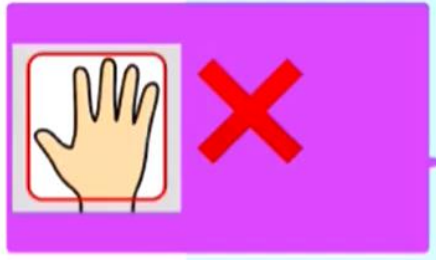


ぽいんと 1

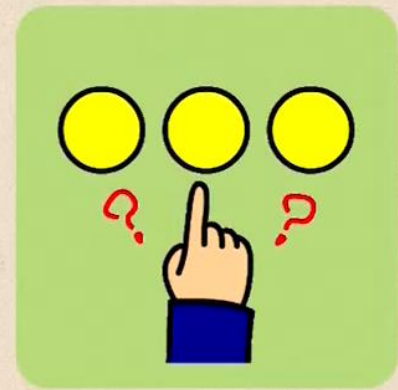
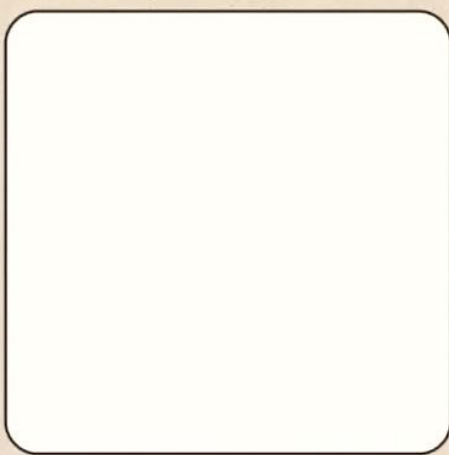
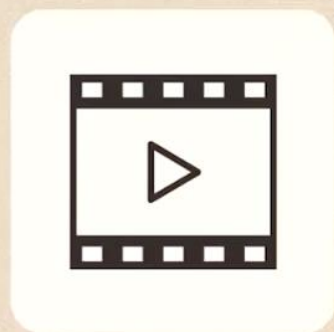








ひ





成果と課題

理解、受け入れ

自分で

表出

成果

- ポイントを提示したことで、児童が気をつけることを理解して調理に取り組むことができた
- 失敗した様子の動画を提示したり、手順書にポイントを明示することで、児童がポイントを意識して調理に取り組む様子が見られた

課題

- デジタルの全体提示だけではなく、アナログの教材も組み合わせて活用し、大事なポイントは常に参照できるように提示するとよかった

成果と課題

理解、受け入れ

自分で

表出

成果

- 操作しやすい手順書を活用することで自分で取り組める部分が増えた
- ミキサー等を活用することで肢体不自由の児童も参加出来る部分が増えた
- Finger boardを振り返りで活用したことで、自分で動画を確認し自己評価をすることができた

課題

- 今後は自分で調べる等の活動を通して、手順書を作る部分も自分で出来るようになるとうい

成果と課題

理解、受け入れ

自分で

表出

成果

- Finger boardを使うことで、自己評価の選択がしやすくなった
- 動画を自分で参照できることで、正当な自己評価を行うことができた

課題

- タブレットのタップが難しい児童には、スイッチ教材の使用を検討する
- 選択肢から選んで表出することができるようになったので、選択肢以外から表出できるようになるとよい

成果と課題

授業改善の視点から（研究の重点について）

成果

【個別最適な学び】

- アナログ（実物を提示、操作できる）とデジタル（選択しやすさ、動画を提示）の両方の良さを取り入れ、児童の実態に応じて使い分けることができた

【協働的な学び】

- 一人一台端末を活用し、自己評価と発表を行う事で友達の発表を手本として同様に発表することができた。

結論

「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。」（研究仮説）

- ICTを活用して評価ポイントを具体的に示すことで、児童がポイントを**理解**して活動に向かうことができた。
- ICTの手順書を活用することで、容易に操作ができ、**自分**で調理に取り組むことができた。
- 児童が1人1端末を操作しワークシートを作り発表することで、自己の姿を正しく評価し、**表出**することができた。

=当該学年で育成を目指す「生きる力」を育むことができた

小学部5.6年

生活単元学習

題材名「おしごとたいけん」



育成したい「生きる力」

- * きまり

- * 意思表示

- * コミュニケーション能力

- * 自立

目標

【知識・技能】

- ・お仕事体験の内容を振り返り、自分が行った活動を答えることができる。

【思考・判断・表現】

- ・タブレット端末を使って、頑張ったことを伝えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・仲間と協力して、発表することができる。

活用したICT



①タブレットで動画を見る。

⇒ いつ、どのように報告するのかを動画で確認。

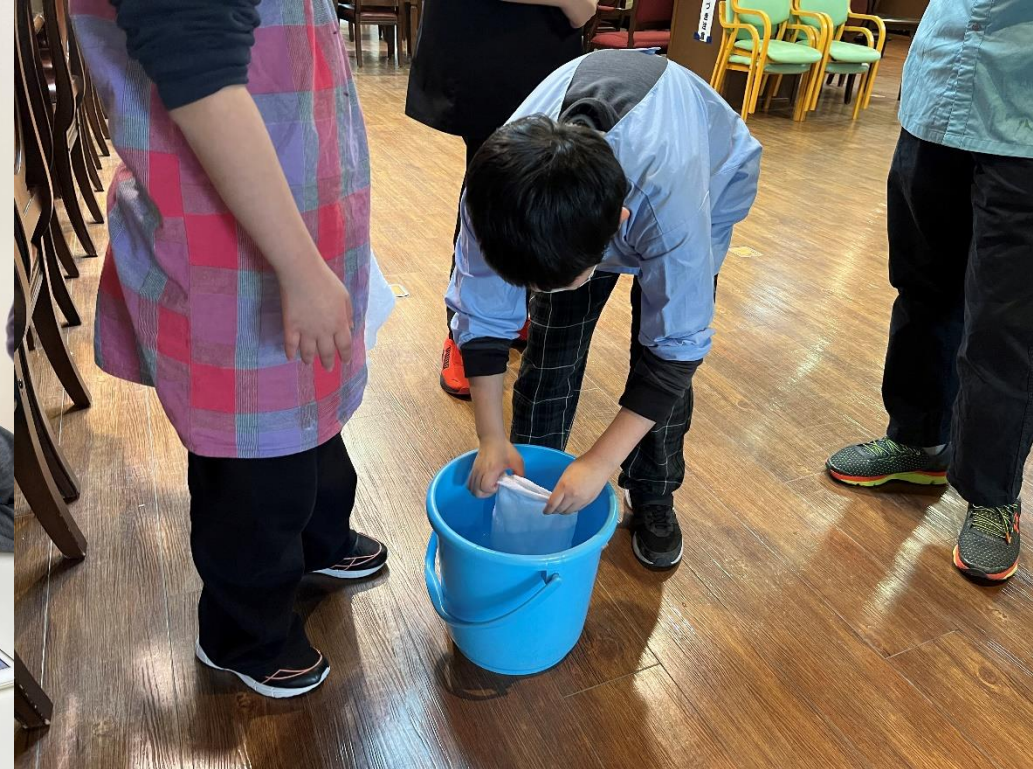
②活動の様子を撮影・振り返り

⇒ 自分の取り組み内容を「動画」で確認。

③自己評価

⇒ 自己評価で自身の活動を振り返る、実態に応じた発表を行う。



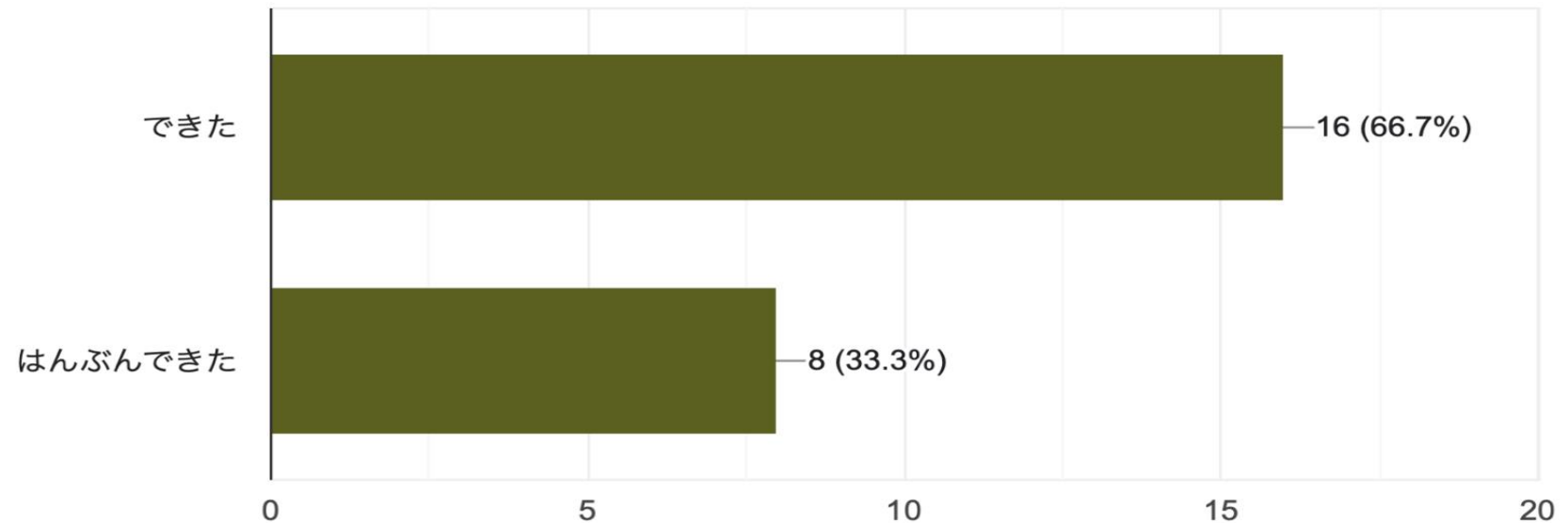


Formsを使用した児童の自己評価

ぜんたい

「おしごと」をじかんいっぱいできましたか？

24 件の回答

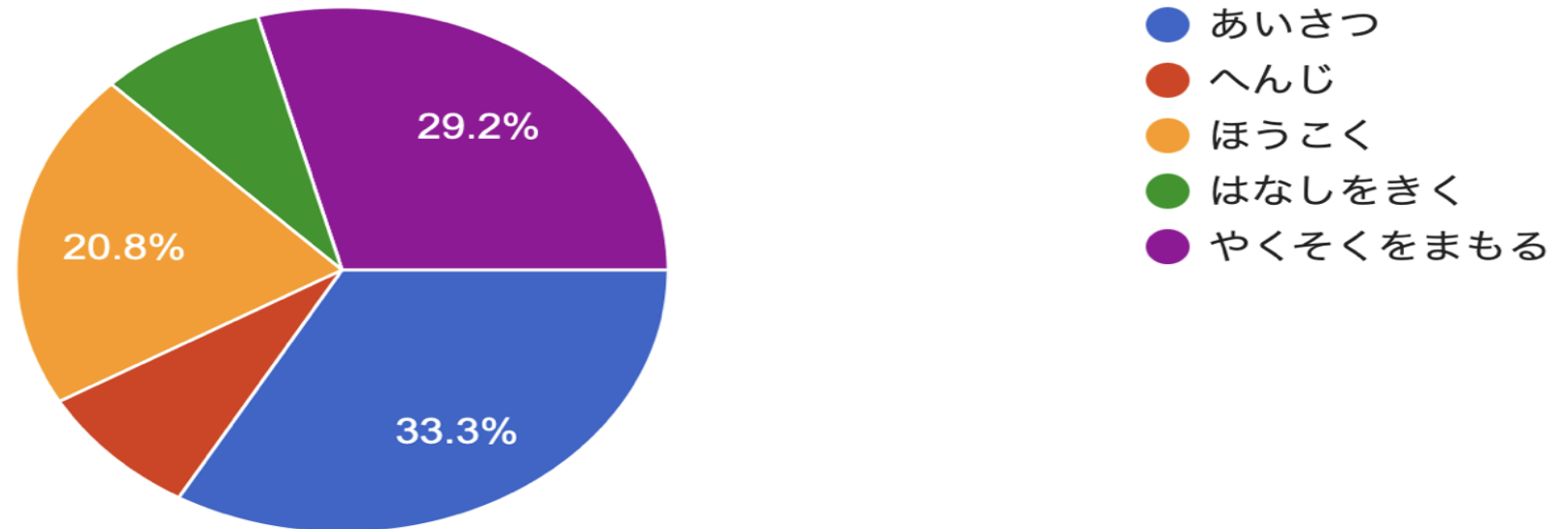


Formsを使用した児童の自己評価

ぜんたい

つぎのおしごとたいけんでがんばりたいことはなんですか？

24 件の回答



成果（事前学習）

- ＊仕事内容を動画で確認したことで見通しを持って授業に参加することができた。
- ＊校内で、事前練習に取り組む際、スムーズに作業に臨むことができた。
- ＊毎回、自己評価をすることで、自己理解だけでなく、次回の学習への意欲を持たせることができた。
- ＊自らタブレット端末に触れ、QRコードを読み取ったり、楽しみながら入力をすることができた。

成果（当日・事後学習）

- *動画や事前学習での確認を何度もしたことで、体験先でも、不安感を抱くことなく、スムーズに作業することができた。
- *自己評価をすることで、当日への意気込みや目標を明確にして取り組むことができた。
- *自らタブレット端末に触れ、スライドを編集することで、達成感だけでなく、自己成就感を味あわせることができた。
- *ICTを使用したことで、発表することが難しい児童も発表することができた。
- *休んでいた児童の分を、他の児童が発表できていたことが良かった。

課題

- ▲ 児童が目標の理解をできていたのか
- ▲ アナログとデジタルの使い分けについて
- ▲ 自動音声の良さと実態について

【知識・技能】

- ・ お仕事体験の内容を振り返り、自分が行った活動を答えることができる。

【思考・判断・表現】

- ・ タブレット端末を使って、頑張ったことを伝えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 仲間と協力して、発表することができる。

授業改善の視点から

(研究の重点について)

◎成果

- ・児童が見通しを持って取り組める単元となった[個]
- ・見通しを持てたことで、意欲的に取り組めた[個・協・自]
- ・実態に応じた発表方法の工夫がなされていた[個・自]

▲課題

- ・ICTのよさとアナログのよさとの棲み分け
- ・ねらいの意識付け
- ・自立活動の目標が全員同じではないと、自活の視点から展開することがなかなかむずかしいような。

結論

「概ねできたと考える」

【成果】

- ・ICTを使用したことで、発表することが難しい児童も自ら発表するなど、積極的に活動に取り組むことができた。
- ・「コミュニケーション」の幅は広がった。

【課題】

- ・ICT頼みにするのではなく、ICTの良さとアナログの良さ、実態に応じた手立てが必要である。

第 3 章

中学部の研究



中学部 Ⅰ学年

生活単元学習

題材名「クリスマス会をしよう」

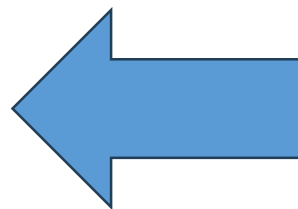
育成したい「生きる力」

- 意思表示
- 助けを求める
- 自立
- きまり
- 余暇の充実
- 気持ちの安定
- コミュニケー

ションα

情報活用能力

その中でも今回は
3つと1つの視点
について
取り組みました。



中学部1年生の生徒にとって「生きる力」とは



育成したい「生きる力」と本単元の関わり

【学年で育成したい
「生きる力」】

・ 意思表示

・ コミュニケーション

・ 自立

・ 情報活用能力

【知識・技能】

- ・ クリスマス会の内容や自分の役割を知ることができる。
- ・ 文字入力や写真の撮り方、イラストの保存方法を知ることができる。（情報）
- ・ 検索機能を使い、クリスマスに関する情報を得ることができる。（情報）

【思考・判断・表現】

- ・ 作成物についてイメージを持ち、タブレットを使い自分ができる方法で表現する事ができる。（意思）
- ・ スライドや音声再生機能を活用して、クリスマス会を進行する事ができる。（意思・コミュ・自立）
- ・ イラストや写真を活用して、クイズやスライドをより伝わりやすくする事ができる。（情報）

【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 役割を担い、他者と協力しながらクリスマス会の準備をすることができる。
- ・ 準備で作成した物を活用し、自分たちで友達や先輩達にクリスマス会の内容やクイズの内容を伝えることができる。（意思・コミュ・情報・自立）

育成したい「生きる力」に関わるグループ分け

クイズグループ

コミュニケーション

写真やイラストを使い、伝わりやすさを意識してクイズやスライドを作ろう。

情報活用能力（発展）

必要な画像と情報を入手しよう。

入手した画像と情報を活用しよう。

司会グループ

自立

自分で手順を確認しながら飾り作りやラッピングをしよう。

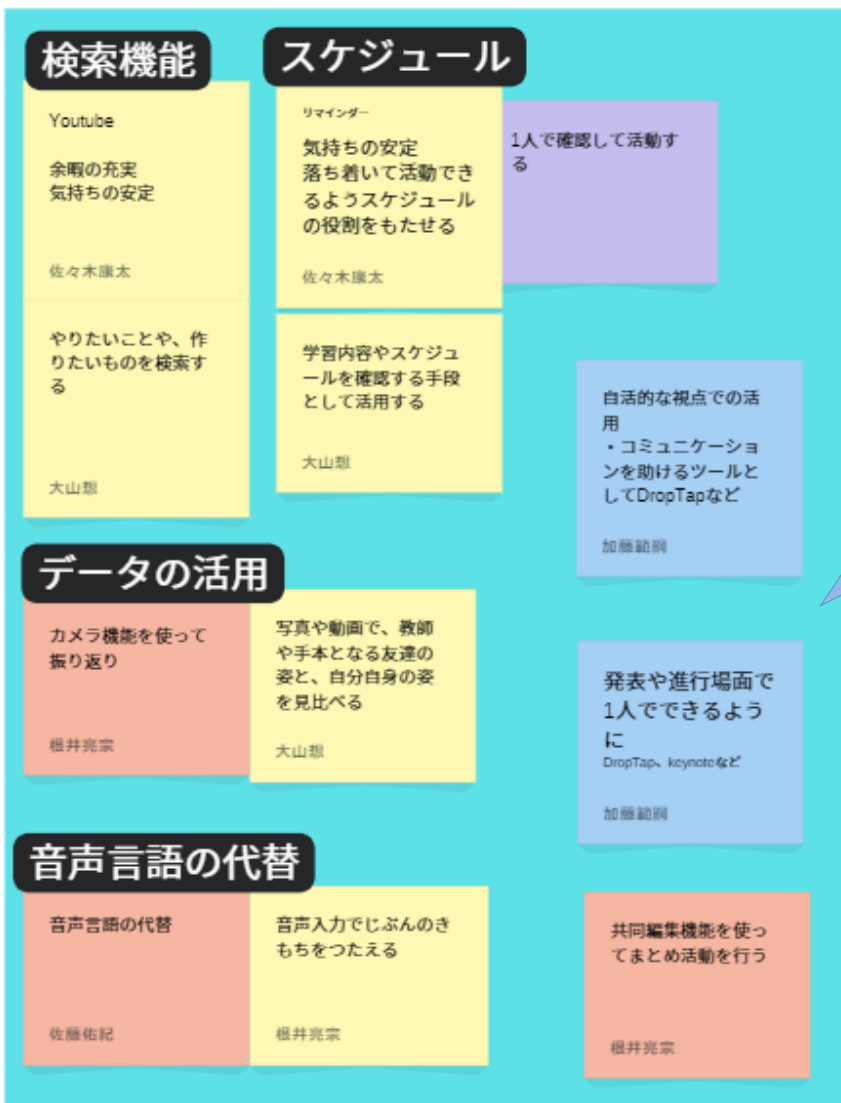
スライドの操作をしたり、音声再生したりして、1人で司会をしよう。

意思表示

好きなものや伝えたいこと、理解したことを写真やイラストを選択し、表出しよう。

本単元のICT活用

そのために考えられる「ICT活用」とは



・ コミュニケーション

共同編集 (Canva)

・ 意思表示

音声代替 (Canva Drop Tap)

自己選択 (Kahoot!)

・ 自立

スケジュールリング(keynote Drop Tap)

+ α 情報活用能力の視点

検索、収集したデータの活用
(Safari)

活用したICT(クイズグループ)情報活用能力



生徒の活動①



Kahoot! でクイズの作成
クイズに合う画像を入手
し、アプリ内に挿入する。
問題作成に必要な情報を検
索する。

活用したICT(クイズグループ)情報活用能力



生徒の活動②



アンケートの作成・集計
文字のみでできているアンケートに画像やイラストを挿入し、みんなが見やすくなるようにする。



生徒の活動③



説明スライド作成

文字のみのスライドに、文字サイズや色の変更、画像の挿入などの編集を加え、より伝わりやすくする。

活用したICT(クイズグループ)コミュニケーション



生徒の活動④



説明やクイズ進行の練習
解答役を相手に、伝わっているかを意識しながら説明やクイズ進行をする。

活用したICT(司会グループ) 意思表示



生徒の活動①

プログラム作り

共同編集で、自分の役割を理解してプログラムを作る。入れたい画像を選択する。



活用したICT(司会グループ) 意思表示



生徒の活動②



動く掲示板作り

背景の色や、入れたい画像を選択する。画像にアニメーションをつける。



活用したICT（司会グループ）意思表示



生徒の活動③



好きなもの・作りたいものを
選ぶ

食べたいお菓子、飲みたい
ジュースを選択する。
作りたい飾りを選択する。



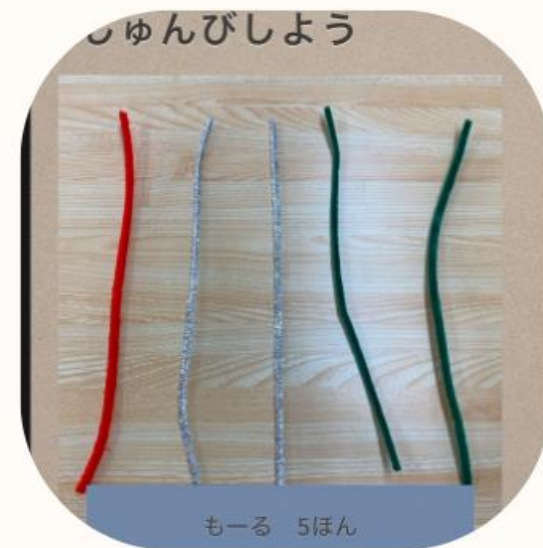
活用したICT(司会グループ) 自立



生徒の活動④



自分で確認してやってみよう
自分の進度に合わせてスライ
ドやドロップタップを操作
し、手順を確認して作業を行
う。



活用したICT(司会グループ) 自立



生徒の活動⑤



1人で司会をしよう
ドロップタップやキ
ーノートを活用して
一人で司会をする。



生徒の変容

クイズグループ

コミュニケーション

写真やイラストを使い、伝わりやすさを意識してクイズやスライドを作ろう。

情報活用能力（発展）

必要な画像と情報を入手しよう。

入手した画像と情報を活用しよう。

写真やフォントの太さなどを工夫して相手に伝わるようなスライドを作るができた。

キーワード検索を行うことで画像やクイズに必要な答えを得ることができた。

収集したデータを活用してスライドやランキングを制作することができた。



1, 2年生が選ぶ 食べたいお菓子

人気ランキング	
1位	キットカット
2位	グミ ぱりんこ
3位	クランキー

生徒の変容

司会グループ

自立

自分で手順を確認しながら飾り作りやラッピングをしよう。

スライドの操作をしたり、音声再生したりして、1人で司会をしよう。

意思表示

好きなものや伝えたいこと、理解したことを写真やイラストを選択し、表出しよう。

自分で手順書を見て飾りつけやラッピングを行うことができた。

タブレットに入っている手順を確認しながら1人で司会を行うことができた。

好きなものや行いたい活動を顔写真を動かして自己選択することができた。



クイズグループ

コミュニケーション

写真やイラストを使い、伝わりやすさを意識してクイズやスライドを作ろう。

情報活用能力（発展）

必要な画像と情報を入手しよう。

入手した画像と情報を活用しよう。

学年研での成果と課題

伝わりやすくするためにフォント工夫しようしたり、画像のサイズを大きくしたりと意欲的な様子が見られたことは大変良かった。

根井亮宗

自分で調べた画像を保存し、クイズの資料を作成することができた

佐々木康太

問題を作成するときに、生徒が自分で考えるために教師が多くのヒントを提供した。

佐々木康太

情報モラルや情報リテラシーの部分も併せて指導していくとさらによい。

根井亮宗

公開研後の研究協議より

タブレット、言語、カードなど、目的を達成するための手立てとして活用することができていた

それぞれの生徒が活躍できるよう、明確な役割分担がなされていた。

ICTを使ったことで生徒が主体的に行動し、授業を作り上げていた。

成果

・相手に伝えるためにICTを使い、情報を収集・編集し、データを活用しながら主体的に活動する様子が見られた。

課題

・数多くある情報の中から正しい情報へ導くための指導が重ねて必要である。

司会グループ

自立

自分で手順を確認しながら飾り作りやラッピングをしよう。

スライドの操作をしたり、音声再生したりして、1人で司会をしよう。

意思表示

好きなものや伝えたいこと、理解したことを写真やイラストを選択し、表出しよう。

公開研後の研究協議より

バギーの生徒さんがICTの活用によってメリークリスマスと言って周っていたのが活躍の場となっていた。

カフートの回答の際に、実態に合わせた手立てが見られた。

ICTを使ったことで生徒が主体的に行動し、授業を作り上げていた。

学年研での成果と課題

発語がない生徒が、スイッチを使うことによって、代替手段として活用できた。

佐藤佑紀

子供たちが自分で取り組めるよう教材が準備されていた

戸坂有紀

教材の準備はできていたが、生徒が1人で取り組む中で教師のサポートをさらに行うことでより学びを深めることができたと感じた。

戸坂有紀

タブレットを見るための書見台やスタンドを使う必要性を感じた。環境設定の準備の必要性があった。

佐藤佑紀

日常的な活用が単元での学習にも生かされた

加藤範嗣

イラストの選択や、顔写真の移動で自分が選択した活動に取り組んだことは、今後の選択の場面に活きてくると思う

大山想

タブレットを見ながら飾り作りやラッピングに取り組みましたが、難しい作業もあった。そのため、生徒の実態に合わせた作業内容を設定すべきであった。

大山想

写真やイラストを選択したり、自分の顔を移動させて選択したりする際に、生徒の意思がどのように反映されているかをもう少し具体的に知る方法があればよかった。

大山想

成果

・ICTの活用により、生徒が主体的に行動し、多様な手段で意思表示を行うことができたので活躍の幅が広がった。

課題

・生徒の実態に合わせたサポートや環境設定、作業内容の調整が必要。

授業改善の視点から (研究の重点について)



- 1.発語が少ない生徒の意思表出
- 2.新たな役割や活動の実現
- 3.自主的な活動の促進
- 4.支援機器やスタンド等の整備の必要性

授業改善の視点から

【個別最適な学び】【協働的な学び】や【自立活動の視点】を取り入れ、ICTを活用したことで、得られた成果や課題、または気づいた点などあれば

ドロップタップを使うことで、発語が少ない生徒が意思を表出することができ、司会進行を行うことができていた。

佐々木康太

生徒によってはICTを使うことによって今までできなかった役割や活動ができるようになったことはとても良かった。

根井亮宗

個々に必要な手立てで自主的に活動できるようになってきている

戸坂有紀

ICTを活用することは、発語の代替手段として活用できるようになってきた。支援機器やスタンド等の整備の必要性を感じました

佐藤佑紀

生徒によっては意思表示、コミュニケーションの手段として適していた（ドロップタップ）。

加藤範嗣

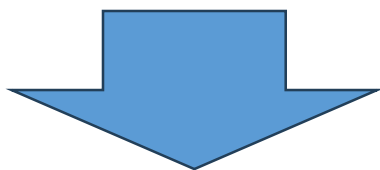
同じツールを使っているけど、実態に応じて手立てを変えることで、自主的に活動を行うための補助としてICTを使うことができた。

大山想

結論



1. 検索力・発表力の向上
2. 達成感の向上
3. 活動の多様化、学習の幅の広がり
4. 意思表示とコミュニケーションの向上
5. 自立と意思表示の力の育成



当該学年で育成を目指す
「生きる力」を育むことができた

研究を通して

「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。」（研究仮説）
＝当該学年で育成を目指す「生きる力」を育むことができたか

生徒自身の興味関心があるものをタブレットを活用して検索する力を身につけることができた。今後はクリスマスのことだけではなく、他分野でも活用していきたい、さらにはタブレット以外の方法でも情報収集できるようになっていければ良いと思う。

佐々木康太

自分で発表できるようにタブレットを使ってきたことで、自分の言葉と音声言語を合わせて1人でも取り組めるようになった。タブレットを使うことを理解して自分で用意することができた。

戸坂有紀

代替手段としての活用することによって、発語がなくてもみんなと同じような取り組みができるという達成感につながったと思う。ICTだけを使うことにかたよらないよう代替手段を使わなくてもできる活動の保証も大切だと思いました

佐藤佑紀

ICTを使うことによってできないことができるようになったり、学習の幅が広がった。その結果、意思表示やコミュニケーションといった力を育み、主体的に学びかけになったと思う。

根井亮宗

ICTの活用を通して、一人で司会をしたり、伝えたいことを選択したりするなど、生徒の自立や意思表示といった力を育むことができたと感じている。

加藤範嗣

中学部 2学年

音楽科

題材名「冬の音楽」

育成したい「生きる力」

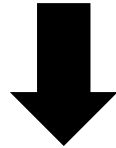
学年研で出し合った「生きる力」
の中で、特に焦点を当てたこと

【R5年度】

- 自分のことは自分で行うこと(=自分で準備・片付けを行う)
- 他者に伝えること、コミュニケーション能力(=タブレットや音声を使用して相手に伝える)

【R6年度】

『自分の意思を明確に分かりやすく表出する力』

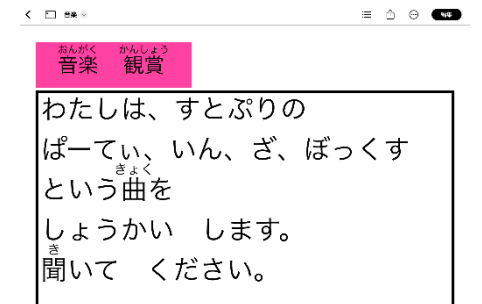
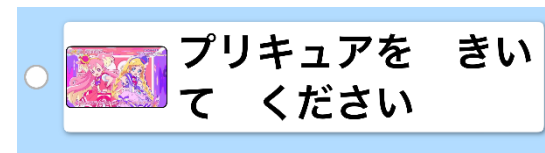
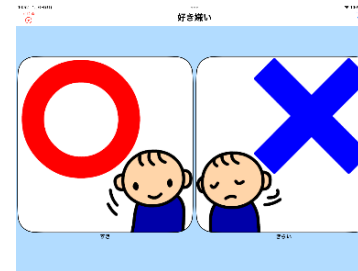


意思の具体化(イラスト、写真、文字)を図り、選択肢から自分の意思に合うものを選んで選び、表現する。

活用したICT

そのために、どんなICTをどのように
に用いたか

- ・アプリ(Canva、DropTap)を活用して、鑑賞(音楽)の感想を具体的に表出する。
→自分と友達との意見の相違、同調に興味や関心を高めながら。
- ・アプリ(DropTap、Pages)を活用して、鑑賞曲についての説明や発表をみんなの前で行う。→タブレットで鑑賞曲を検索し、画面収録したものを事前に準備。
- ・アプリ(Canva)を活用して、学年での学習(音楽)の振り返りを行い、自分の気持ちを具体的に表出する。



成果①

目的（「生きる力」の育成）に対する成果について記入
＊学習指導略案「学習の様子」を活用してください

①「どっち？（好き、嫌い）」「どこが？（踊り、演奏、歌）」の選択

- ・鑑賞後、タブレットを手に「どっち？」「どこが？」の選択を意欲的に行う生徒が大半。
- ・繰り返し行うことで、主体的な選択行動が定着。
- ・教師が選択項目について個別的に補足することで、明確に選択できるようになったり、考えをまとめて素早く選択したりできるようになった生徒が増えた。
- ・「好き」「嫌い」の意味理解や、選択自体の行動目的を理解することが難しい生徒については、DropTapアプリを補助的に活用することで、「○好き」「×嫌い」のイラストへの注目が増し、何度か選択を促すことで、目的ある行動へとつながられるようになってきた。
- ・「踊り」「演奏」「歌」の選択肢を視覚的に分かりやすく示すことで、3つの視点に沿って考えながら鑑賞しようとする姿が多く見られるようになり、以前よりも鑑賞への注目度が高くなった。



成果②

目的（「生きる力」の育成）に対する成果について記入
＊学習指導略案「学習の様子」を活用してください

②選択理由の表現

- ・実態に応じ、教師が選択肢を提示したり、対話しながら理由を引き出したりすることで、言葉（単語や二～三語文）や身体（歌や踊り、演奏を部分模倣）で表現することに積極的になってきた。

Ex)○言葉で

「歌のリズムが好き」、「歌が格好良かった」、
「声が良かった」、「鉄琴の演奏がきれいだった」、
「ノリノリ」、「手を上げるところが格好良かった」と言いながら
踊る

○身体で

好きな歌の部分を歌う、好きな踊りの部分を身振り手振りで
表現する

- ・友達の発表を見聞きすることで、伝え方の参考にしたり、友達と違う意見を発表しようとしたりする姿が増え、自分の気持ちを表現することに意欲的に取り組むことができるようになってきた。



課題

目的（「生きる力」の育成）に対する課題について記入
* 学習指導略案「学習の様子」を活用してください

- ・感想の選択や発表内容（鑑賞曲のどこが好き、嫌いか）が鑑賞自体とまだ結び付いていない生徒が複数名いる。

※学習活動での歌唱や器楽、身体表現と、鑑賞の選択肢（踊り、演奏、歌）が混同してしまう生徒がいる。

ex)鑑賞の感想発表「踊りが良かった」

→○ 鑑賞曲の振りを表現

→× 鑑賞前の身体表現で踊ったダンスの振りを表現する

- ・言葉や身振りなどで具体的に気持ちを表現できるようになった生徒が増えた一方で、発語がない生徒や意思表示の仕方が不明瞭な生徒への個別的な手立ての工夫がさらに必要。

【改善策として～生徒の学び方に応じて】

- ・ CanvaやDropTapアプリの選択肢見直し、再設定。
- ・ 鑑賞と感想発表のつながり、結び付け方の工夫。

授業改善の視点から (研究の重点について)

【個別最適な学び】 【協働的な学び】 や
【自立活動の視点】 を取り入れ、ICTを
活用したことで、得られた成果や課題、ま
たは気づいた点などあれば

- ・個々にタブレットを操作し、自分や友達を選択が即時にTVに映し出されることで、活動への興味、関心が高まり、意欲的に選択に取り組もうとする姿が多く見られるようになった。
- ・選択肢を具体化（視覚化）することで、鑑賞のポイント（どこに注目して見聞きするのか）が分かってきた。
- ・段階を踏みながら「どっち？」→「どこが？」→「具体的にはどこが？」の選択と発表を繰り返し積み重ねることで、目的をもって鑑賞することへの意識が高くなってきた。
- ・鑑賞後に感想発表する機会があることを意識することで、鑑賞自体への注目度が上がった。
- ・選択を通して意思表示する良さへの実感を深め、自信をもって選択したり、みんなに分かってもらえるように動作や表現を考えて発表したりできるようになってきた。
- ・鑑賞の発表者になることに期待感を高め、自分の好きな曲をみんなに紹介したいという気持ちを言動で表現できるようになってきた。

結論

「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。」（研究仮説）
＝当該学年で育成を目指す「生きる力」を育むことができたか

- ・ICTを活用し意思の具体化を図ることで、選択肢から自分の意思に合うものを考えて選んだり、思いを明確にして相手に伝えようとしたりする行動が顕著となった。
 - ・友達や教師を意識しながら、自分の意思を表出する良さを日々実感することで、それが自信となってきた。
 - ・自分の意思をある程度明確に表出する力が身に付いてきた。
- 【今後に向けて～自分の意思を明確に分かりやすく表出するために】
- ・本研究でのICTを活用した取り組みを各教科等においても広げ、般化していくことが必要。
 - ・分かりやすく表出する力を育成するためには、国語科や自立活動での学習も蓄積し、表現する力の向上を図っていくことが必要。



中学部 3学年

美術科

題材名「大昔の苦小牧を知ろう」

育成したい「生きる力」

学年研で出し合った「生きる力」の中で、特に焦点を当てたこと

「選択する力」
「自分で考える」
「自ら考える」

活用したICT

そのために、どんなICTをどの
ように用いたか

iPad

- **keynote** : リンク機能を活用し、ふり返しシートに飛ぶことで、生徒の見やすさや分かりやすさを追求した。
- **iMovie** : 振り返りの際、活動の様子を動画で編集し、上映した。

成果

「実態に応じた学びの方法」より

- ・ ICTを活用することで選択しやすく時間の短縮にもなり、授業内容量が充実した。
- ・ 自分のやることがわかり、自分から取り組むことができていた。
- ・ 具体物と画面との対応で発表することができていた。

課題

「実態に応じた学びの方法」より

- ・ タップなどの操作方法
- ・ より個に応じたICT活用の方法、手立ての研鑽
- ・ 紙の発表だと聞こえない、見えない。
- ・ 高い実態の生徒が多く、使おうと思えば1人1台でも使用できたのでは。
- ・ 振り返りシートなどは、データを取り込んで加工すれば、字が書けない実態の生徒も活用できるのでは。

成果

「目標の理解」より

- ・ 繰り返し取り組んでいることで、見通しを持てていた。
- ・ 継続して行うことで、友達の作品の良いところを指さしなどで伝えられるようになってきている。
- ・ ビデオを見ることで、今までの学習の振り返りが容易にでき、今日の学習は今までの勉強の発表をすることだと生徒が理解できていたと思う。

課題

「目標の理解」より

- ・ ワークシートの共有、デジタルとアナログを両立させる。

成果

「集団の中での協議」より

- ・ 友達の作品を見ることで、具体的にどこが良いのか好きなのかを発表し合うことができていた。
- ・ 作品を通した協働的な学習の機会があった。

課題

「集団の中での協議」より

- ・先生方がこの機会をどのように活かしていくのかという共有、共通理解があると、さらによい。
- ・振り返り、感想発表は人数が多いほど座って聞く時間が増える。辛くなる生徒もいるのではないか。
→この場面でも、ICTを有効に使えないか。
- ・将来的には、3Dの画像などを使って作品の裏側や中側などを確認できたら良い。

授業改善の視点から (研究の重点について)

【個別最適な学び】 【協働的な学び】 や
【自立活動の視点】 を取り入れ、ICTを
活用したことで、得られた成果や課題、ま
たは気づいた点などあれば

- ・ 本授業はICTや実際の作品を通して、生徒の意見や考えを引き出せていた。
- ・ 自らタブレット操作ができない生徒に、簡単に押せるスイッチ教材の活用が必要。
- ・ 紙をスキャンしてテレビに映してみんなで見る、聞くなどしても良い。

協議結論

「いかに生徒が自分を出せるか」

- 生徒と教員の共有は、教師がどれだけ生徒の反応を待つことができるかによって大きく変わる。
- 授業改善を通して、参加している生徒が実感や達成感を味わえるようにしていくことが大切である。
- ICTはあくまでも手段であり、ICTを使うことが目的ではない。授業のねらいに応じて、ICTをどう使うかを考える必要がある。提示のために使うか、操作することが目的なのかなどよく整理しながら便利に効果的に活用していきたい。

結論

「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。」（研究仮説）
＝当該学年で育成を目指す「生きる力」を育むことができたか

「選択する力」

- ・ ICTが有効な場面もあったが、ICTで無ければならないものでも無いと持った。
- ・ ICTを活用しきれていないため、難しいと感じた。
- ・ 教師、児童生徒に活用するスキルが無くて、ICTが目的となってしまった気がする。
- ・ ICTを使って主体的にはできていた。ICTを活用して、生きる力が育てるのは難しいと感じた。
- ・ 経験を積むことによって、自分で操作したり、考えたりする力を追求して行ければ良い

第 4 章

公開授業研究会



音楽科 「 みんなでうたおう！ならそう！ 」 単元計画

単元名		「 みんなでうたおう！ならそう！ 」			期間	11月26日（火）～12月20日（金）計8時間		
目標		【知識・技能】 ・ 母音の口の形や音声の出し方を理解して発声したりする。 ・ ハンドベルの扱い方を理解し、正しい持ち方で鳴らす。 ・ 示範を見て身体全体を使って模倣する。 【思考・判断・表現】 ・ 曲に合わせて模唱したり、一部分を歌ったりする。 ・ 曲に合わせて教師の合図や視覚的な提示を手掛かりに鳴らす。 ・ 曲の特徴や歌詞に合わせて身体全体を使って表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 教師や友達と一緒に関わり合って活動したり、見通しをもって最期まで活動したりする。 【学年で育成したい「生きる力」】 （＊本単元と関わって） ・ 意思表示 ・ 注目する力 ・ 情報活用能力 ・ 関わり ・ 楽しむ力(余暇) ・ 身体 ・ 般化						
教科等との関連		生活、国語、算数、体育						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
11月26日（火） 11月29日（金）	音楽室 1階 奥教室	「みんなでうたおう！ならそう！」① 【歌唱】「あいうえお」の母音の口の形や開け方、音声を確認しながら発声する。アプリ等を活用して声を大きく出すことを意識できるようにする。 【器楽】ハンドベルの持ち方や鳴らし方を確認して鳴らす。 【音楽づくり】iPadを使いChrome music labo「OSCILLATORS」に取り組む。 【身体表現】教師の動きや画面に注目して手を挙げたり、身体を左右に動かしたりして模倣する。 【鑑賞】自分や友達の活動している様子を見たり、音楽を聞いて身体を揺らしたりするなどして鑑賞する。	○		○	学年	山田	ICTアプリ等を使って声の大きさに合わせて表示されることで視覚的に声の大きさが分かるようにする。（注目） ICTタブレット端末を操作する機会を設定し、扱い方や操作の仕方に慣れるようにする。（情報活用能力）

12月3日(火) 12月6日(金)	音楽室 1階 奥教室	「みんなであうたおう！ならそう！」② 【歌唱】「みんなであうたおうよ」の曲に合わせて「あいうえお」の口の形や開け方、音声を確認しながら発声するようにする。 【器楽】画面に注目しながら鳴らすタイミングを知り、ハンドベルを鳴らす。「きよしこのよる」の音楽に合わせて取り組む。 【音楽づくり】iPadを使いChrome music labo「KANDINSKY」に取り組む。 【身体表現】「バスにのって」の音楽(ゆっくり ver.)に合わせて画面や教師の動きを見て、友達と一緒に座りながら身体表現する。 【鑑賞】自分や友達の活動している様子を見たり、音楽を聞いて身体を揺らしたりするなどして鑑賞する。	○	○		ICT インカメラ等を使って自分と教師の口の形を比べながら取り組み、意識できるようにする。(注目) ICT タブレット端末を使用して試行錯誤しながら音楽づくりに取り組むようにする。(情報活用能力、楽しむ力)
12月10日(火) 12月13日(金)	音楽室 1階 奥教室	「みんなであうたおう！ならそう！」③ 【歌唱】「みんなであうたおうよ」の曲に合わせて「あいうえお」の口の形や開け方、音声を確認しながら発声するようにする。また、曲調に合わせて抑揚を意識して取り組む。 【器楽】「きよしこのよる」の音楽に合わせて、画面に注目して自分の階名のときにタイミングよくハンドベルを鳴らす。 【音楽づくり】iPadを使いChrome music labo「RHYTHM」に取り組む。 【身体表現】「バスにのって」の音楽に合わせて画面を見ながら、友達の肩を持って立ちながら身体表現する。 【鑑賞】自分や友達の活動している様子を見たり、音楽を聞いて身体を揺らしたりするなどして鑑賞する。		○	○	ICT 注目対象として画面に注目することを促し、ハンドベルの鳴らすタイミングを理解して取り組むようにする。(注目) ICT 身体を動かすポイントを矢印等で示すことで動かす部位をわかりやすく提示して取り組むようにする。(身体)

12月17日(火) 12月20日(金) 本時	音楽室 音楽室	「みんなであうたおう！ならそう！」④ 【歌唱】3名程度ずつ前に出て「みんなであうたおうよ」の曲に合わせて「あいうえお」の母音の発声を中心に歌唱する。また、曲調に合わせた動作を加えながら抑揚を意識して取り組む。 【器楽】鳴らしたい音を選択して「きよしこのよる」の音楽に合わせて、画面に注目しながらタイミングよくハンドベルを鳴らす。 【音楽づくり】iPadを使いChrome music labo「RHYTHM」に取り組む。 【身体表現】「バスにのって」の音楽に合わせて、一緒に活動する友達を選択して、友達の肩を持ちながら先頭の児童は歩いてその後を付いていくように身体表現する。 【鑑賞】自分や友達の活動している様子を見たり、音楽を聞いて身体を揺らしたりするなどして鑑賞する。					ICT一緒に活動したい友達を写真で選択し、タブレット端末を操作する。(意思表示、関わり) ICT振り返りにおいて今日の学習の様子を写真で見ながら頑張ったことを想起し、選択する。また他者から頑張ったことを賞賛される経験を通して次の学習への意欲に繋げるようにする。(意思表示、般化)
------------------------------	------------	--	--	--	--	--	---

「○○○」単元の評価

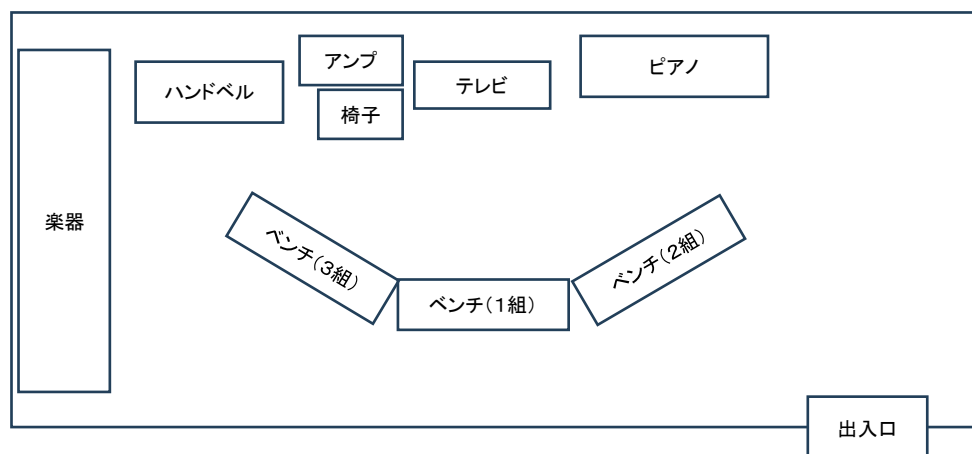
[illegible]

音楽 学習指導案

題材名	「みんなであたおう！ならそう！」		
日時	12月20日 3校時	担当	山田
場所	音楽室	学習集団	1学年 10名
教材・教具	テレビ、AppleTV、iPad、iPad 三脚、アンプ、マイク、ハンドベル、卓上ベル、足マット、バス運転手教材		
本時の目標	【思考・判断・表現】 ・音楽に合わせて口の形や正しい母音の発声を意識して声を出そうとする。 ・教師の合図や画面を確認して、リズムに合わせて鳴らす。 【学びに向かう力、人間性等】 ・教師や友達と一緒に活動したり、活動に見通しをもって最後まで取り組んだりする。		
時程	学習活動		指導・支援
10:20～	・時間までに音楽室に集合する。 □はじめのあいさつ ・学級の日直を指名して前に出る。 ・マカトンサインで「はじめます」の動きを模倣してはじめのあいさつをする。 □せんせいはなし ・今日行う学習を確認する。 ・今日のニコニコタイムで振り返りをする3名の児童は今日の振り返りで頑張ったことやできたことを発表することを確認する。(KR、TS、SS) ・今日の頑張ること→「くちのかたちをつくってうたおう」「タイミングよくハンドベルをならそう」		・姿勢を正し、両手を前に出し広げる動きの模倣を促す。また、発声できる児童についても促す。 ・テレビに注目するよう促す。
10:23～	□音楽づくり遊び ・Chrome music labo を使用し、音楽づくり遊びを行う。 ・各学級で2台ずつ使い、順番に「リズム」(3～6拍の中で小太鼓やシンバルなどの楽器を選択して、鳴らすタイミングをタップして音楽をつくる)に取り組む。 ・指名した2名の児童(KK、HA)は発表する。		ICT共通事項：情報活用能力 ・タブレット端末を操作する機会を設定し、正しい扱い方や指等での操作の仕方などを理解して活動に取り組めるようにする。 ICT共通事項：ICTの操作 ・タブレット端末を操作しながら、作りたいリズム作りに取り組めるようにする。 自立活動の視点：順番や活動の終わりの理解 ・順番を提示したり、活動の終わりを明確にしたりして見通しをもって活動に参加できるようにする。また、全て押してしまう児童については、5つまでなどきまりを決めて取り組む。
10:33～	□歌唱「みんなであたおうよ」 ・「あいうえお」の口形模倣をして声の出し方を知る。必要に応じてインカメラを使い、自分の口の形を確認して行う。 ・「こえキャッチ」のアプリを使用して声の大きさを視覚的に確認し、目標値までいくように意識しながら取り組む。 ・「みんなであたおうよ」を歌う。音楽に合わせて口形模倣を促すようにする。また、必要に応じてインカメラを使い、自分の口の形を確認して行う。また、歌詞の母音「あ」「い」「う」「え」「お」ごとに学級を指名し、マイクを向けて声を出すようにする。		重点化①個別化：音の大きさの視覚化 ・発声の大きさや長さについて、音量測定アプリを使用する。児童によって音量の目標値を設定しながら、視覚的に自分の発声の大きさや長さに気付けるように促す。 重点化①個別化：手本と自分の動作の比較 ・手本となる動画と自分の口形を画面で比較できるようにすることで、正しい母音の口の形を意識できるようにする。
10:45～	□身体表現「バスにのって」 ・「バスにのって」の動きを確認し、左右に傾く、ジャンプなど一つ一つの動作を確認し、動かす。 ・運転手となる児童2名(IS、MS)を指名し、その児童と一緒に活動したい児童をiPadで写真を選択して一緒に身体表現する。		協働的な学び：友達との関わり ・活動したい友達を選択して一緒に活動する中で関わりを意図的に設定する。 ・今回指名されなかった児童についても、椅子の前で立って身体表現をする。

10:50～	□器楽「ハンドベル：きよしこのよる」 ・ハンドベルの演奏する曲（きよしこのよる）を鑑賞する。 ・2つのグループで取り組むことを確認し、自分の鳴らす階名を確認し、ハンドベルを持って所定の場所まで行く。 ・画面に出てくる階名や鳴らすタイミングの虹色に注目しながらハンドベルを鳴らす。（鳴らすタイミングの練習） ・「きよしこのよる」の音楽に合わせて、ハンドベルを鳴らす。	ICT共通事項：ICT活用による注目する力 ・画面に表示される階名を見ながらタイミングを見てハンドベルを鳴らすように促す。 ・別iPadでニコニコタイム抽出の3名の「歌唱」「身体表現」「器楽」の写真を撮影し、スライドに挿入する。
11:00～	□にこにこタイム：ふりかえり（KR、TS、SS） ・学習の様子を振り返り、今日の目標に対して頑張ったことを振り返り、「くちのかたちをつくってうたおう」「タイミングよくハンドベルをならそう」のイラストを選択する。	ICT共通事項：学習の振り返り ・学習している様子を見て、頑張ったことを振り返り、自分で頑張れたと思ったことややってきたと思ったことを賞賛する。 協働的な学び：他者評価 ・学習の振り返りを教師や友達など他者から評価される機会を設定し、学習の取り組みに対する意欲や達成感を感じるようにする。
11:05	□おわりのあいさつ ・マカトンサインで「おわります」の動きを模倣してはじめのあいさつをする。	・姿勢を正し、両手を下げる動きの模倣を促す。また、発声できる児童についても促す。

配置図



□児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

ICT 共通事項

重点○○○

重点○○○

□使用した ICT 機器およびアプリ

ICT 機器…

アプリ…

1 段階 (1)目 標

ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。

イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。

ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。

※1 段階の音楽遊び分野では、2 段階の歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現、及び鑑賞の基礎となるような知識や技能、「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力を育てていくことが指導のねらいとなる。

〇2 段階 (1)目 標

ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。

イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。

ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。

【歌唱】

(ア)歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、好きな歌ややさしい旋律の一部分を自分なりに歌いたいという思いをもつこと。

(イ)次のア及びイについて気付くこと。

ア 曲の特徴的なリズムと旋律

イ 曲名や歌詞に使われている特徴的な言葉

(ウ)思いに合った表現をするために必要な次のアからウまでの技能を身に付けること。

ア 範唱を聴いて、曲の一部を模唱する技能

イ 自分の歌声に注意を向けて歌う技能

ウ 教師や友達と一緒に歌う技能

【器楽】

(ア)器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。

(イ)次のア及びイについて気付くこと。

ア 拍や曲の特徴的なリズム

イ 楽器の音色の違い

(ウ)思いに合った表現をするために必要な次のアからウまでの技能を身に付けること。

ア 範奏を聴き、模倣をして演奏する技能

イ 身近な打楽器を演奏する技能

ウ 教師や友達と一緒に演奏する技能

【音楽づくり】

(ア)音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次のア及びイをできるようにすること。

ア 音遊びを通して、音の面白さに気付くこと。

イ 音や音楽で表現することについて思いをもつこと。

(イ)次のア及びイについて、それらが生み出す面白さなどに触れて気付くこと。

ア 声や身の回りの様々な音の特徴

イ 音のつなげ方の特徴

(ウ)気付きを生かした表現や思いに合った表現をするために必要な次のア及びイの技能を身に付けること。

ア 音を選んだりつなげたりして、表現する技能

イ 教師や友達と一緒に簡単な音や音楽をつくる技能

【身体表現】

(ア)身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。

(イ)次のア及びイについて気付くこと。

ア 拍や曲の特徴的なリズム

イ 曲名と動きとの関わり

(ウ)思いに合った動きで表現するために必要な次のアからウまでの技能を身に付けること。

ア 示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かす技能

イ 音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かす技能

ウ 教師や友達と一緒に体を動かす技能

図画工作科 「 クリスマスの飾りを作ろう 」 単元計画

単元名		「クリスマスの飾りを作ろう」			期間	12月5日（木）～12月20日（金） 計 7 時間		
目標		【知識・技能】 ・道具を正しく、安全に使う。 ・クリスマスについて知り、サンタクロースやトナカイ、雪だるまなどが関係することを知る。 【思考・判断・表現】 ・写真や手本を見て、造形的な良さに気付いて選んだり、自分のクリスマスのイメージを表すことができるデザインを選んだりする。 ・作った作品の良さや工夫した点について、ICTを活用して伝える。 ・友達作品を見たり、発表を聞いたりすることで、見方や感じ方を広げる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・発表することで友達や教師から認められることでつくり出す喜びを味わう。 ・発表を見聞きし、自分と違う作品に触れることで感性を育む。 【学年で育成したい「生きる力」】 （＊本単元と関わって） ・選ぶ力。 ・伝える力。						
教科等との関連		国語、算数、生活						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
12月5日（木）	1・2番教室	○オーナメントを作ろう ・はさみとのりを正しく安全に使う。 ・作りたいデザインを選ぶ。（サンタ、トナカイ、雪だるま） ・短冊状の折り紙をつなげて輪飾りを作る。 ・頑張ったことを発表する。	○			学年	大矢	ICT 作りたいデザインを選ぶ。 （選ぶ力） ICT Keynote を使い、発表する文章を選択して作成し、発表する。（伝える力） DropTap を使い、イラストを選択することで発表

							する。(伝える力)
12月12日(木)	1・2番 教室	○パクパク人形を作ろう ・写真や見本を見て、作りたいデザインを選び、言葉や写真を触ることで伝える。(サンタ、トナカイ、雪だるま) ・紙コップに画用紙を貼って人形を作る。 ・頑張ったことを発表する。		○			ICT 作りたいデザインを選ぶ。 (選ぶ力) ICT Keynote を使い、発表する文章を選択して作成し、発表する。(伝える力) DropTap を使い、イラストを選択することで発表する。(伝える力)
12月20日(金)	1・2番 教室	○クリスマスベルを作ろう ・作りたいデザインを選ぶ。(サンタ、トナカイ、雪だるま) ・紙コップに画用紙を貼ったり、鈴を貼ったりしてベルを作る。 ・文章を選んだり、イラストを選んだりして、頑張ったことを発表する。		○	○		ICT 作りたいデザインを選ぶ。 (選ぶ力) ICT Keynote を使い、発表する文章を選択して作成し、発表する。(伝える力) DropTap を使い、イラストを選択することで発表する。(伝える力)
12月23日(月)	多目的室	○クリスマスの飾りを鑑賞しよう。 ・クリスマス会に向けて作った作品を飾る。 ・友達の作品を見て、良いと思ったところやその作品を紹介する。		○	○		ICT 好きな作品の写真を撮影し、それを紹介する。(選ぶ力・伝える力) DropTap を使い、作品を好きな理由や好きなところを伝える。(伝える力)

「 クリスマスの飾りを作ろう 」単元の評価

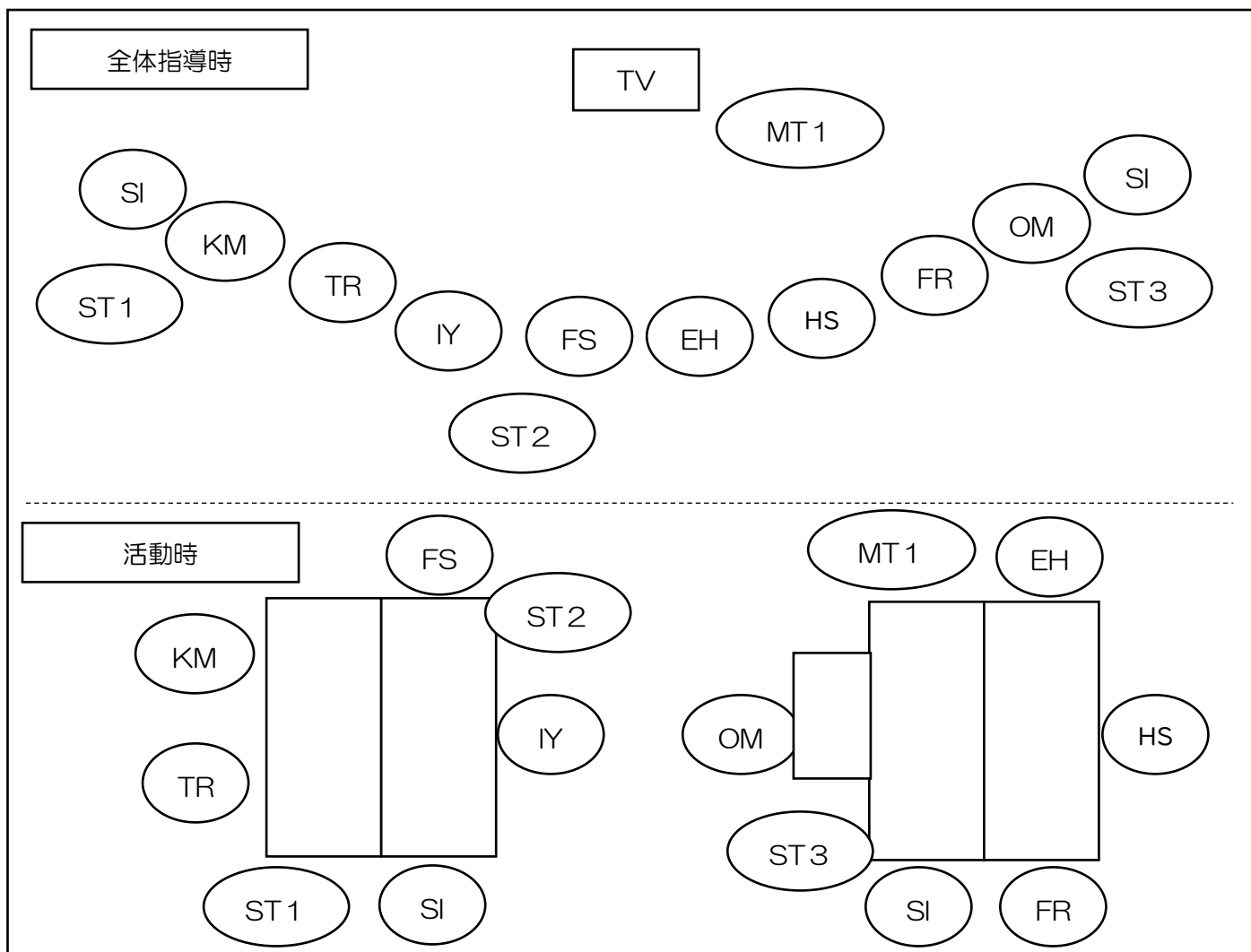
期間や時期	良い・要改善（ ）	学習内容	良い・要改善（ ）
単元における児童生徒の学習の様子			

図画工作 学習指導案

題材名	「クリスマスの飾りをつくろう」		
日時	12月20日（金）3・4校時	担当	大矢
場所	1・2番教室	学習集団	小学部2年生 10名
教材・教具	テレビ、タブレット、AppleTV、紙コップ、折り紙、鈴（モール付き）、シール		
本時の目標	【知識・技能】 ・線に沿ってはさみで切ったり、はがれないようにのりで貼ったりする。 【思考・判断・表現】 ・写真を見て作りたいデザインを選び、言葉やイラストに触れることで相手に伝える。 ・タブレットを活用し、文章やイラストを選んで頑張ったことを発表する。 ・友達の作品を見て、良いところや気になるところを見付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・教師や発表者の話に注目して聞こうとする。 ・発表した相手に拍手をしようとする。		
時程	学習活動	指導・支援	
10:20	・椅子を持参し、テレビの前に学級ごとに座る。 □初めの挨拶 ・指名された児童は前に出て、初めの挨拶をする。 ・姿勢を正して挨拶をする。 □先生の話 ・本時で制作するものを知る。 ・本時で頑張ることを知る。 ①自分で選んで作ること ②頑張ったことを発表する。	・MTは児童を指名する。 ・STはそれぞれ姿勢を正して、挨拶をするように促す。 重点④自立活動 ・児童の実態に応じて、DropTapを活用して挨拶をする。⇒SI ICT共通事項 ・本時の目標について、イラストを用いて2つ提示する。	
10:30	□クリスマスのベルをつくろう① ①作りたいデザインを選び、タブレットの画面をタップする。 ②出てきた作り方の動画を見る。 ③材料を取る。 ④手順に沿って制作する。 ⑤できた作品を自分の顔写真が貼ってある机の上に置く。 ・一つ作成し終えたあとは、時間を見て二つ目を作成する。	重点②個性化 ・好きなデザインを選択し、より主体的な活動になるようにする。 (サンタ、トナカイ、雪だるま) 重点①個別化 ・手順は動画とスライド（静止画）の2種類用意し、実態に応じて分かりやすいものを選択できるようにする。	
11:00	□休憩		

11:05	□先生の話 ・前時でクリスマスベルを作っていたことを確認する。 ・まだ作っていないデザインや途中になっているものの作成を確認する。	重点③協働的 ・完成したクリスマスベルをいくつか紹介し、他の児童がどのような作品を作っているのかを共有する。
11:10	□クリスマスのベルをつくろう② ・同様の手順で進める。 ・作成終わった後は、時間を見て2つ目を作成する。 □片付け ・使用した道具をかごに入れる。 ・ゴミを拾って捨てる。	・道具の片付けをしてから、ゴミを拾うように指導する。
11:35	□発表および作品鑑賞 ・自分で作った作品を紹介する。	重点①個別化 ・Keynote を使い、発表する文章を選択して作成する。 ⇒OM、HS、KM ・DropTap を使い、イラストを選択することで発表する。(重点④自立活動) ⇒EH、SI、FR、IY、SI、TR、FS
11:50	□振り返り ・頑張ったことを選択し、発表する。 ・指名された児童はタブレットの画面をタップして選択する。 □終わりの挨拶 ・指名された児童は前に出て、初めの挨拶をする。 ・姿勢を正して挨拶をする。	I C T 共通事項 ・本時の目標からより頑張ったことを選択し、発表する。 ・MTは児童を指名する。 ・STはそれぞれ姿勢を正して、挨拶をするように促す。 重点④自立活動 ・児童の実態に応じて、DropTap を活用して挨拶をする。⇒SI

*「個別最適な学び」「協働的な学び」「自立活動の視点」について、いずれかの重点を1つ以上記載する。



□児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

ICT 共通事項

重点①個別化

重点②個性化

重点③協働的

重点④自立活動

□使用した ICT 機器およびアプリ

ICT 機器…

アプリ…

生活単元学習 「クリスマス会をしよう」単元計画

単元名		「クリスマス会をしよう」			期間	12月3日（火）～12月20日（金） 計 7時間		
目標		【知識・技能】 ・クリスマス会で行う活動やクリスマス会当日までの日程を知り、見通しをもつ。 ・グループごとに行う内容を知り、言葉を考えたり、遊び方を考えたり、装飾を作ったりする。 【思考・判断・表現】 ・クリスマス会で行う活動について写真などを見てイメージして、やってみたい活動を選択する。 ・クリスマス会に向けて、友達と協力しながら考えたり、選択したりしながら作ったりする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・クリスマス会の活動に関心を持ち、テレビ画面に注目したり、進んで活動したり、発表したりする。			【学年で育成したい「生きる力」】 （＊本単元と関わって） ・理解（見通しをもつ） ・選択する。 ・表出（表出手段） ・コミュニケーション			
教科等との関連		国語、算数、生活、音楽、遊びの指導						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
12月3日(火) 2校時	12番教室	「オリエンテーション」 ○クリスマス会について思い出そう ・去年のクリスマス会の写真や動画を見てクリスマス会でどんなことをしたかを思い出す。 ・クリスマス会でやりたいことを考えて、活動内容を決める。（クリスマスツリー作り、準備で作る物、ゲームなど） ○クリスマス会までの予定を知ろう ・カレンダーを見て準備する日やどんなことをするか、クリスマス会の日を知る。	○	○	○	集団	上野	ICT 昨年のクリスマス会の様子やどんなことをするか、日程や活動予定を提示資料(keynote)で知る(理解)
12月5日(木)	12番教室	「クリスマスツリーを作ろう①」	○	○	○	集団	上野	ICT クリスマスツリーの

【学年で育成したい「生きる力」】
(※本単元と関わって)

- ・理解(見通しをもつ)
- ・選択する。
- ・表出(表出手段)
- ・コミュニケーション

2校時	室	○クリスマスツリーに色を塗る。 ・刷毛やローラーを使ってツリーに色を塗る。 葉の部分と木の幹を塗るグループに分かれて活動する。 ○クリスマスツリーの飾りを作る。 ・クリスマスツリーの飾りに色を塗ったり、切り抜いたりする。(星、ハート、ボール、ブーツ、リボン、サンタクローなど)						作り方やどんな物を作るかを提示資料(keynote)で知る(理解)
12月10日(火) 2校時	12番教室	「クリスマスツリーを作ろう②」 ○クリスマスツリーの飾りを作る。 ・クリスマスツリーの飾りに色を塗ったり、切り抜いたりする。(星、ハート、ボール、ブーツ、リボン、サンタクローなど) ・文字カード(片仮名、平仮名)を作る。	○	○	○	集団	上野	ICT クリスマスツリーの作り方やどんな物を作るかを提示資料(keynote)で知る(理解)
12月12日(木) 2校時	12番教室	「クリスマス会の役割を決めよう」 ○クリスマス会の活動内容を知る。 ・司会係、ツリー係、ゲーム・歌係の係があることを知る。 ○クリスマス会の係を決める。 ・司会係、ツリー係、ゲーム・歌係から自分がやりたい係を選ぶ。 ・係分担表を作る。 ・各係で集まって係の進め方を決める。	○	○	○	集団	上野	ICT クリスマス会の活動内容や係について提示資料(keynote)で知る(理解) 自分がやりたい係を提示資料(keynote)で選択して発表する。
12月17日(火) 2校時	12番教室	「クリスマス会の準備をしよう」 ○各係の練習をする。 ・司会係、ツリー係、ゲーム・歌係に分かれてせりふの練習やタブレット端末の使い方の練習をする。 ○各係で必要な物を作る。 ・進行表を作る。	○	○	○	集団	上野	ICT クリスマス会の係について提示資料(keynote)で知る(理解) DropTapを使い、イラストを選択することで発表する。(伝える力)

12月19日(木) 2校時	12番教室	「クリスマス会をしよう」 ・みんなでクリスマスツリーに作った飾りを付けてツリーを完成させる。 ・クリスマス会の司会をする。 ・ゲームをする。 ・歌を歌う。 ・クリスマスツリーの前でみんなで写真を撮る。	○	○	○	集団	上野	ICT クリスマス会について提示資料(keynote)で知る(理解) DropTapを使い、イラストを選択することで発表する。(伝える力)
12月20日(金) 2校時	12番教室	「クリスマス会を振り返ろう」 ・写真を見て、クリスマス会を思い出す。 ・クリスマス会で楽しかったことをタブレット端末を操作してまとめる。(写真、文字テンプレートを選択する。) ・クリスマス会で楽しかったことをタブレット端末を操作して発表する。	○	○	○	集団	上野	ICT クリスマス会について提示資料(keynote)で知る(理解) クリスマス会で楽しかったことを提示資料(keynote)で発表する。

「 クリスマス会をしよう 」単元の評価

期間や時期	良い・要改善（ ）	学習内容	良い・要改善（ ）
単元における児童生徒の学習の様子			

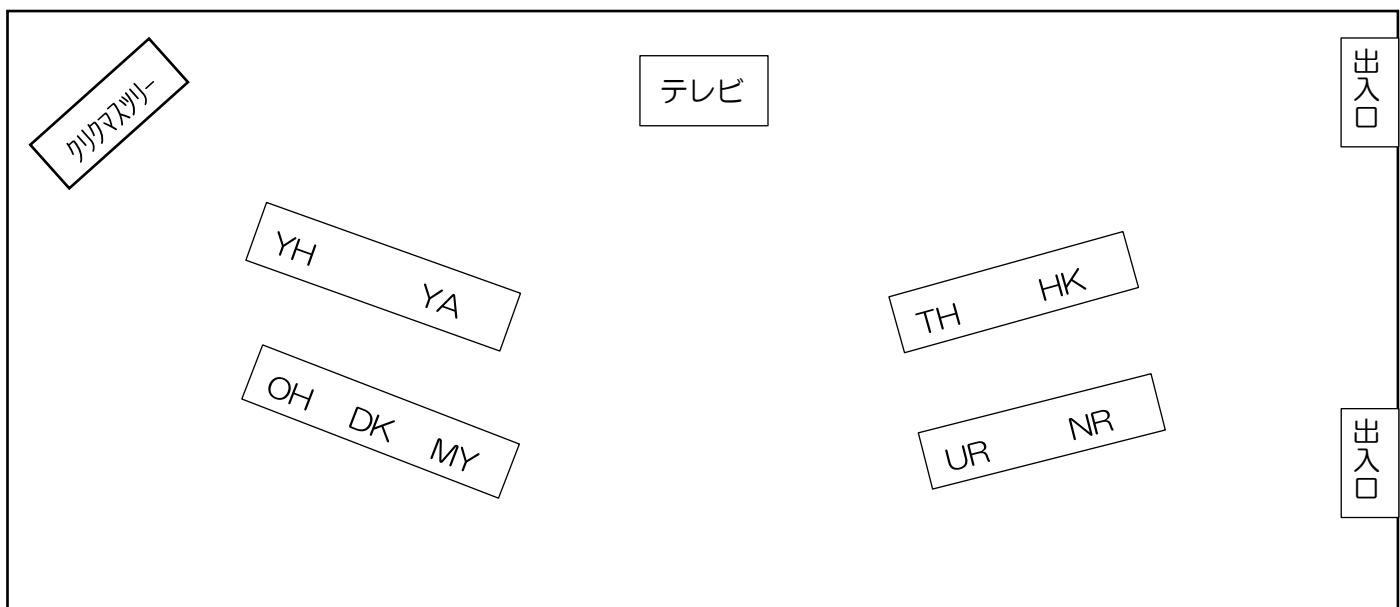
[illegible]

生活単元学習 指導略案

題材名	クリスマス会をしよう「クリスマス会をふりかえろう」		
日時	12月20日（金）4校時	担当	上野
場所	⑫教室	学習集団	小学部3年生 9名
教材・教具	タブレット端末、TV、学習予定表、係分担表、顔写真カード、クリスマス会の写真、児童用タブレット端末		
本時の目標	【知識・技能】 ・クリスマス会の写真やスライドショーを見て、クリスマス会でどんなことをしたか思い出す。 ・タブレット端末を操作して「ふりかえりシート」を作成する。 【思考・判断・表現】 ・クリスマス会で頑張ったことを写真やイラストを選択したり、簡単な文で発表したりする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・友達の発表を聞いたり、拍手をしたりしようとする。		
時程	学習活動	指導・支援	
11:10	・⑫教室に集合する。 □ はじめのあいさつ ・指名された児童が挨拶をする。	・挨拶する児童をテレビで提示する。 ・挨拶する児童への注目するよう促す。 ICT 共通事項	
11:12	□ せんせいのはなし(今日の予定) ① はじめのあいさつ ② せんせいのはなし ③ たしかめよう ④ クリスマス会を思い出そう ⑤ ふりかえり ⑥ おわりのあいさつ	・Keynoteを使って、本時の学習内容を文字とイラストで提示し理解を促す。	
11:15	□ たしかめよう ・学習予定表を見て昨日がクリスマス会であることを確認する。 ・今日の頑張ることを確かめる。 「ふりかえりシートを たぶれっとで つくる」 「たのしかったことを はっぴようする」	ICT 共通事項 ・Keynoteを使って、カレンダーで今日、クリスマス会の日時を分かりやすく提示する。	
11:20	□ クリスマス会をふりかえろう ・クリスマス会の写真、スライドショーを見る。 ・クリスマス会でがんばったことを二つ選んで、ふりかえりシートにまとめる。 歌、ゲーム、ツリー、係の仕事の四つから二つを選ぶ。(写真、文字テンプレート)	重点①個別化 UR、OH、MY、YH ・Keynoteの写真を見て、楽しかったことを選んでスワイプしてふりかえりシートを作る。 重点①個別化 TH、NR、HK、DK、YA ・Keynoteの写真、文字テンプレートを見て、楽しかったことを選んでスワイプしてふりかえりシートを作る。 重点④自立活動 UR ・Keynoteのタップ、スワイプをしやすくするために補助具を付けたペンを使用する。 重点②個性化 TH、NR、HK、DK、YA ・ふりかえりシートを早く作り終えた児童は写真フォルダから思い出の写真を選んで貼り付ける。	
	・早く終わった児童は思い出の写真を選ぶ。		

11:45	☐ クリスマス会で楽しかったことを発表する。 ・ふりかえりシートをテレビに映して、楽しかったことを発表する。	ICT 共通事項 ・Keynoteのふりかえりシートを見て、友達の発表を理解する。
11:55	☐ ふりかえり ・今日頑張ったことを発表する。 「ふりかえりシートを たぶれっとで つくる」 「たのしかったことを はっぴょうする」 ☐ おわりのあいさつ ・指名された児童が挨拶をする。	ICT 共通事項 ・Keynoteの画面のイラストや文字見て、頑張ったことを発表する。 ・挨拶する児童への注目するよう促す。

配置図



*「個別最適な学び」「協働的な学び」「自立活動の視点」について、いずれかの重点を1つ以上記載する。

□児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

ICT 共通事項

重点①個別化

重点②個性化

重点④自立活動

☐ 使用した ICT 機器およびアプリ

☐ ICT 機器・・・iPad, テレビ

☐ アプリ・・・keynote、カメラ、写真

生活単元学習 「調理学習」 単元計画

単元名		「調理学習　ホットケーキを作ろう」			期間	12月17日（火）～1月23日（木） 計　10時間		
目標		【知識・技能】 ・調理する時の注意点や評価ポイントを知り、適切に調理をすることができる。 ・手順書を使って、ホットケーキを作ることができる。 【思考・判断・表現】 ・調理する時の注意点や評価ポイントを意識して、振り返り場面で自己評価をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分の役割を果たし、安全に調理に取り組もうとする					【学年で育成したい「生きる力」】 （＊本単元と関わって） ・理解、受け入れ(題材や具体的取り組み、ポイントの理解)以下理解 ・自分でする ・表出(選択、表出手段)	
教科等との関連		国語、算数、生活						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
12月17日(火) 2・3校時	4－2	「オリエンテーション」 ・前単元(調理)で学習した火の使い方、包丁の使い方について振り返る ○何をつくるかを知る ・ホットケーキ(フルーツ、ホイップ添え)の作り方動画を見て、題材を知る ・包丁、ブレンダー等の使い方(評価ポイント)について知る ・次時のグループ分け、役割を知る ○やってみよう ・子ども用包丁を使って、キュウイ・バナナを切る ・ブレンダー等を使って生クリームを泡立てる	○		○	集団	湯藤	ICT 包丁・ブレンダーの 使い方のポイントを動画 や提示資料 (keynote)で知る(理解)

12月18日(水) 2～4校時	家庭科室	「調理(1回目)」 ○ホットプレート、包丁・ブレンダーの使い方についての評価ポイントを知る。 ○みんなで作ってみよう ・グループに分かれて手順を分担しながら、調理する。(評価ポイントに関わる工程を動画撮影する) ・試食する。 ・片付けをする。	○			集団	湯藤	ICT 手順書(タブレット端末)を操作し見て作る(自分でする) 評価ポイントを手順書に明記する
12月20日(金) 4校時(本時)	4-2	「調理振り返り&作り方クイズ」 ○調理の振り返り ・自己評価するポイントに関わる工程の動画を見る ・各自タブレット端末を操作して、自己評価(花丸・難しいを選択)を行う ・自己評価のシートをTV画面に映し、タブレット端末を使って発表する。 ○作り方クイズ ・タブレット端末をタップしたり、材料や調理器具の実物を選んだりして、次回の調理で作る手順、注意点に関わるクイズに答える。			○ ○	集団	湯藤	ICT 自分の動画を見て活動の様子を振り返る(理解) ICT タブレット端末を使って自己評価をし、発表する(表出、自分でする) ICT タブレット端末をタップして、材料や調理器具、注意点に関わるクイズに答える (理解、表出)
1月22日(水) 2～4校時	家庭科室	「調理(2回目)」 ○ホットプレート・包丁・ブレンダーの使い方についての評価ポイントと調理の注意点を振り返る。 ○みんなで作ってみよう ・グループに分かれて手順を分担しながら、調理する。(評価ポイントに関わる工程を動画撮影する) ・試食する。 ・片付けをする。	○		○	集団	湯藤	ICT 手順書(タブレット端末)を見たり操作したりして作る(自分でする)

1月23日(木) 2校時	4-2	○調理の振り返り ・自己評価するポイントに関わる工程の動画を見る ・各自タブレット端末を操作して、自己評価(花丸・難しいの選択)を行う ・自己評価のシートをTV画面に映し、タブレット端末を使って発表する。 ○次回予告 ・3月の調理について知る		○	○	集団	湯藤	ICT 自分の動画を見て活動の様子を振り返る(理解) ICT タブレット端末を使って自己評価をし、発表する(表出、自分でする)
-----------------	-----	--	--	---	---	----	----	--

「調理学習 ホットケーキを作ろう」単元の評価

期間や時期	良い・要改善()	学習内容	良い・要改善()
単元における児童生徒の学習の様子			
KS		SK	
MH		SH	
TH		NY	
YS			

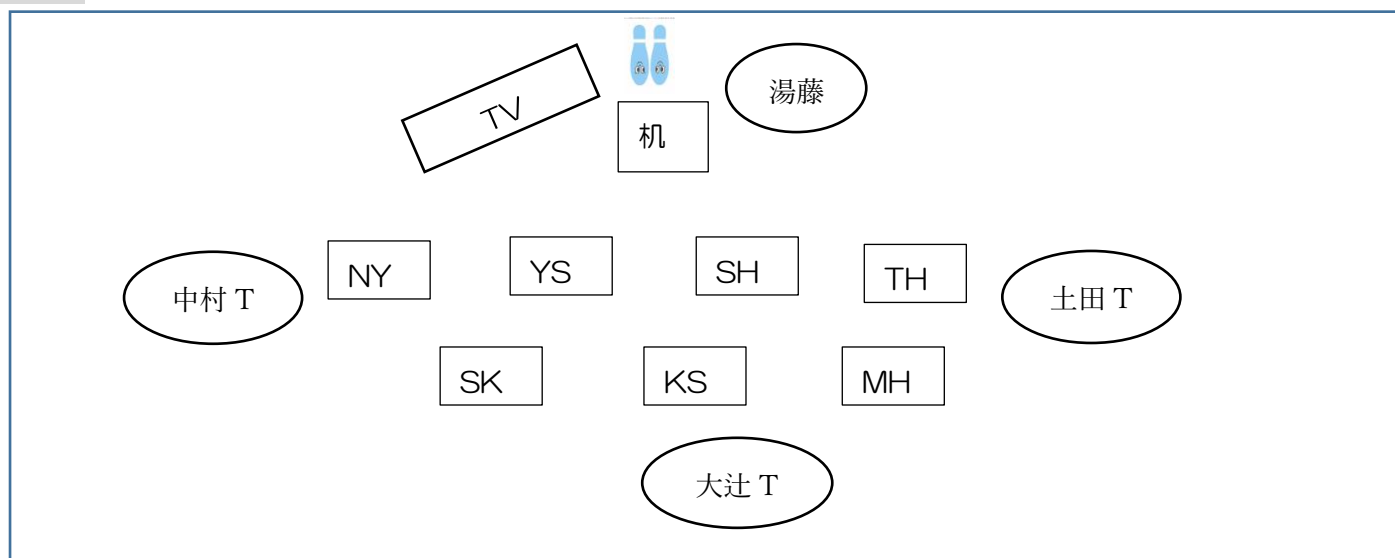
生活単元学習 学習指導案

題材名	調理学習 ホットケーキを作ろう「調理の振り返り、作り方クイズ」		
日時	12月20日（金） 4校時	担当	湯藤
場所	4年2組	学習集団	小学部 4年生 7人
教材・教具	TV、タブレット端末(児童全員分)、クイズで選択する実物(材料、道具)、AppleTV ケーブル		
本時の目標	【思考・判断・表現】 ・振り返りの場面で、評価ポイントを意識して、選択肢から選んで自己評価をすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・調理での成果を発表し、皆に伝えようとする。		
時程	学習活動	指導・支援	
11:10	・机、いすを準備し着席する。 □はじめのあいさつ ・指名された児童がはじめのあいさつをする □ホットケーキ作りを振り返ろう ・ホットケーキ作りの評価ポイントについて振り返る。 ①熱いところを触らない②フルーツを押さえて切る/ホイップクリームを作る ・評価ポイントに関わる調理工程(①ひっくり返す場面・②切る/混ぜる場面)の動画を、順番に見る。	ICT 共通事項 ・イラストや簡単な文字で評価ポイントを示し、TV画面に示す。 ・ポイントを押さえて成功した例と失敗例を動画で示し、失敗するとどうなるかを伝える。 ・(調理で担当したT)動画を見ながら、良かった点やがんばっていた点を紹介する。 ・児童によっては、動画を流した直後にイラストを選び、自己評価を行えるようにする。	
11:25	□ワークシートを作る ・タブレット端末(Fingerbord)を使った、自己評価のやり方について、TV画面を見て知る ・Fingerbord のアプリを開き、調理の動画を見て、タブレット端末をタップ・ドラックして、花丸・難しいを選択し、ワークシートを完成させる。	ICT 共通事項 ・イラストや簡単な文字で評価ポイントを示し、その工程の評価(花丸、難しい)を選択し、ワークシートを完成させる ・1ページに一つのポイントを評価できるように、ワークシートを作成する。	
11:30	□発表をする ・発表の仕方、発表の順番を知る ・可能な児童はワークシートをミラーリングして、TV画面に映す。 ・一人ずつ前に出て、発表する。	重点①個別化 NY、MH、SK、SH、KS ・Fingerbord の画面をタップして、音声を流し、発表する。 重点②個別化 YS、TH ・教師がTVの音声を消し、ワークシートの文字やイラストを見て読み上げて、発表する。	

11:40	☐ 作り方クイズをしよう 調理の手順、注意点に関わるクイズを、2つの選択肢から選んで、タブレット端末をタップして答える。	ICT 共通事項 - 注意点に関するクイズについて、選択肢を動画で示して、結果どうなるかを見られるようにする。 - イラストや動画よりも、実物で選ぶ方が分かりやすい児童は実物を選択する。
11:50	☐ 役割を確認しよう 次回の調理のグループ、役割について知る	
11:55	☐ 終わりのあいさつ 指名された児童がはじめのあいさつをする	

*「個別最適な学び」「協働的な学び」「自立活動の視点」について、いずれかの重点を1つ以上記載する。

配置図



☐ 児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

ICT 共通事項

重点①個別化

重点②個別化

☐ 使用した ICT 機器およびアプリ

ICT 機器……iPad, Apple TV

アプリ……keynote, Fingerbord

生活単元学習 「お仕事体験」 単元計画

単元名		「お仕事体験」			期間	12月3日(火) ～ 12月20日(金) 計 9時間		
目標		【知識・技能】 ・清掃活動などの仕事を通して、働くことを体験する。 ・施設の行き方や作業中のマナーを知る。 【思考・判断・表現】 ・施設への方など、普段あまり接する機会のない人との関わりを通して、他者との関わり方や接し方などについて関心をもつ。 ・交通ルールの約束やマナーを守り、集団行動を意識しながら活動する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・簡単な作業や仕事に関心を持ち、中学部以降の作業学習に対するイメージを持つ。 ・グループの仲間と協力し、資料をまとめたり、発表したりする。			【学年で育成したい「生きる力」】 ・きまり ・意思表示 ・コミュニケーション能力 ・自立			
教科等との関連		生活、国語、算数、社会、理科、図画工作、体育						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
12月3日(火) 4、6校時	12 教室	4校時「オリエンテーション」 ・いつ、どこにいくのかを知る。（※ケアハウスはあ〜と） ・班ごとに活動することや自分がどの班なのかを知る。 ・写真や動画を見ながら、挨拶やマナーについて学習する。 ・挨拶の練習をする。 6校時「お仕事の練習をしよう①」 ・写真や動画を見ながら、作業の内容や仕事のマナーについて学習する。 ・タブレット端末で活動の自己評価をする。 ・お仕事の練習をする。	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	○	ブロック	下田	・4が12教室で実施。 ・6は各グループで実施 ・校外学習計画書、決裁 ICT ・検索機能で、行き先を確認する。また、経路を確認する。（自立、意思） ・ケアハウスはあ〜とでの挨拶やマナーをタブレット端末で確認する。

12月6日（金） 4校時	12 教室	4校時「お仕事の練習をしよう②」 - 写真や動画を見ながら、作業の内容や仕事のマナーについて学習する。 - 班ごとに練習をする。 （机拭き、モップ掛け、ツリーの飾りつけ） - タブレット端末で活動の自己評価をする。	○	○		ブロック	下田	ICT - タブレット端末で、作業工程を確認しながら作業内容を確認する。 （自立、意思） - タブレット端末を使って本時の活動の自己評価をする。 （自立）
12月10日（火） 3、4校時	12 教室 ケアハウスはあ〜と	3、4校時「お仕事体験①」 - 安全に気を付けて移動する。 - ケアハウスはあ〜とへ行き、あいさつをする。 - 決められた活動を行う。 - お仕事体験を通して、返事、報告等する。	○	○	○	ブロック	下田	ICT タブレット端末で行先や活動内容を確認する。 （自立）
12月13日（金） 3、4校時	12 教室 ケアハウスはあ〜と	3、4校時 A 班「お仕事体験②」 - 安全に気を付けて移動する。 - ケアハウスはあ〜とで挨拶をする。 - 決められた活動を行う。 - お仕事体験を通して、返事、報告等をする。 B 班「お礼の手紙を書こう」 - お礼の手紙を協力して作成する。 - 活動の振り返りをする。	○	○	○	班	A 班下田 B 班桑野	ICT A 班 - タブレット端末で行先や活動内容を確認する。 （自立） B 班 - 教師が提示する PP で学習内容を確認する。 （自立、意思）

※10日（火）が荒天時は、12日（木）3、4校時と入れ替える。

12月17日(火) 3、4校時	12 教室	3. 4校時「まとめ」 ・タブレット端末を使って、活動したことをまとめる。 ・班ごとに発表の練習を行う。 ・自己評価を集計したものをフィードバックし、今後の学習につなげる。		○ ○	○	ブロック	中島	ICT ・タブレット端末を使って協力してスライドを作成する。(意思、コミュ) ・検索機能で調べたいことを検索する。(自立、意思)
12月20日(金) 3校時 本時	12 教室	3校時「お仕事体験振り返り」 ・発表方法を再度、全体で確認する。 ・班でまとめたことを発表する。 ・スライドショーをみながら本単元の振り返りをする。 ・中学生に向けてのイメージを持たせる。	○ ○	○ ○ ○	○ ○	ブロック	中島	ICT ・タブレット端末を活用しながら発表を進める。(自立、コミュ)

「お仕事体験」単元の評価

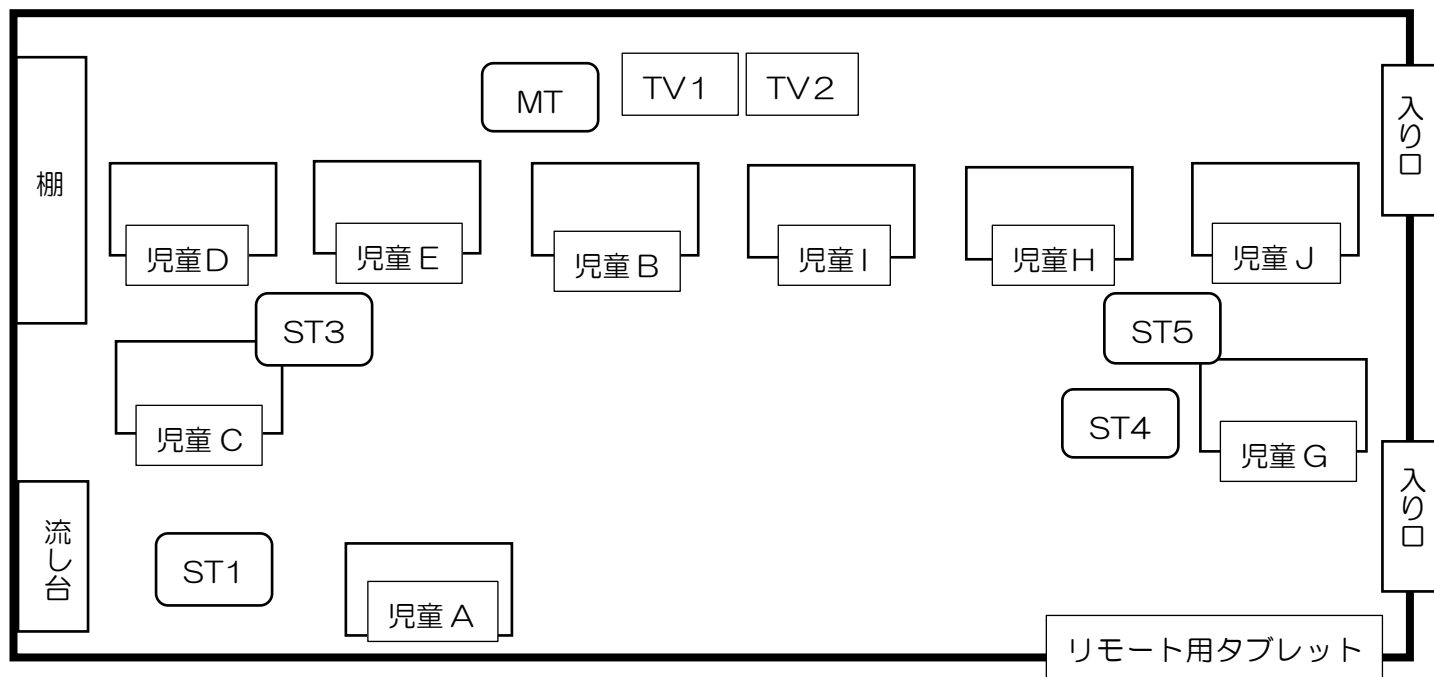
期間や時期	良い・要改善（	学習内容	良い・要改善（
単元における児童生徒の評価 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度			
5年 Taka.H	① ② ③	5年 Take. H	① ② ③
6年 OH	① ② ③	6年 CY	① ② ③
6年 KM	① ② ③	6年 Ni.R	① ② ③
6年 SY	③ ② ③	6年 Na.R	① ② ③
6年 YY	③ ② ③	6年 Ne.R	① ② ③

生活単元学習 学習指導案

題材名	お仕事体験		
日時	令和6年12月20日（金）3校時	担当	MT中島 ST1山本 ST2下田 ST3桑野 ST4鈴木 ST5大滝
場所	12教室	学習集団	小学部5年生（2名） 小学部6年生（8名）
教材・教具	テレビ、PC、タブレット端末		
本時の目標	【知識・技能】お仕事体験の内容を振り返り、自分が行った活動を答えることができる。 【思考・判断・表現】タブレット端末を使って、頑張ったことを伝えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】仲間と協力して、発表することができる。		
時程	学習活動	指導・支援	
10:20	・12教室に椅子を持って集まる。 □あいさつ ・指名された児童は挨拶をする。 ・本時の流れをPPで確認する。 ①お仕事体験を振り返ろう ②発表しよう ③まとめ	・6年生の日直を指名する。 ・日直に注目するように支援する。 ・MTの話を聞くように促す。	
10:25	□お仕事体験を振り返ろう。 ・お仕事体験の様子の写真を見る。 ・どのような学習をしたのか、教師からの問いに答える。 ・個別の実態に応じて、質問に答える。	・発問の内容 ①お仕事に行った場所 ②お仕事の内容 ③お仕事体験の約束 ※この中から2、3名に発問する。 重点②自立活動の視点 ・問いに答えることが困難な場合、その問いと関連している写真を提示する。 重点①個別最適な学び ・個別の実態に応じ、タブレット端末で回答を二択で提示する。	
10:40	□発表しよう ・清掃班が前に出て整列をする。 ・スライドを映しながら一人ずつ順番に発表する。 ・全員が発表したら着席をする。 ・装飾班が前に出て整列する。 ・スライドを映しながら一人ずつ順番に発表する。 ・全員が発表したら着席をする。	重点①個別最適な学び ・時間いっぱい仕事ができただどうかの発表をする。（keynote又はDropTap） 重点③「協働的な学び」 ・児童が協力して、発表することができる。 ICT共通事項 伝える力の育成 ・動画を見て活動を振り返り、お仕事体験で良かった点を考え、発表できるように促す。	

10:55	□まとめ 今後、中学部で作業学習をすることを知る。 (中学部の作業の様子を見る)	中学部の作業学習の写真に注目するように促す。
11:05	□終わりの挨拶 挨拶をする。	6年生の日直を指名する。 - 日直に注目するように支援する。

配置図



※児童 F はリモートでの対応のため別室で学習を行う。(ST2が対応)

単元を通して

□児童生徒の学習の様子 (ICT を手立てとして活用することで)

ICT 共通事項「タブレット端末等を使用し伝える力」

重点①「個別最適な学び」「自分のできる仕事を時間いっぱい取り組むことができる。」

重点②「自立活動の視点」「コミュニケーションの基礎、挨拶・返事・報告を実践することができる。」

重点③「協働的な学び」 「児童が協力して、スライドを作ることができる。」

□使用した ICT 機器およびアプリ

ICT 機器・・・iPad

アプリ・・・keynote DropTap GoogleForms

生活単元学習 「クリスマス会」 単元計画

単元名		「クリスマス会」			期間	12月2日（月）～12月20日（金） 計7時間		
目標		【知識・技能】 - クリスマス会の内容や自分の役割を知ることができる。 - 文字入力や写真の撮り方、イラストの保存方法を知ることができる。（情報） - 検索機能を使い、クリスマスに関する情報を得ることができる。（情報） 【思考・判断・表現】 - 作成物についてイメージを持ち、タブレットを使い自分ができる方法で表現する事ができる。（意思） - スライドや音声再生機能を活用して、クリスマス会を進行する事ができる。（意思・コミュ・自立） - イラストや写真を活用して、クイズやスライドをより伝わりやすくする事ができる。（情報） 【学びに向かう力、人間性等】 - 役割を担い、他者と協力しながらクリスマス会の準備をすることができる。 - 準備で作成した物を活用し、自分たちで友達や先輩達にクリスマス会の内容やクイズの内容を伝えることができる。（意思・コミュ・情報・自立）					【学年で育成したい「生きる力」】 （*本単元と関わって） - 意思表示 - コミュニケーション - 情報活用 - 自立	
教科等との関連		生活、国語、社会、美術						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
12月2日（月） 3校時	ワークスペース	「クリスマス会 オリエンテーション」 - クリスマスについて知る。 - クリスマス会があることを知る。 - いつ、誰と、何をやるのかを知る。 - 準備のスケジュールや、自分の役割を知る。	○		○	1年 2年	大山	

12月4日(水) 3校時	1年1組 1年3組	「クリスマス会の準備をしよう①」 【司会グループ】 ON、IS、OY、KK(大山、加藤t、松井t) - Canvaの共同編集機能を使い、他者と協力しながら掲示用プログラムを作成する。 TS、WA、KY、SH(大山、戸坂t、佐藤t) - Canvaで動く掲示版を作成する。 【クイズグループ】 - Kahoot!の使い方を知る。 - 教師が作った問題を基にKahoot!で〇×クイズを作成する。(1人1問 計5問) - Canvaのアンケート型式のテンプレートに、お菓子やジュースの写真を挿入しアンケートを作成する。	○	○	各グループ	司会 G→大山、戸坂加藤、佐藤松井 クイズ G→根井、佐々木	【司会 G】 ICT 伝えるべき事を理解し、文字で入力したり、クリスマスの題材に合うイラストを選択し挿入したりして、プログラムや掲示版を作成する。(意思) 【クイズ G】 ICT 検索機能を使い、クイズに合うイラストを見つけて保存し、アプリ内に挿入する。(コミュ、情報) ICT クイズに合う写真を撮り、アプリ内に挿入する。(コミュ・情報)
12月9日(月) 3校時	1年1組 1年3組	「クリスマス会の準備をしよう②」 【司会グループ】 - 作りたい飾りを選択する。(Keynote) - 手順を見ながら飾りを制作する。(Keynote) - お菓子アンケートの結果を見て、次回の生単で買いに行くお菓子を確認する。 【クイズグループ】 - クリスマスに関する情報を調べてクイズを考えたり、学校に関するクイズを考えたりする。 - ワークシートにクイズの問題文と使う画像、画像の入手方法を書く。 - ワークシートを基に、Kahoot!で〇×クイズを作成する。 - お菓子・ジュースアンケートを集計する。	○	○	各グループ	司会 G→大山、戸坂加藤、佐藤松井 クイズ G→根井、佐々木	【司会 G】 ICT 自分の顔写真を作りたい飾りの場所に移動させ、選択する。(意思) ICT 進度に合わせてスライドを自分で操作しながら、飾りを制作する。(自立) 【クイズ G】 ICT 検索機能を使い、クリスマスに関する情報を調べる。(情報) ICT クイズに合うイラストや写真を用いてクイズを作成する。(コミュ、情報)

12月11日 (水) 3校時	1年1組 1年3組	「クリスマス会の準備をしよう③」 【司会グループ】 ・クリスマス会で食べるお菓子を買に行く。 【クイズグループ】 ・スライド作成にあたってのポイントを知る。 ・小さな文字のみでできたスライドを基に、文字サイズや色の変更、イラストや写真の挿入をして、より伝わりやすいスライドにする。(Keynote)	○	○		各グループ	司会 G→ 大山、戸坂 加藤、佐藤 松井 クイズ G →根井、 佐々木	・校外学習計画書を作成し、決裁する。 ・救急バックと検索カードを持参する。 【クイズG】 ICTより伝わりやすいスライド作成に必要な画像を、写真撮影をしたり、検索機能を使ったりして入手する。 ICTイラストや写真を用いて、クイズの参加方法や約束を説明するスライドを作成する。(コミュ、情報)
12月16日 (月) 3校時	1年1組 1年3組	「クリスマス会の準備をしよう④」 【司会グループ】 ・手順を見ながらお菓子をラッピングする。 ・写真を見て位置を確認しながらホワイトボードに飾り付けする。 ・司会のリハーサルを行う。 【クイズグループ】 ・クリスマス会当日のリハーサルを行う。 KA、YS→参加方法、ルール説明、練習問題 NK、HM、SM→約束説明、本番問題	○	○		各グループ	司会 G→ 大山、戸坂 加藤、佐藤 松井 クイズ G →根井、 佐々木	【司会G】 ICT進度に合わせてスライドを自分で操作しながら、お菓子のラッピングをする。(自立) ICTドロップタップやKeynoteを使い一人で司会をする練習をする。(意思) 【クイズG】 ICT作成したスライドを操作しながら説明する練習をする。(コミュ) ICT友達の様子を見ながら、Kahoot!でクイズを進行する練習をする。(コミュ)
12月18日 (水) 3校時		「クリスマス会① 2年生によるゲーム」 ①クリスマス会の内容を知る(福士) ・PPの説明を聞く ②1、2年生でモルックを行う(2年生司会) ・司会の話を聞き、チームやルールを知る	○	○		1年2年	福士	・ワークスペースに椅子を持って集合。 ・1試合、30点15分で行う予定。 ・競技中は2年生が倒れたスキttlを立てる。 ・チームは1、2年生混合で行う

		・4チームに分かれ、試合を行う（1チーム2試合） ・試合後、司会の結果発表を聞き、最初の場所に戻る ③次回の活動を知る（福土） ・次回は、1年生によるゲームや乾杯をする旨を聞く						・ワークスペースの真ん中に障害物を立て、反対コートまでモルックが飛ばないようにする。
本時 12月20日 （金） 3校時	ワークスペース	「クリスマス会② 1年生によるゲーム」 ・クリスマス会の内容を知る。 ・クイズグループによる説明を聞き、クイズに参加する。（練習5問 本番10問） ・乾杯をする。 【司会グループ】 ・クリスマス会の司会を行う。 【クイズグループ】 ・クイズの参加方法や約束の説明をする。（Keynote） ・クイズの出題をする。（Kahoot!）	○	○	○	1年 2年	大山	【司会G】 ICT ドロップタップを使い、台本の文字やイラスト、写真と同じ物をタップして司会をする。（意思） 【クイズG】 ICT 作成したスライドを操作しながら説明する。（コミュ） ICT 友達の様子を見ながら、Kahoot!でクイズの進行をする。（コミュ）

「 クリスマス会 」単元の評価

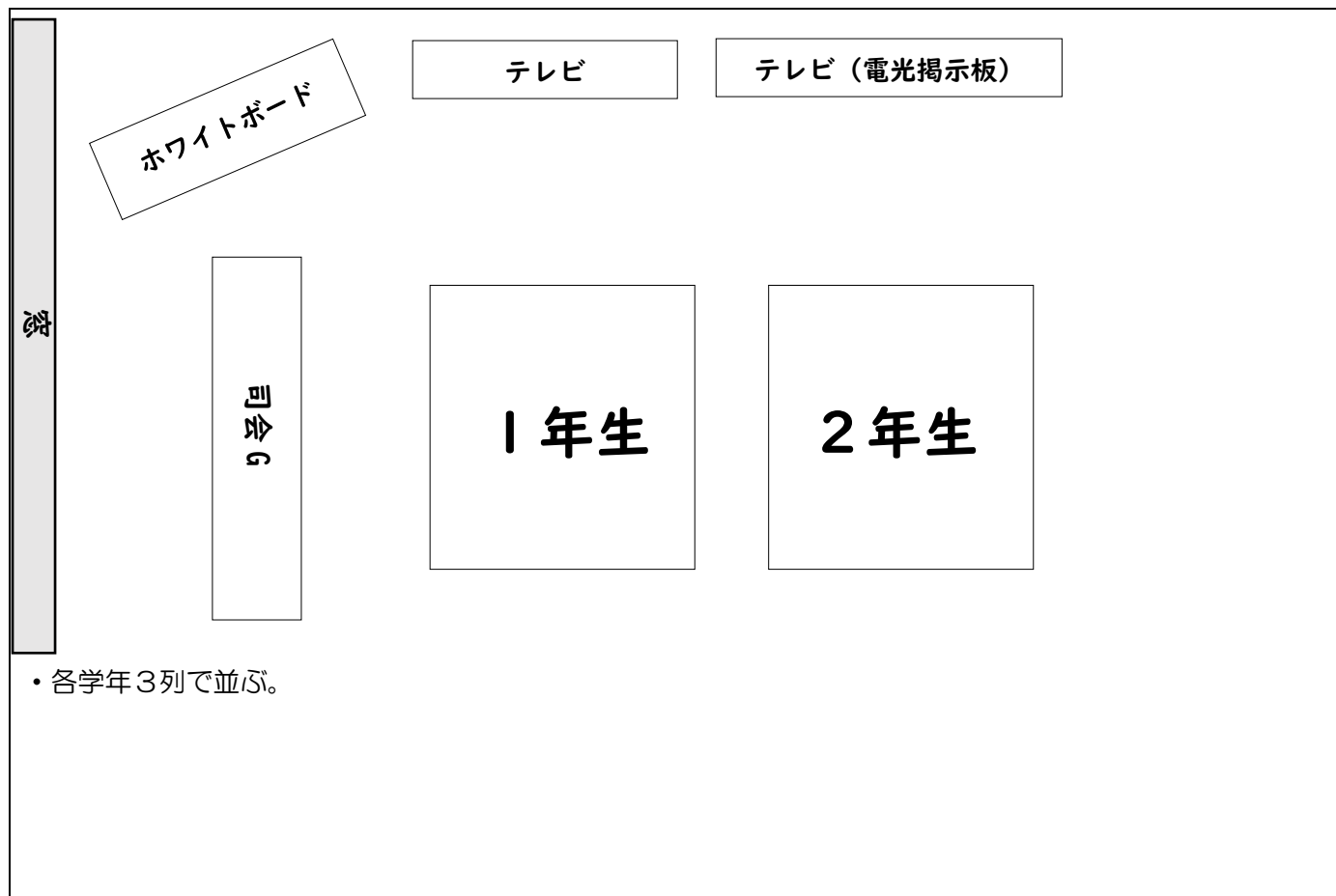
期間や時期	良い・要改善（ ）	学習内容	良い・要改善（ ）
単元における児童生徒の学習の様子			
O.N.		K.A.	
N.K.		H.M.	
Ot.Y		Oz.Y	
K.K.		T.S.	
W.A.		I.S.	
K.Y.		S.M.	
S.H.		Y.S.	

生活単元学習 学習指導案

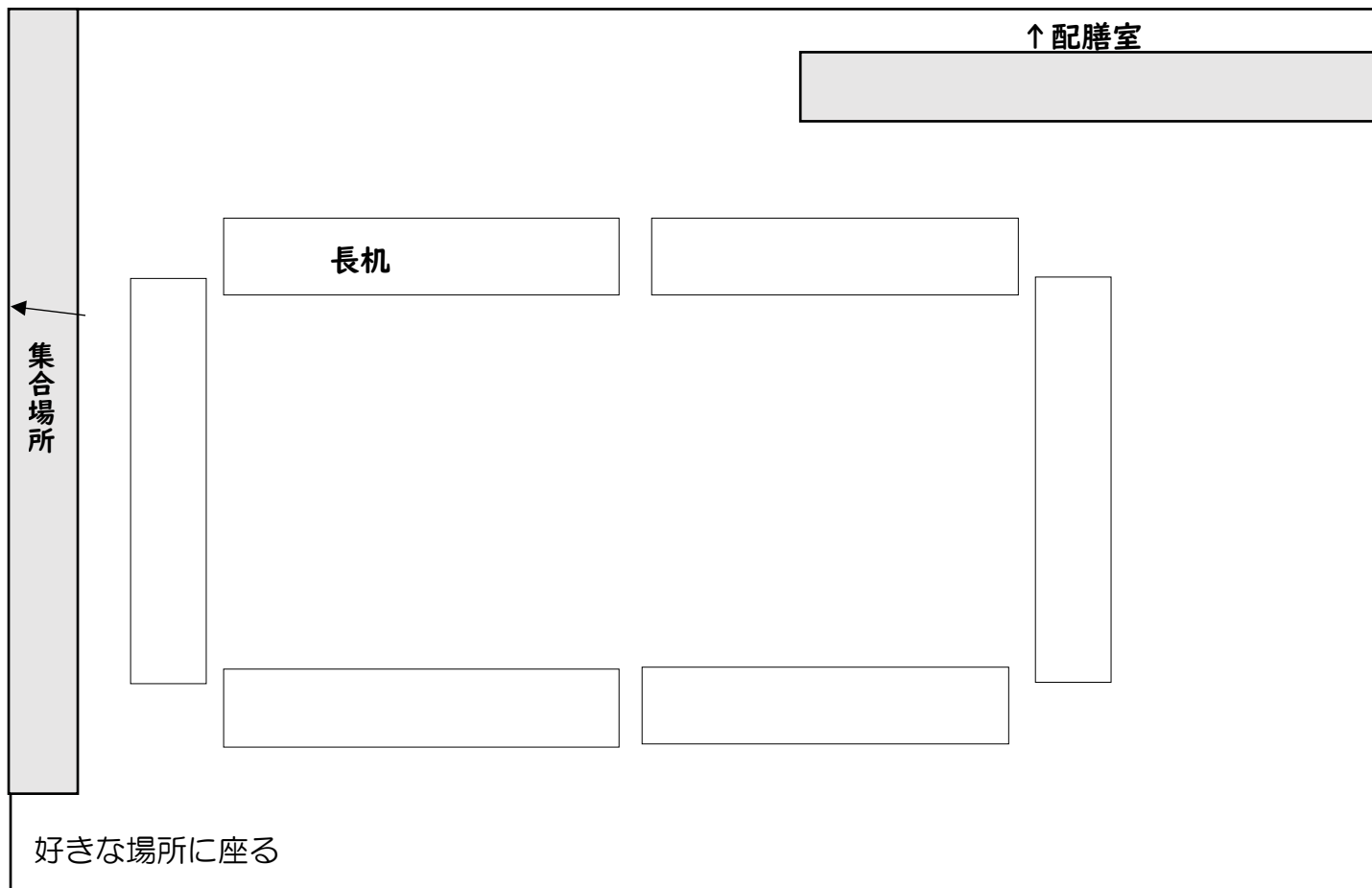
題材名	クリスマス会②			
日時	12月	20日(金)	3校時	担当 MT:大山 ST: 12名
場所	ワークスペース		学習集団	中1年、2年
教材・教具	TV×2、教師用タブレット、生徒用タブレット、appleTV、長机×7、お菓子、ジュース			
本時の目標	【知識・技能】・クリスマス会の内容を知ることができる。(全員) ・スライドや音声再生機能进行操作して、クリスマス会の進行をすることができる。(司会G) ・アプリ进行操作して、クイズの進行をすることができる。(クイズG) 【思考・判断・表現】・〇か×か、正しいと思う方をタップレクイズに答えることができる。(全員) ・伝えたいことを、スライド操作や音声再生、イラスト選択で表出することができる。(司会G) 【学びに向かう力、人間性等】・友達や先輩達に、クリスマス会の内容を伝えようとするすることができる。(司会G) ・伝わっているかどうかを意識しながら、クイズの説明や進行をすることができる。(クイズG)			
時程	学習活動		指導・支援	
10:20	椅子を持ってワークスペース集まる。 □はじめのあいさつ 【司会グループの生徒】 ・ドロップタップやKeynoteのスライドを使って司会をする。		・号令係のほうに顔を向ける。 ・発声できる生徒には発声を促す。 重点①個別化→OY、KK、TS、WA、KY、SH ・ドロップタップを使い、台本の文字やイラスト、写真と同じ画像をタップすることで音声を再生し、1人で司会を行えるようにする。 ・生徒が司会をする場所に立ったら、ドロップタップを開いた状態でタブレットを渡す。 重点①個別化→ON、IS ・Keynoteのスライド进行操作し、文字を読んだり、音声を再生させたりし、1人で司会を行えるようにする。 ・スライドをTVに接続してからタブレットを渡す。	
10:22	□クイズ大会 ・クイズの参加方法や回答方法を知る。 ・タブレットを操作し、学校やクリスマスに関する〇×クイズに答える。(Kahoot!) ・得点ランキング上位3位の生徒を表彰する。		ICT 共通事項 ・Kahoot!でクイズに答える。 →テレビに表示される問題に注目する。 →〇か×か、正しいと思う方をタブレットをタップしてクイズに答える。 →得点ランキングの途中経過、最終結果を確認する。 重点①個別化→TS ・アクセスガイドでクイズに関係のない操作ができないようにする。 重点①個別化→ON、KK、TS、WA ・青が〇、赤が×と分かるようにカードを用意する。	

10:42	【クイズグループの生徒】 - 自分たちが作成した Keynote のスライドを操作し、クイズの参加方法や回答方法を説明する。 - Kahoot! を操作し、クイズを進行する。 - 得点ランキング上位3位の生徒を表彰する。 □乾杯をしよう - 学級学年関係無く好きな席に座る。 - ジュースとお菓子を受け取る。 - 乾杯をし、お菓子を食べる。 - 片付けをする。 【クイズグループの生徒】 - アンケート集計を基に振り分けたジュースを配る。 【司会グループの生徒】 - Keynote のスライドを使い、お菓子やジュースのゴミを捨てる場所を伝える。	重点①個別化→KA、NK、SM、YS - 事前に自分たちで作成したスライドを活用してクイズの参加方法や回答方法を、友達と先輩達に伝える。 - 友達や先輩達の様子を確認しながら Kahoot! でクイズの進行をする。 - 長机は授業開始前に用意しておく。 - 接触や転倒がないように移動の支援をする。 - 必要に応じて、お菓子やジュースの開封の支援を行う。 ※10:55 から片付けをする。残ったお菓子は記名し、持ち帰る。 - 号令係のほうに顔を向ける。 - 発声できる生徒には発声を促す。
11:02	□おわりのあいさつ	

配置図



乾杯する時



□児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

ICT 共通事項

重点①個別化

□使用した ICT 機器およびアプリ

ICT 機器・・・iPad, Apple TV

アプリ・・・DropTap, keynote, Kahoot!

音楽科 「 冬の音楽 」 単元計画

単元名		「冬の音楽」			期間	11月12日（火）～12月20日（金） 計13時間		
目標		【知識・技能】 ・音の高さや大きさ、長さを変えて歌唱することができる。 ・色楽譜や教師の合図を見聞きして器楽の演奏をすることができる。 【思考・判断・表現】 ・曲の速度やリズムに合わせて歌ったり、演奏したり、身体を動かしたりしながら表現することができる。 ・自分の役割を理解し、友達と声や音を合わせながら歌唱や器楽演奏に取り組むことができる。 ・曲や演奏のよさなどを見いだしながら音や音楽を味わって聴き、そのよさや感じたことを表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・主体的に歌を歌ったり、身体を動かしたりすることができる。 ・様々な音楽に触れながら興味や関心を高め、曲や演奏のよさなどを見いだしながら聴くことができる。 【学年で育成したい「生きる力」】 （＊本単元と関わって） ・意思表示(以降、意思) ・自分で考える(以降、自分) ・自ら取り組む意欲(以降、自ら)						
教科等との関連		国語、数学、体育、自立活動						
個別の指導計画との関連								
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考
			知	思	主			
11月12日（火） 11月19日（火） 11月26日（火） 12月3日（火） 12月10日（火）	音楽室	【歌唱】「栄光の架橋」 ・声の高低や強弱を考えながら発声練習をする。 ・手本や歌詞に合わせて歌唱する。 ・発声方法（強弱、ロングトーンなど）を意識して歌唱する。 ・歌詞に合わせて手話で表現する。	○	◎	○	学年	井島	火曜日は、歌唱と身体表現、鑑賞を行う。 ICT発声する言葉や歌詞、手話をスライドで確認する。（自分、自

【学年で育成したい「生きる力」】
(※本単元と関わって)

- 意思表示(以降、意思)
- 自分で考える(以降、自分)
- 自ら取り組む意欲(以降、自ら)

12月17日(火) 5校時 12月20日(金) 4校時【本時】		・歌唱の様子を動画で見ながら、自分の姿や友達の様子を振り返る。 【身体表現】「はいよろこんで」 ・曲や動画を見聞きしながら身体を動かしたり、曲の速度やリズムに合わせて身体表現をしたりする。 ・身体表現の様子を動画で見ながら、自分の姿や友達の様子を振り返る。 【鑑賞】 ・自分の好みの曲や興味がある曲を紹介する。(DropTap アプリ、Pages アプリ) ・友達や教師からの紹介曲に興味をもち、曲や動画を見たり聴いたりする。 ・鑑賞した感想を選択肢から選び、発表する。(Canva アプリ、DropTap アプリ)						ら)。 ICTカメラ、写真機能を活用し、自分や友達の姿を確認する。(意思、自分) ICTカメラ、写真機能を活用し、手本を確認する。(自分、自ら) ICTDropTapアプリ、Pagesアプリで紹介事項をまとめたり、音声で伝えたりする。(意思、自分、自ら) ICTDropTapアプリやCanvaアプリで自分の思いを表現する。(意思、自分、自ら)
11月14日(木) 11月21日(木) 11月28日(木) 12月5日(木) 12月12日(木) 12月19日(木) 2校時	音楽室	【器楽演奏】「カノン(打楽器)」「リズム打ち(和太鼓)」 ・色楽譜を見ながら演奏する。(写真アプリ) ・リズムや速度を意識して演奏する。 ・友達の楽器の音や伴奏を聴きながら、音を合わせて演奏する。 ・器楽演奏の様子を動画で見ながら、自分の姿や友達の様子を振り返る。 【鑑賞】 ・自分の好みの曲や興味がある曲を紹介する。(DropTap アプリ、Pages アプリ) ・友達や教師からの紹介曲に興味をもち、曲や動画を見たり聴いたりする。	◎	○	○	学年	井島	木曜日は、器楽演奏と鑑賞を行う。 ICT曲や担当楽器をスライドで確認する。(自分、自ら)。 ICTカメラ、写真機能を活用し、楽譜や手本を確認する。(自分、自ら)。 ICT写真機能を活用し、楽譜を操作しながら演

		・鑑賞した感想を選択肢から選び、発表する。(Canva アプリ、DropTap アプリ)						奏する。(自分、自ら) ICT カメラ、写真機能を 活用し、自分や友達 の姿を確認する。(意 思、自分) ICT DropTap アプリ、 Pages アプリで紹介事 項をまとめたり、音声 で伝えたりする。(意 思、自分、自ら) ICT DropTap アプリや Canva アプリで自分 の思いを表現する。(意 思、自分、自ら)
--	--	---	--	--	--	--	--	---

「 冬の音楽 」単元の評価

期間や時期	良い・要改善（ ）	学習内容	良い・要改善（ ）
単元における児童生徒の学習の様子			
A・R		O・H	
A・M		K・M	
T・H		S・K	
H・T		S・Y	
H・H		N・Y	
Y・R			

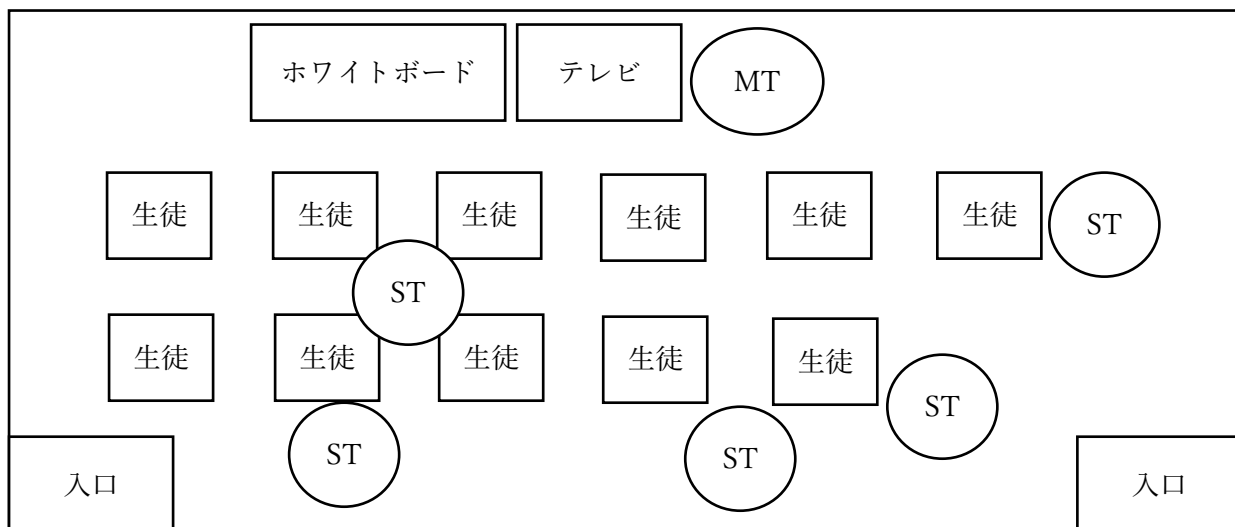
音楽学習指導案

題材名	冬の音楽		
日時	12月20日（金）4校時 11時10分～12時00分	担当	MT井島、ST中学部2年教員5名 学習支援員1名
場所	音楽室	学習集団	中学部2年 11名
教材・教具	TV、ipad、ホワイトボード、椅子、丸椅子、bluetooth スピーカー		
本時の目標	【思考・判断・表現】 ・手話を覚え、曲や歌詞に合わせて表現することができる。 ・友達が紹介する曲を鑑賞し、自分が思ったことや感じたことを伝えることができる。		
時程	学習活動	指導・支援	
11:10 11:12	音楽室に集合する □はじめのあいさつ ・指名された生徒は前で挨拶を行う。	1組と2組に分かれて座る。 ・姿勢を整えて行うように支援する。	
11:13	□本時の説明 ・教師の話を聞く。 ・今日の目標を確認する。 歌唱、手話「手話を覚えて、手を動かそう」 鑑賞「気に入ったところをみつけて、伝えよう」	・テレビやMTに注目するように支援を行う。	
11:15	□発声練習 ・「あいうえお」で声を出す。 ・大きい声、小さい声など変化をつけて発声する。	・マスクをはずし、口を大きく開けるように支援する。 ・練習回数をホワイトボードに表示する。 ICT 共通事項	
11:20	□歌唱、手話「栄光の架橋」 ・頑張る部分の手話とやり方を確認する。 ・手本を見聴きしながら、歌ったり手話で表現したりする。	発声する言葉や歌詞、手話をスライドで示す。 ・テレビへの注目を促し、歌詞をよく見て歌うように言葉掛けを行う。 ・テレビへの注目を促し、手を動かすように支援を行う。 ・個別的に手添えやタイミングを知らせるなどの支援を行う。 ・振り返りで使用するため、動画撮影をする。 ・発表の生徒は前に行くように促す。	
11:35	□身体表現「はいよろこんで」 ・頑張る部分の振りや身体の動かし方を確認する。 ・手本を見て、振りやリズムを確認する。 ・手本を見ながら曲や振りに合わせて身体を動かす。	ICT 共通事項 ・カメラ、写真、動画機能を活用し、手本の確認を行う。 ・テレビへの注目を促し、大きく身体を動かすように支援する。 ・個別的に手添えやタイミングを知らせるなどの支援を行う。	
11:45	□ 鑑賞（生徒K.Mさん） ・鑑賞中や鑑賞後の頑張るポイントを確認する。 ・生徒K.Mさんが選んだ動画や曲を見たり、聴いたりする。	・担当の生徒は前に出て紹介をするように促す。 ICT 共通事項 ・Canvaアプリで自分の感想を意思表示する	

	- 鑑賞した感想を「好き」「嫌い」で選択する。（Canva） - 鑑賞した感想を「どこが？」の選択肢から選択する。（Canva） - 自分の選択をもとに鑑賞した感想を発表する。	ことができるように支援を行う。 重点③協働的 - 生徒が自分で選択する様子をテレビで見せることで、友達がどのような感想をもっているのかを知ることができるように支援する。 重点④自立活動 - コミュニケーション手段として、自分の意思表示ができるように支援する。 - 個別にDropTapアプリを使い選択への補助を行う。 - 鑑賞した感想をより具体的に答えるように個別的に言葉掛けをする。 - 振り返りで使用するため、動画撮影する。
11:55	□目標の振り返りと次回の予告。 - 動画を見て、目標の振り返りをする。 「とても頑張った」「頑張った」「もう少し」の中から目標に対しての自己評価を選択する。（Canva） - 次回の学習についての説明を聞く。	重点③協働的 - 生徒が自分で選択する様子をテレビで見せることで友達がどのような感想をもっているのかを知ることができるように支援する。 重点④自立活動 - コミュニケーション手段として、自分の意思表示ができるように支援する。 - 個別にDropTapアプリを使い選択への補助を行う。 - テレビへ注目するように言葉掛けを行う。 - 目標に対して自分の様子がどうだったかを確認しながら振り返られるように支援する。
12:00	□おわりのあいさつ 指名された生徒は挨拶を行う。	- 前に出て大きな声で挨拶を行う。 2組から椅子を片付けて教室へ戻る

*「個別最適な学び」「協働的な学び」「自立活動の視点」について、いずれかの重点を1つ以上記載する。

「配置図」



☐児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

☐ICT 共通事項

☐重点③協働的

☐重点④自立活動

☐使用した ICT 機器およびアプリ

☐ICT 機器…

☐アプリ…

中3美術科 単元計画

単元名		「大昔の苦小牧を知ろう」			期間	1 1月25日（月）3校時 ～1 2月23日（月）4校時			計 9時間
目 標		【知識・技能】 ・粘土を伸ばしたり、たたいたりして制作することができる。 【思考・判断・表現】 ・いくつかの土器や土偶を見て、形や模様などに注目する。 ・作りたい物を検索して、制作に取り組む。 【学びに向かう力、人間性等】 ・発表を聞いて、友達の作品の良さに気づくことができる。 ・自分の作品の良さを発表することができる。			【学年で育成したい「生きる力」】 * 本単元と関わって ・選択する力 ・自分で考える ・自ら気付く				
教科等との関連		国語、数学、理科、社会							
個別の指導計画との関連									
実施日	学習場所	学習内容	評価項目			学習形態	担当	備考	
			知	思	主				
1 1月25日（月） 2校時	作業室	「オリエンテーション」 ・この題材で何を行うか見通しをもつ。 ・この題材の学習予定について知る。 ・好きな土偶や土器を選んで発表する。	○	○	○	学年	村井	ICT 好きな土偶や土器を画面から選択して発表する。 （意思、選択、自分で考える）	
1 1月27日（水） 3校時	多目的室	「大昔の苦小牧を知ろう」 ・苦小牧市美術博物館の方を講師に招き、講話を聞く。 ・実際の土器や土偶を見たり、触ったりして大昔のくらしについて知る。（想像する）。	○	○	○	学部	村井		
1 2月2日（月） 6日（金） 9日（月）	教室	「土偶、土器を作ろう」 ・紙粘土を使って、粘土で基本的な制作を行う。 ・紙粘土で好きな色作り、土器や土偶を作る。	○	○	○	学年	村井	ICT 作りたい土偶や土器を検索する。 （意思、選択）	

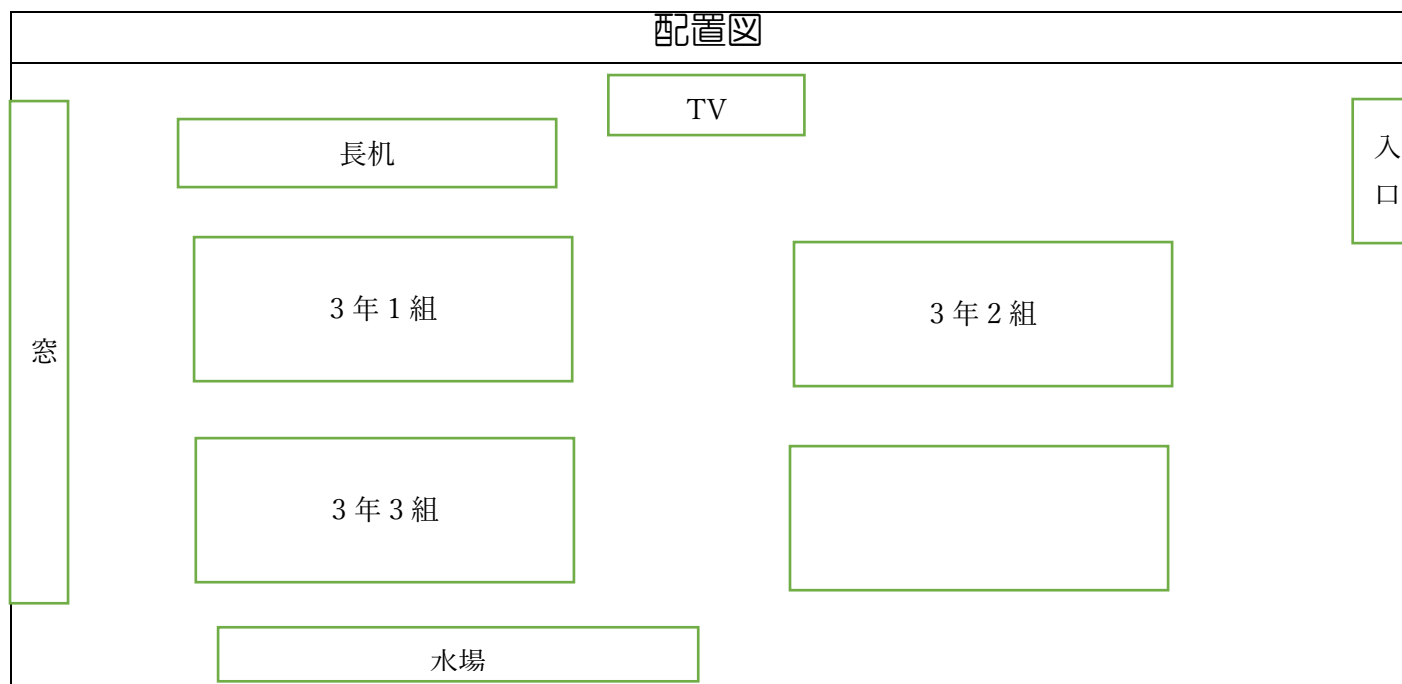
13日（金） 16日（月）		・土粘土を使って、土器や土偶を作る。 ・振り返りで、友達の作品や発表を見る。						
20日（金） 本時	作業室	「振り返り、まとめ」 ・ワークシートに感想をまとめる ・作品を作る上で苦労したこと、がんばったことなどを発表する。			○	学年	村井	・公開研究 ICT 友達の作品で好きな物を選択して発表する。 （自分で考える、自ら気付く、意思、選択）

「大昔の苦小牧を知ろう」単元の評価

期間や時期	良い・要改善（ ）	学習内容	良い・要改善（ ）
単元における児童生徒の学習の様子			
K.S.		Kud.K.	
N.Y.		M.K.	
Kur.K.		K.T.	
Y.A.			
K.J.		S.H.	
S.T.		Y.M.	

中3美術科 学習指導案

題材名	大昔の苦小牧を知ろう～まとめ		
日時	12月 20日（金） 3校時	担当	村井
場所	作業室	学習集団	3年 11名
教材・教具	テレビ、iPad、ライトニングケーブル、ワークシート、写真、のり		
本時の目標	【学びに向かう力、人間性等】 自分の作品の良かったところを考えて（選択して）、発表する。 友達の作品から好きな作品を選択して、発表する。 友達の作品の良さに気付く。		
時程	学習活動	指導・支援	
10:20	- 学級ごとに座る。 □はじめのあいさつ ・はじめのあいさつをする。	- 生徒に自分の席に座るよう促す。 ・日直を指名する。 ・姿勢を正して挨拶をするよう促す。	
10:25	□本時の説明 ・TV画面を見て学習内容を知る。	・テレビに注目するよう促す。	
10:35	□振り返り ・動画を鑑賞し、この題材で何を行ったか確認する。	ICT 共通事項 ・テレビに注目するよう促す。 ・写真の補足を必要に応じて行い、本題材の活動を振り返ることができるよう支援する。	
10:35	□ワークシート作成 ・写真を選択する。 ・頑張ったことなどを自分で考えて記入、または選択肢から感想とする。	・ワークシートは、選択式と記述式のプリントを用意し、記述式を選択した生徒も選択式を見本にできるように提示する。	
10:35	□発表 ・頑張ったこと、工夫したことなどをワークシートを見ながら発表する。	・生徒の話をよく聞くように促す。 重点①個別化 →KS、NY、KT、SH	
10:35	・友達の作品を鑑賞する。	・生徒の実態に応じて、復唱したり、画面を指差ししたりするなど発表支援を行う。	
10:35	・友達の作品から好きな作品を一つ選んで発表する。	重点③協働的 ・友達やテレビに注目して、発表を聞く。 ・友達の作品の良さに気付けるように支援する。 ・Keynoteを使用して、選択→発表できるようにする。	
10:55	□片付け ・ワークシートをファイルに綴じる。	・各学級1名、ファイルを取りに来るように伝え、ファイルを配布する。 ・ファイルに綴じるための支援をする。	
11:05	□おわりのあいさつ ・おわりのあいさつをする。	・日直を指名する。 ・姿勢を正して挨拶をするよう促す。	



□児童生徒の学習の様子（ICT を手立てとして活用することで）

ICT 共通事項

重点①個別化

重点③協働的

□使用した ICT 機器およびアプリの紹介

ICT 機器…iPad,

アプリ…カメラ Keynote、iMove

第 5 章

研究のまとめ



I 研究の成果

1. 結果

令和5年度および令和6年度研究主題『ICTを活用した生きる力を育む授業の実践を目指して』に2か年計画で取り組み、第2章および第3章(R6各学年の研究報告)の通りの結果が得られた。8学年中7学年(*1)が概ね「生きる力」を育むことができたと回答していることから、研究仮説「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力(*2)を育むことができるだろう。」は概ね立証できたとと言える。

*1 小学部1年から中学部3年まで学年は9つあるが、令和6年度は小学部5・6年が合同で学年研究を行ったため、全8学年としている。

*2 当該学年が育成を目指した「生きる力」については、学年の実態に応じて、教育目標を土台として、望ましい「生きる力」を設定している。

2. 考察

仮説の立証に至った理由については、次の3つが考えられる。

第一に、各学年の研究報告から分かるように、教師が授業にICT活用を取り入れ、児童生徒が活用しやすい環境を整え、ICTを主体的に使っていることが挙げられる。このことは、「生きる力」の育成のために、各学年で必要なICT活用を積極的に考え、的確な指導・支援を検討したことによるものであると考えられる。また、研究の副題「ICTを活用した授業づくりの基礎を通して(1年次)」「ICTを活用した授業づくりの実践を通して(2年次)」の文言通り、1年次の取り組み始めでは、「授業の中でICTに触れてみる」「使用する際の約束を確認する」など、各学年でICT活用の素地を培ってきた。2年次では、「毎回の振り返りの場面で活用する」「児童生徒が主体的に操作する」など、さらにICT活用が進んだことが分かる。

第二に、各学年の単元計画や学習指導案から分かるように、研究の重点として掲げた「個別最適な学び」「協働的な学び(2年次～)」「自立活動の視点(2年次～)」を意識した授業づくりが挙げられる。本研究では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のため、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が必要なこと、そして、障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服する自立活動の視点を取り入れることとした。(*3)1年次は学習指導案に研究の重点を記載することとし、2年次は単元計画にも研究の要素を取り入れ、単元や時間のまとまりで学習内容を見通し、育成を目指す「生きる力」をどの学習でどのように育てていくか、より实际的に計画・運用できたことが成果に繋がったと考えられる。

第三に、各学年の研究授業等の取組から分かるように、学年が一つになった授業づくりが挙げられる。今年度で言えば、5月末に行われた「生きる力」・ICT活用の仕方に関する話し合いから、学習計画の構想・立案、具体的な資料の作成、学年での複数回に及ぶ単元計画および指導案検討について、何度も議論を重ね、綿密に授業づくりを行ってきた。また、本研究では、2年間にわたって、北海道教育庁ICT教育推進局ICT教育推進課ICT教育推進係主任指導主事 田野大介氏に御支援を賜り、折に触れて専門的な知見から有益な御助言をいただいた。田野氏からいただいたフィードバックを授業改善の視点としつつ、各学年が力を合わせ、授業の質をより高めていくことに傾注したことが「生きる力」育成に通じたポイントであると考えられる。

以上が、研究仮説「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。」の立証に至った理由である。

*3 ただし、1年次は「個別最適な学び」の重点を取り入れ、2年次には3つの重点のうち1つ以上を授業に取り入れることとした

3. まとめ

この研究によって、次のことが明らかになったので以下にまとめる。

- (ア) 各学年で育成することができた「生きる力」の体系的図示(別添資料1)
(「知識・技能」「思考・判断・表現」「学習に向かう力・人間性」の3観点に分類)
- (イ) 各学年で育成することができた「情報活用能力」の系統的図示(別添資料2)(*4)
(参考:学習活動の視点から見た情報活用能力一覧)

*4 情報活用能力について、学年の児童生徒が概ね身に付けた場合は太字で表記、一部の児童生徒が身に付けた場合は、通常の字体で表記している。

II 今後の課題

I. 課題と今後の方向性

一方で、各学年の研究報告より、次のような課題または注意喚起も見受けられた。

- a. ICT 活用が目的とならないように、教師の ICT 活用スキル向上を図る研修の充実(課題)
- b. ICT 頼みにするのではなく、ICT の良さとアナログの良さ、実態に応じた手立てが必要である。(注意喚起)

a.については、学年研究という特性上、学年ごとに研究を進める必要があった。各学年にデジタルに秀でた教師もいれば、そうでない教師もいるため、ICT の活用法や活用の度合いに差異が生まれた。ICT 活用は「生きる力」育成の一翼を担う可能性があることから、今後も引き続き、ICT 指導力向上を図る研修等を推進していきたい。

b.については、GIGA スクール構想の考え方「これまでの我が国の教育実践と最先端の ICT のベストミックスを図り、…」からも分かるように、児童生徒の力を引き出すために、デジタルとアナログ双方の良さを取り入れ、実態に合わせた指導を行うことが必要である。

また、学習評価の充実が図られていないことも課題であった。本研究で言えば、当該学年で考えた育成したい「生きる力」(＝単元において達成を目指す姿)が児童生徒に身に付いたかどうか、目標に対応した観点別の評価規準を設定することで、より評価の信頼性が高くなり、研究の妥当性も高まったと考えられる。単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、児童生徒の資質・能力の育成に生かす(*5)ためにも、学習評価の充実を目指していきたい。

*5 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第1章総則 第4節 教育課程の実施と学習評価 3 学習評価の充実 より

III 参考文献等

- ・特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(文部科学省)
- ・特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料(文部科学省)
- 「GIGA スクール構想」について(文部科学省)
- ・学習活動の視点から見た情報活用能力一覧(北海道教育委員会 ICT 活用ポータルサイト)
- ・『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るための ICT 活用について』(北海道教育庁 ICT 教育推進局 ICT 教育推進課 ICT 教育推進係 主任指導主事 田野 大介氏)



学びに向かう力・人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

理解（見通しをもつ）
【主体的に学習に向かう
態度】（小3）

関わり
（小1）

コミュニケーション【他者
と関わろうとする態度】
（小3）

知識・技能

何を理解しているか
何ができるか

理解（友達の発表内容）
（小3）

受入・理解（調理時に気
を付けること・ポイント）（小4）

注目する力
（小1）

自分で（一部の調理、動
画の確認、自己評価）
（小4）

自立（制作の手順確認、
司会）（中1）

生み出す力
（小1）

思考力・判断力・表現力等

理解していること・
できることをどう使うか

選ぶこと
（小2）

選択する
（小3）

表出
（小3）

表出
（小4）

意思表示
（小1）

意思表示
（中1）

自分の意思を明確に分か
りやすく表出する力
（中2）

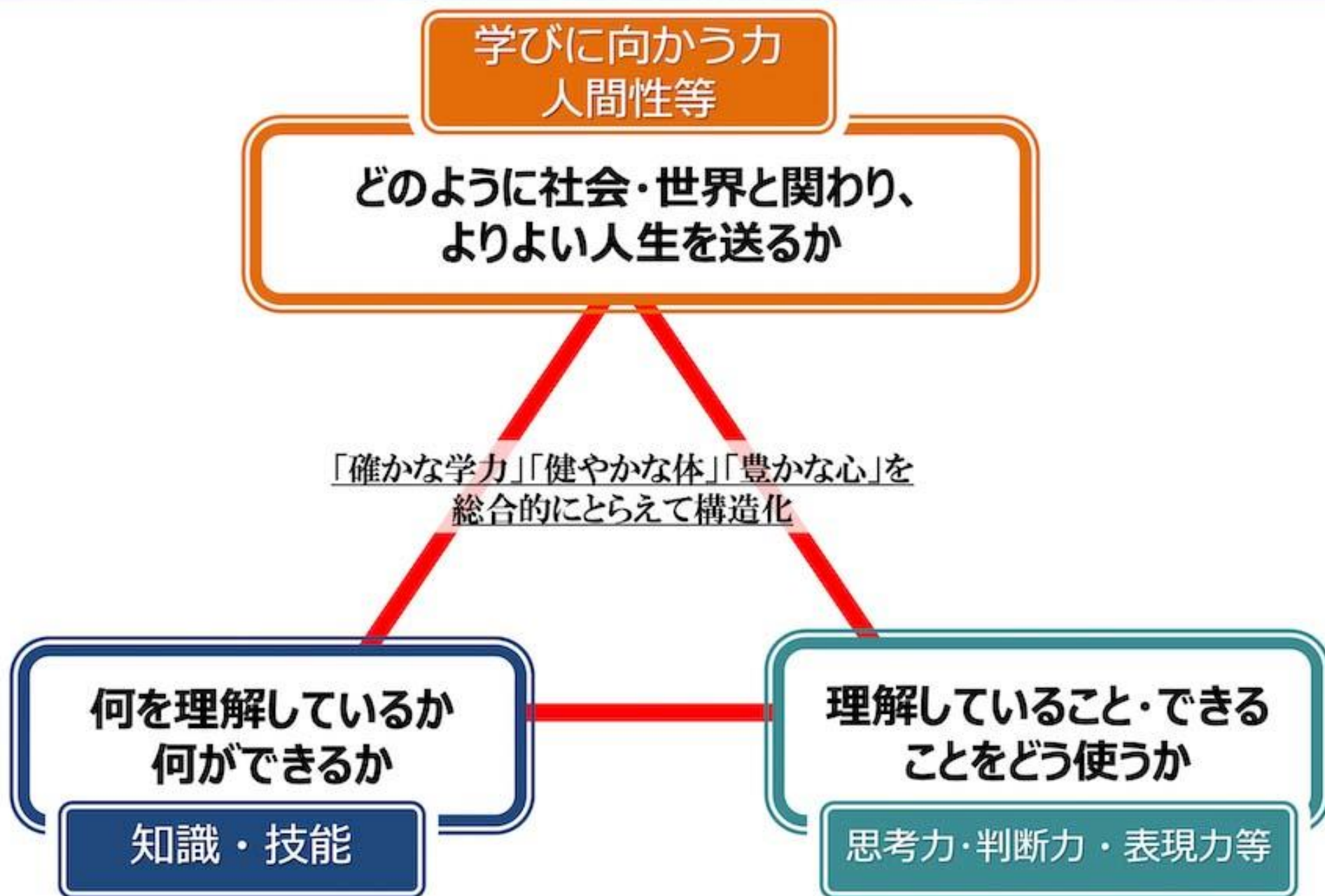
伝えること
（小2）

コミュニケーション【相
手や状況に応じた表現】
（小3）

コミュニケーション【相
手や状況に応じた表現】
（小5 6）

コミュニケーション【相
手や状況に応じた表現】
（中1）

育成すべき資質・能力の三つの柱



学習活動の視点から見た情報活用能力一覧（小学部１～３年）

※この指導例は「情報活用能力の体系表例（令和元年度版）全体版〔文部科学省〕」を基に作成したものであり、学校や児童生徒の実態等に応じて内容を変更して活用してください。

想定される学習内容	学習活動例	学校段階				
		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校
問題解決・探究における情報活用	・問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつ ・問題解決・探究における情報活用に関するもの 等	・身近なところから様々な情報を収集する方法（小１、小２、小３）				
		・簡単な絵、図、表、グラフを用いた情報の整理（小３） ・相手に伝わるようなプレゼンテーション（小３）				
		・情報活用を振り返り、よさを見つけること（小３）				
プログラミング	・単純な繰り返しを含んだプログラムの作成 ・問題解決のためにどのような情報を、どのような時に、どれだけ必要とし、どのように処理をするかといった道筋を立て、実践しようとするもの 等					
		・適切な手順の組み合わせを考え、実行（小１）				
情報モラル・情報セキュリティ	・クラウドサービス、SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付けるもの ・情報を多角的・多面的に捉えたり、複数の情報を基に自分の考えを深めたりするもの 等	・人の作ったものを大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があることの理解（小２、小３）				
		・インターネット（クラウドサービス含む）上でのルールやマナーを守り、情報を閲覧、活用すること（小３）				
		・コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする（小１、小２、小３）				
情報活用に関する読解	・紹介や説明、報告、意見や提案、主張など自分の考えを情報機器等を活用して話したり、書いたりする活動 ・インターネットなどを利用し、分かったことや調べたり考えたりしたことを報告する活動 ・インターネットなどを活用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動	・題名や小見出しなどに着目して必要な情報を発見（小３）				
		・資料の中から目的に合わせて情報を選択（小１、小３）				
アプリケーション（クラウドサービス内アプリケーション含む）等の活用例	基本的な操作	・入力インターフェースの操作（小１、小２）				
	ファイルの操作					
	キーボード入力、音声	・文字の入力（小１、小２、小３）、文章の入力・編集、文字を正確に入力することができる（小３）				
	インターネット	・インターネットによる検索（単語・キーワード）（小３）				
	画像処理	・写真の撮影（カメラ）（小１、小２、小３） ・ペイントアプリによる描画、色付け（小１、小２、小３） ・写真データの取り込み、写真や画像等を文書への挿入（小３）				
	プレゼンテーション					
	表計算					
	障がいに応じた活用例	・iPadの操作（小１、小２、小３） ・タブレットの拡大機能（小３） ・入出力支援機器（意思表示等）の活用（小１、小２）				

学習活動の視点から見た情報活用能力一覧（小学部4～6年）

※この指導例は「情報活用能力の体系表例（令和元年度版）全体版（文部科学省）」を基に作成したものであり、学校や児童生徒の実態等に応じて内容を変更して活用してください。

想定される学習内容	学習活動例	学校段階				
		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校
問題解決・探究における情報活用	・問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつ ・問題解決・探究における情報活用に関するもの 等	・身近なところから様々な情報を収集する方法（小4、小5 6）	・調査や資料等による基本的な情報収集の方法（小5 6）			
		・簡単な絵、図、表、グラフを用いた情報の整理（小4、小5 6） ・相手に伝わるようなプレゼンテーション（小4、小5 6） ・情報活用を振り返り、よさを見つけること（小5 6）				
プログラミング	・単純な繰り返しを含んだプログラムの作成 ・問題解決のためにどのような情報を、どのような時に、どれだけ必要とし、どのように処理をするかといった道筋を立て、実践しようとするもの 等	・大きな事象の分解と組み合わせの体験（小5 6）	・単純な繰り返し・データやプログラムの作成、評価、改善（小5 6）			
		・適切な手順の組み合わせを考え、実行（小5 6）				
		・プログラミングの学びを振り返り、良さを見付けようとする（小5 6）				
情報モラル・情報セキュリティ	・クラウドサービス、SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付けるもの ・情報を多角的・多面的に捉えたり、複数の情報を基に自分の考えを深めたりするもの 等	・人の作ったものを大切にすることや他者に伝えてはいけない情報があることの理解（小5 6）				
		・インターネット（クラウドサービス含む）上でのルールやマナーを守り、情報を閲覧、活用すること（小5 6）				
		・コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする（小5 6）				
情報活用に関する読解	・紹介や説明、報告、意見や提案、主張など自分の考えを情報機器等を活用して話したり、書いたりする活動 ・インターネットなどを利用し、分かったことや調べたり考えたりしたことを報告する活動 ・インターネットなどを活用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動	・題名や小見出しなどに着目して必要な情報を発見（小4、小5 6）	・目的に応じて、複数の情報の中から必要な情報を選択（小5 6）			
		・資料の中から目的に合わせて情報を選択（小5 6）	・二つ以上の情報の情報の中から、目的に合ったものを選択（小5 6）	・複数の情報の中から、適切な方法を使って課題解決に必要なものを選択（小5 6）		
アプリケーション（クラウドサービス内アプリケーション含む）等の活用例	基本的な操作	・PCの起動・終了（小4、小5 6） 入力インターフェースの操作、書画カメラの操作（小5 6）				
	ファイルの操作	・ファイルの保存（小4、小5 6）、ファイルを開く（小4、小5 6）				
	キーボード入力、音声	・音声による文字入力（小4）、文字の入力（小4、小5 6）、文章の入力・編集（小4）、タイピング（小4、小5 6）、文字を正確に入力することができる（小5 6）				
	インターネット	・インターネットによる検索（単語・キーワード）（小4、小5 6）				
	画像処理	・写真の撮影（デジカメ、タブレット等）（小4、小5 6） ・ペイントアプリによる描画、色付け 等（小5 6）				
	プレゼンテーション	・写真データの加工、写真や画像等を文書への挿入（小4、小5 6）、写真データの取り込み（小4）				
	表計算					
	障がいに応じた活用例	・iPadの操作（小4、小5 6） ・タブレットの拡大機能、読み上げ機能の活用（小5 6）				

学習活動の視点から見た情報活用能力一覧（中学部1～3年）

※この指導例は「情報活用能力の体系表例（令和元年度版）全体版（文部科学省）」を基に作成したものであり、学校や児童生徒の実態等に応じて内容を変更して活用してください。

想定される学習内容	学習活動例	学校段階				
		小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校
問題解決・探究における情報活用	・問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつ ・問題解決・探究における情報活用に関するもの 等	・身近なところから様々な情報を収集する方法（中1、中2、中3） ・簡単な絵、図、表、グラフを用いた情報の整理（中1、中2） ・相手に伝わるようなプレゼンテーション（中1、中2） ・情報活用を振り返り、よさを見つけること（中1、中2、中3）	・調査や資料等による基本的な情報収集の方法（中1、中2）			
プログラミング	・単純な繰り返しを含んだプログラムの作成 ・問題解決のためにどのような情報を、どのような時に、どれだけ必要とし、どのように処理するかといった道筋を立て、実践しようとするもの 等	・大きな事象の分解と組み合わせの体験（中1） ・適切な手順の組み合わせを考え、実行（中1）				
情報モラル・情報セキュリティ	・クラウドサービス、SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付けるもの ・情報を多角的・多面的に捉えたり、複数の情報を基に自分の考えを深めたりするもの 等	・人の作ったものを大切にすること（中1、中2、中3）や他者に伝えてはいけない情報があること（中1、中2） ・インターネット（クラウドサービス含む）上でのルールやマナーを守り、情報を閲覧、活用すること（中1、中2） ・コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする（中1、中2、中3）	・自分の情報や他人の情報の大切さについての理解（中1、中2）			
情報活用に関する読解	・紹介や説明、報告、意見や提案、主張など自分の考えを情報機器等を活用して話したり、書いたりする活動 ・インターネットなどを利用し、分かったことや調べたり考えたりしたことを報告する活動 ・インターネットなどを活用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動	・題名や小見出しなどに着目して必要な情報を発見（中1、中2） ・資料の中から目的に合わせて情報を選択（中1、中2、中3）	・目的に応じて、複数の情報の中から必要な情報を選択（中1、中2、中3） ・二つ以上の情報の情報の中から、目的に合ったものを選択（中1、中2、中3）	・目的に応じて、複数の情報の中から課題解決に役立つかを判断し、情報を選択（中1、中2） ・複数の情報の中から、適切な方法を使って課題解決に必要なものを選択（中1、中2）		
アプリケーション（クラウドサービス内アプリケーション含む）等の活用例	基本的な操作	・PCの起動・終了（中1、中2、中3）、印刷（中2）、入力インターフェースの操作（中1、中2、中3）、書画カメラの操作等（中2）				
	ファイルの操作	・ファイルの保存（中1、中2、中3）、ファイルを開く（中1、中2、中3）				
	キーボード入力、音声	・音声による文字入力、文字の入力、文章の入力・編集、タイピング、文字を正確に入力することができる（中1、中2、中3）				
	インターネット	・インターネットによる検索（単語・キーワード）（中1、中2、中3）				
	画像処理	・写真の撮影（デジタルカメラ等）（中1、中2、中3） ・写真データの加工、写真データの取り込み、写真や画像等を文書への挿入（中1、中2、中3）				
	プレゼンテーション	・プレゼンテーションアプリの活用（文字入力、グラフ、アニメーション）（中2）				
	表計算					
	障がいに応じた活用例	・iPadの操作（中1、中2、中3） ・タブレットの拡大機能、読み上げ機能の活用（中2） ・文字変換アプリの活用（中2） ・入出力支援機器（意思表示等）の活用（中2）				

第 6 章

研究資料



「基礎」から
「実践」へ！

研究日

5/29^水 6/26^水 7/24^水
13:45～ 体育館および各教室

5月末に今年度の校内研究がスタートしました。
昨年度と同様、2回の学年研究を通して、「どのような力を
育むか」、「そのためにどんなICTの活用が考えられる
か」、各学年でじっくりと話し合いをされました。



次のページ以降、学年ごとに出された情報・アイディアをグルーピングした図を載せています。
ご覧ください。

小1

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

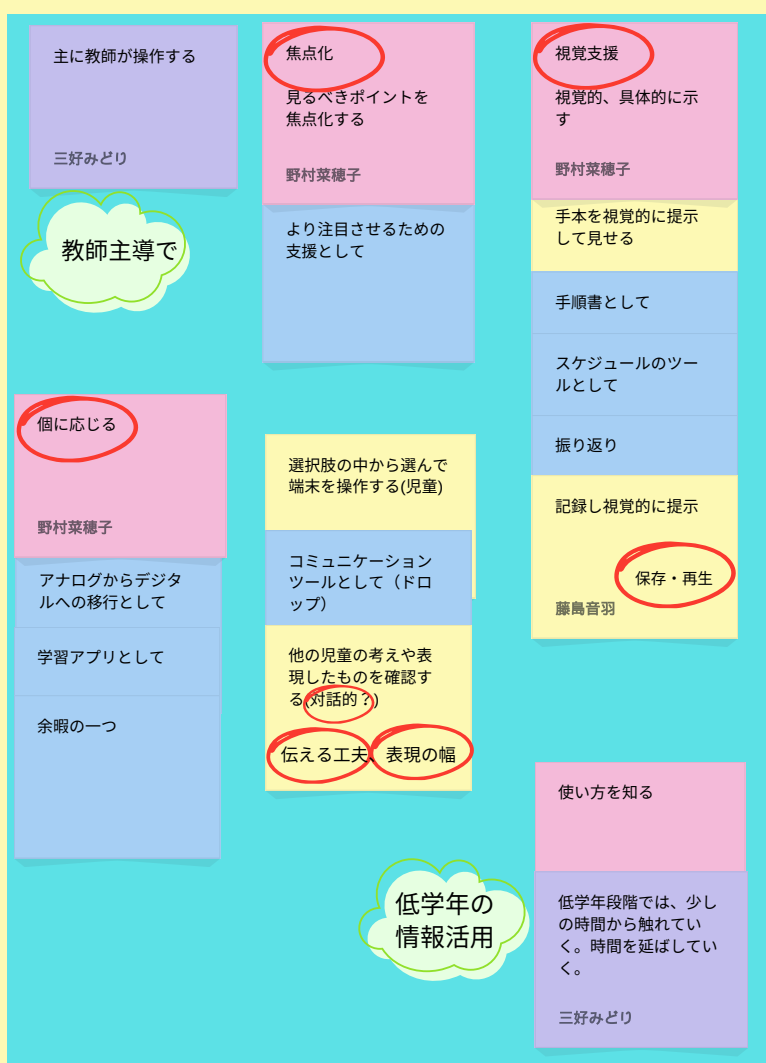


小2

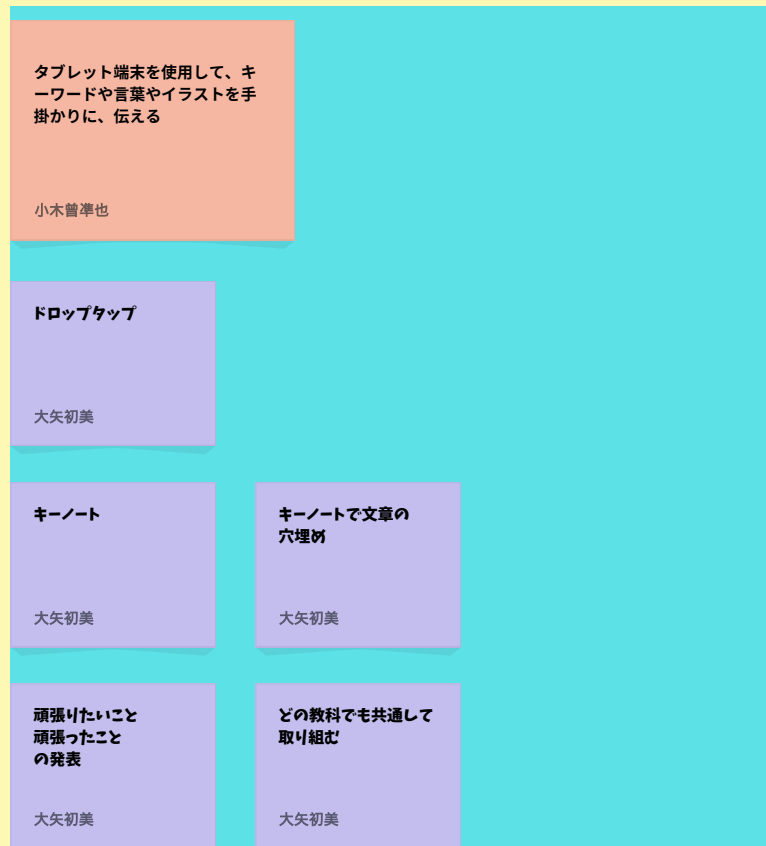
当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは



そのために考えられる「ICT活用」とは



そのために考えられる「ICT活用」とは



小3

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

- ・排泄
- ・食事
- ・身支度
- ・一つのことが終わってから次のことをする
- ・援助依頼
- ・自分の気持ちを伝える
- ・お礼と謝る姿勢
- ・整理整頓
- ・余暇の充実
- ・愛嬌

上西結香

伝える力

早藤美紀子

できた！だけではなく、きめ細やかな使い方、やり方、扱い方

早藤美紀子

・活動の流れがわかる
聞いて→理解
→動く→誉められる→自己肯定感up

早藤美紀子

時間を守る

早藤美紀子

(できる範囲で)自分のことは自分でする

yu k

体力

yu k

生活リズムの確立

時間を意識

yu k

自己肯定感

yu k

そのために考えられる「ICT活用」とは

- 日常生活の指導で細かいスケジュールを確認しながら取り組むような手立てを行なっていく。

上西結香

- ・見通しをもつ
- ・時間との兼ね合い

上西結香

QRコードを使った授業生単で実施するか？

上西結香

小4

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

去年の3年生

- イメージを持って活動→お手本の動画を用意
- 目標と自己評価をする→自己肯定感を上げる
- 自分で選択する

表出

受け入れる

自分の体調や現在の調子を相手に伝えることができる

中村彩奈

自己選択、自己決定の機会

自分の気持ちを伝える力

Kenji Kimura

人に伝わるように伝える

土田毅

挨拶などのコミュニケーション力

Kenji Kimura

困った時に助けを求められる

大辻

困った時に助けを求められる

中村彩奈

相手の意見を受け入れる

融通をきかせる

変更を受け入れる力
柔軟性

自分のやりたいこと、やるべきことの折り合いをつける

Kenji Kimura

集団(周り)に合わせて動くことができる
協調性、柔軟性

大辻知衣

報告する

自分で調べる

中村彩奈

授業の参加度をあげる
(手を挙げるだけではない)

湯藤瑞代

最後までやり抜く力

大辻知衣

自分で

そのために考えられる「ICT活用」とは

スケジュールや持ち物、移動場所などを自分で管理する

ドロップタップで気持ちややりたい事を表出する

手順書

中村彩奈

教師が提示した選択肢から、選ぶ。選択肢は写真、イラスト、実物など本人がわかるように。選んだ後、調整(2人ずつのグループなど)

湯藤瑞代

実態に応じて、スイッチなども使用することで、その子なりの参加ができる

中村彩奈

イラストや音声があることで気持ちの表出がしやすくなる今の自分の気持ち、状況の理解がしやすくなる

大辻知衣

いくつかの選択肢から選ぶ

大辻知衣

キーボードで打ち込むことで意思を表出する

情報を仕入れたり、わからないことをその場で調べる

土田毅

動画などで自身を客観的に振り返る

アプリを活用することで抽象的な事柄を可視化したり数値化してわかりやすく伝えられる

土田毅

簡単な操作で入力が可能
絵日記、ワークシートなど

大辻知衣

手順書や工程表の可視化

作文や観察日誌などのテキスト化〜修正がラクに

Kenji Kimura

振り返り動画

導入場面のスライドや動画〜興味関心

写真や動画で記録

zoom等でのリモートでのやりとり

Kenji Kimura

友達の作ったものなどを鑑賞する。

湯藤瑞代

小5・6

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

困った時に伝える力
身辺自立
人との関わり方
見通しを持って行動する力

中島卓也

気持ちを伝える力

他人にヘルプを出す

セルフケア 特に食べること

自分が何が好きかを知ること

他人を意識した行動

自分の気持ちや考えを伝える。

日生面の自立

待つ、我慢する。やりきる。

すなおさ。柔軟性。

友達(人)適切に関わる。楽しめる。

体力、健康

下田裕之

自分で選択、決定する機会を増やす

自分から助けを求めることができる

人との関わり、人間関係

見通しを持って動く

スケジュールを見て、次に何をすれば良いかが分かる

大滝幸人

身辺自立
食事
排泄
清潔、衛生
整理整頓

一人で余暇を過ごせること

身辺自立
食事
排泄
清潔、衛生
整理整頓

気持ちの安定
お礼を言う
自分なりに考える
気持ちの安定

一人で余暇を過ごせること

あいさつ
へんじ
ほうこく
お願いができる
自分のことを自分の言葉で伝える

中1

中学部1年生の生徒にとって「生きる力」とは

自分の意思を伝える

正しいコミュニケーション、意思表示

意思表示ができる

戸坂有紀

自分でできる力

1人でできることを増やす

自分で考えて行動する

中原なつみ

意思表示

自立

助けてもらうことと、自分で頑張ることを区別する。

困った時に正しい方法で助けを求められる

中原なつみ

助けを
求める

きまり

約束を守る

報告する

自分の将来を見据え、自分の得意なことや課題をいしきる

中原なつみ

気持ちの安定、コントロール

気持ちの安定

気持ちの安定

佐藤佑紀

誰とでもできる

友達や先生と関わる

佐々木康太

1人で過ごすこと

余暇を充実させる

大山想

コミュニケーション

そのために考えられる「ICT活用」とは

コミュニケーション能力の向上のために

動画撮影～振り返り

コミュニケーションツールとしての活用

ドロップタップ
挨拶返事報告用の
何かしらのアプリや
学習シート

そのために考えられる「ICT活用」とは

検索機能

Youtube

余暇の充実
気持ちの安定

佐々木康太

やりたいことや、作りたいものを検索する

大山想

スケジュール

リマインダー

気持ちの安定
落ち着いて活動できるようスケジュールの役割をもたせる

佐々木康太

学習内容やスケジュールを確認する手段として活用する

大山想

1人で確認して活動する

自立的な視点での活用
・コミュニケーションを助けるツールとしてDropTapなど

加藤範嗣

発表や進行場面で1人でできるように
DropTap、keynoteなど

加藤範嗣

共同編集機能を使ってまとめ活動を行う

根井亮宗

カメラ機能

カメラ機能を使って振り返り

根井亮宗

写真や動画で、教師や手本となる友達の姿と、自分自身の姿を見比べる

大山想

音声言語の代替

音声言語の代替

佐藤佑紀

音声入力でじぶんのきもちをつたえる

根井亮宗

中2

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

イラストや写真を使っ
ての選択肢を増やすこ
とができる

自分で調べる力が身につ
ける

福士俊介

福士俊介

意思を明確に表出
返事、応答

掃部桂子

友達の姿から学ぶ
(模倣を自分のもの
に)

掃部桂子

コミュニケーション
をもっと豊かに

掃部桂子

友達と協力する

意思表示ができる

約束を守る

井島祐輔

井島祐輔

井島祐輔

自分や相手のことを知
る

自分で考える力

時間の意識

周りとの関わり方を知
る

周りにペースを合わせ
る

正しい気持ちの表出方法

五十嵐ちひろ

五十嵐ちひろ

五十嵐ちひろ

取り組み続けるための
体力

上村春樹

挨拶 可愛らしさ 人
間力

上村春樹

自ら取り組みとうとする
意欲

上村春樹

そのために考えられる「ICT活用」とは

ものや人物、場所の写真
や感情や〇×などのイラスト
を用いて、選択した
り、自分の意思を表出し
たりする
また、自分で決めたとい
う責任感にもつながる

掃部桂子

ドロップタップを活用
して、選択肢から選
び、表現する

みんなでひとつのものを
つくる
canvaのアプリ
で

井島祐輔

動画を撮って振り返る
五十嵐ちひろ

知りたいことをタブレット
で検索して学ぶ
→ canvaなどにその情報を
まとめる
五十嵐ちひろ

興味のあることや楽し
みなことを題材にし
て、授業を行う。使い
方や調べ方についても
同授業で取り扱う。

動画や写真を活用して、素敵
なところ探しをする
素敵ところをみんな
で模倣してみる(音楽
のダンス、器楽演奏、
美術の技法など)

掃部桂子

自分の気持ちや思いを選択肢
から選ぶ。
キャンパなどで共有す
る。

選択を表現する。クイ
ズ形式などにして。

掃部桂子

ドロップタップで選
択し、表現する

タブレットのタイ
マーを使う

井島祐輔

スケジュール管理のア
プリを使う
五十嵐ちひろ

ソーシャルスキル
レーニングのアプリ
を活用する
五十嵐ちひろ

ドロップタップを活用
して表現の幅を広げる

自分でつくってプレゼ
ン

タイムタイマーやスケジ
ュールによる終りの概念形成
を進め、実際場面の中に汎
化しながら授業を進める

興味関心のあるものの
中からやりたいものを
選択する

中3

当該学年の児童生徒にとって「生きる力」とは

1人で過ごせる

自分の気持ちを相手に
伝えられる

及川健太

選択する力

鈴木奈央美

自分のことができる

苦手なことの回避方
法

村井文

周りの環境に適応でき
る

及川健太

ルールや約束を守ること
ができる

及川健太

誰とでも 過ごせる

折り合いの付け方

村井文

集団活動

自立

生活の中で便利に使う
ことを
イメージする

米山隆弘

自分の気持ちを相手に
伝えられる

ヘルプを言える

いろんな人とコミュニ
ケーションがとれる

及川健太

気持ちを伝える
村井

困ったときに
助けてもらったり、
手伝ってもらうこと
ができる

鈴木奈央美

今の自分の気持ちを
相手に伝えられる

コミュニケーション

そのために考えられる「ICT活用」とは

選択する力

まるばつクイズ

鈴木奈央美

キーノートを活用して選択さ
せる

森可奈恵

マウスやスイッチを使
って選択させる

森可奈恵

いくつかある中から、どれが
好きなものを選ぶ

鈴木奈央美

漢字の検索結果については、
「翻訳機能」を使って、ひら
がなに翻訳することが出来る
らしい(ChatGPT による)

寺崎悟

少ない操作でできるも
の

振り返りするときに活用する

鈴木奈央美

選択クイズなどを作る。理解
できているかの確認もでき
る。

森可奈恵

興味のあるものを使っ
て、ICT機器の活用方
法を学ぶ

ワンタッチで選べる物
を準備して、活用

米山隆弘

キャンパーは難しい

米山隆弘

公開研は略案と単元計
画をだしてね
ピックアップ?
振返り!?

米山隆弘

上記の話し合いを経て、「当該学年で育みたい力を身に付けるために、どんなICT活用を行っていくか」がそれぞれ定まったと思います。活発な意見交流ありがとうございました。



重点について

「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」「障害による学習上または生活上の困難さを克服・改善」のためにも、次の3つのPOINTのうち、1つ以上を研究の重点としてICTを活用し、授業に取り入れていただくようお願いします。



POINT 1

個別最適な学び

確実に基礎的な知識及び技能を習得できるように授業改善を図ることや、自主的・自発的な学習が促されるような場面を工夫することが重要



POINT 2

協働的な学び

児童生徒同士の関わり合いなどを通じて、お互いの感性や考え方に触れながら学ぶことが重要



POINT 3

自立活動の視点

特別な支援が必要な児童生徒に特化した視点。各教科及び自立活動の授業において、個々の実態等に応じて実施



次回、研究日は9/6（水）になります。研究授業(12/20)の授業者や単元等の確定についてはこの日までになっていますので、どうぞよろしくお願いします。

次号以降の研究だよりでは、各学年の「生きる力を育むICT活用の実践」を紹介します。どんな力に焦点を当て、どんな機器やアプリを活用しているか、写真等交えながらお伝えしますので、ぜひご参考ください。



2024苫小牧支援学校校内研究

ICTを活用した
生きる力を育む
授業実践を目指して
(2年次)

ICTを活用した授業づくりの実践を通して



先号でお伝えした通り、本校校内研究に関し、各学年のICT活用に焦点を当てた紹介をいたします。今回は、中学部1～3年生の活用法です。①当該学年でどのような「生きる力」を育み、②そのためにどんなICT活用を行っていくかをそれぞれ簡単にご紹介します。他学年の実践を知るツールとなれば幸いです。



①育みたい「生きる力」・学習場面



意思・
コミュニケーション

生活単元学習／まとめ活動

中学部1年生



②そのためのICT活用



まとめ活動の場面で、Canvaの共同編集機能を使い、グループで協力してプレゼンテーションを制作。テキストを入力したり、写真やイラストを選択したり、生徒の得意なことに合わせて役割を果たしながら学習を進めています。

①育みたい「生きる力」・学習場面



気持ちの表出

音楽／鑑賞

②そのためのICT活用



鑑賞の時間に、曲を聴いたり動画を見たりして、その曲についての感想を具体的に表出できる力の育成を目指しています。Canvaで1つのデザインを共有し、生徒が「好き」「嫌い」の気持ちを選択、表出し、学年全員で共同編集することで、視覚的にも他者の気持ちを共有したり、選択の理由を考えたりする学習に取り組んでいます。



中学部②年生



①育みたい「生きる力」・学習場面



選択する力

国語・数学

②そのためのICT活用



自ら選択する力を身につけるため、まずは少ない選択数から自分が頑張ったことややりたいことを選択する力を身につけます。keynoteを使って頑張った方の絵を選択したり、学習計画アプリを使って本時の学習順番を選択したりします。

中学部③年生



次号研究日よりVOL.3は小学部の実践紹介になります。
次回研究日は、10月23日（水）学年研⑤です。研究授業の単元計画や指導略案について、話し合いをお願いします。



2024 苫小牧支援学校校内研究

ICTを活用した授業づくりの実践を通して



ICTを活用した
生きる力を育む
授業実践を目指して
(2年次)

本校校内研究に関し、今号では、1人1台端末を活用した学習活動の充実に向けて、はじめてタブレット端末を使う低学年を対象にICTの活用に焦点を当てた紹介をいたします。ICT機器の使い方や基礎、気を付けることなどを、各学年で丁寧に指導した上で各教科の授業で様々なアプリを使いながら学習を進めています。



①育みたい「生きる力」・学習場面



「注目する力」
「意思表示する力」

音楽

小学部1年生



②そのためのICT活用



歌唱の場面では、声の大きさを視覚化するためのアプリを活用したり、自分の口の形を客観的に見るために見本の画像と比べたりしながら取り組むようにしています。また、器楽演奏では、鳴らすタイミングを画面上に表示するなど、自立的に取り組むための手立てとしてICTを活用しながら学習を進めています。

小学部2年生



①育みたい「生きる力」・学習場面



気持ちの表出

図画工作

②そのためのICT活用



一つ目は、keynoteを使って、頑張ったことを発表する文章を穴埋め形式で選択しながら作成し、発表します。

二つ目は、droptapを使って、頑張ったことを選び、発表します。

編集することで、視覚的にも他者の気持ちを共有したり、選択の理由を考えたりする学習に取り組んでいます。

①育みたい「生きる力」・学習場面



伝える力

生活単元学習

②そのためのICT活用



個人目標の設定場面や、他学年への礼状作りで、Pagesの編集機能を使いながら学習を進めています。

頑張ることのイラストを指定のフォルダから取り出したり、ズーム機能を使ってイラストを適切な大きさにするなど、タブレット端末の基本的な動作を身に付けながら、自分の気持ちを伝えられるよう、授業に取り組んでいます。



次号研究日よりVOL.4は小学部4～6年生の実践紹介になります。

次回研究日は、12月20日（金）公開授業研究会になります。研究授業の振り返りや外部の先生方との意見交流をお願いします。





2024年苫小牧支援学校校内研究
ICTを活用した
生きる力を育む
授業実践を通して
(2年次)
ICTを活用した授業づくりの実践を通して

苫小牧支援学校公開授業研究会

令和6年12月20日 (金)



3校時 10:20～11:05

4校時 11:10～11:55

研究協議 13:45～14:30



今号では、本校校内研究に関し、各学年のICT活用に焦点を当てた紹介をいたします。

- ①当該学年でどのような「生きる力」を育み、どの学習場面で活用するのか。
- ②学習場面では、どのようにICT活用しているかをご紹介します。

小学部5.6年生

①育みたい「生きる力」・学習場面



「伝える力」
「意思表示する力」
「コミュニケーション」

・生活単元学習



②そのためのICT活用



検索機能を使用して、行き先や経路の確認、手順や工程の確認をするツールとして使用しました。また、授業の振り返りだけでなく、単元を通しての自己評価をformsで行いました。まとめの学習ではkeynoteを使用し、テキスト入力や写真の貼り付けなど友達や教師と一緒に取り組みました。



小学部4年生

①育みたい「生きる力」・学習場面

「理解、受け入れ（題材や具体的
取り組み、ポイントの理解）
「自分でする」
「表出（選択、表出手段）」

・生活単元学習



②そのためのICT活用



調理実習をする際に、ポイントとなる場面を動画で見る・注意する点を確認するためのツールとしてICTを使用しています。また、自己評価やまとめの学習の際には、イラストを選択し、表出の手段としてFingerbordというアプリを活用しています。



次回の研究日は、12月20日（金）に開催される公開授業研究会となります。この日は、研究授業の振り返りを中心に、参加者全員で活発な意見交換を行っていただければと思います。また、次号の研究だよりVOL.5は、最終号「今年度の研究のまとめ」になります。





2024 苫小牧支援学校校内研究

ICTを活用した
生きる力を育む
授業実践を目指して
(2年次)

ICTを活用した授業づくりの実践を通して



12/21（金）本校で初めての公開授業研究会を開催することができました。遠方よりたくさんの先生方にお越しいただき、大変勉強になる御意見をいただきました。ありがとうございました。各学年で行われた授業後の研究協議では、3つの柱に沿って、成果中心に活発な意見が交流されました。協議シートを集約しましたので御覧ください。また、北海道教育庁ICT教育推進課の田野先生より御講話をいただき、「個別最適な学び」における児童生徒の学習状況の把握や、「協働的な学び」によってどのように学びを深めてほしいのかをイメージをして授業を進めることが大切であることなど、たくさんの学びを得ることができました。

特別支援教育におけるICT活用の視点から、児童生徒の「生きる力」を育むための授業づくりについて、大変意義のある意見交流の場になりました。ありがとうございました。

【交流・協議】「事後研究」 小学部1年生

○実態に応じた学びの方法

児童の状況によってアナログ教材とデジタル教材を使い分けしていた。

MTのテレビへの注目を促す支援のタイミングが良かった。

タブレットを使う事で、難しい楽器の演奏も簡単に操作する事ができていた。

Chrome music laboで自分の作成した音楽を聴いて面白さに気づいているような表情や反応が見られた。

自分のやりやすい作り方で音を作ることができていた。

声の大きさのような抽象的なことに対して、見える化して示していて良かった。

大画面を見るのが難しいような児童もいた。

教師の言葉掛けに視線を動かしたり、音が鳴ることに合わせてまばたきしていた。

音を聞いて舌の形を変えるように口を動かしていた。

少し子供たちがソワソワしてかな？というタイミングで身体表現が始まり、授業の構成が素晴らしかった。

バスにのっての、STとの連携が円滑で良かった。また、さりげないプロンプトも良かった。

児童の動きが多い授業だった。

児童の状況に合わせたグループで呼んでいた。

進行用のiPadに不備が出た時に備えて予備機があるというのでは。

器楽のグループ指導について、タイミングを伝える、伝えない等の狙いに応じた指導ができていた。

楽器を鳴らすタイミングを見て判断して、取り組む児童が多くて良かった。

○目標の理解

自分の口の形を意識して動かすことができていた。

注目して楽器を鳴らすことができていた。

目標はポイントをつたえていた。

画面に注目していたので、やる事が全員に伝わっていた。

○集団の中での協働

友達と協働して身体表現ができていた。

児童の声が大きくなっていた。

児童の手がかりを見て、理解して見通しを持って取り組んでいた。

テレビ画面を手がかりにハンドベルがならせた。

どういう姿が良いのか具体的な姿は？



○実態に応じた学びの方法

成果黄色

課題ピンク

個別に応じたletの使用ができ、児童も使用することができていた

タブレットを見て作り進めることが難しい児童に対しては、教師の声掛けが中心になっていた。自分の力で作ることに焦点を当てると、今回の方法だと教師に促される活動となっていました

○目標の理

これまで2択の選択肢から選ぶことを続けてきた成果として、タブレット画面を見て選択肢を選ぶ児童がとて増えた。

アプリを使い分け、文を選択したり、自動音声で回答したりで、児童の実態に即してよかった。

自分の力で手順表を見て、制作する児童の姿を見ることができた

○集団の中での協働

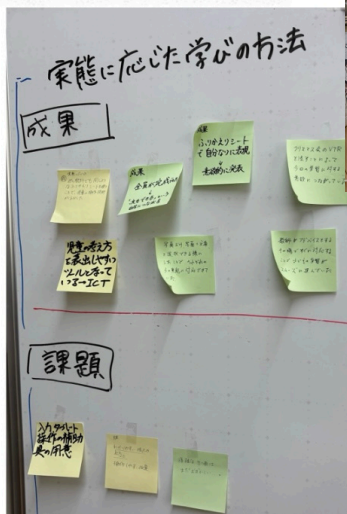


頑張った事の発表で、アプリケーションを使ってテレビ画面に映した事で、子どもたちもそれに注目して他者の頑張りを認めることができてよかったと思う。

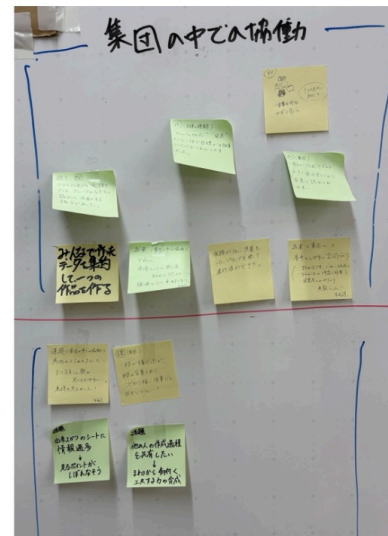
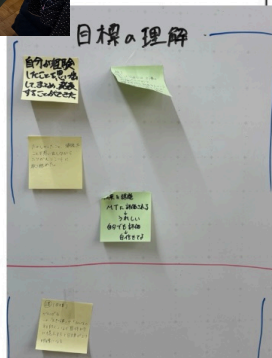
なかなか協働的な学びというのは難しい中、友達の良いと思う作品を選ばせたり、みんなの前で発表させたりと、機会を作っているだけでも良いと思いました。

友達の作品を見て、作品のどの部分が好きなことを伝えることができていた。

○実態に応じた学びの方法



○集団の中での協働



○実態に応じた学びの方法

動画で児童に提示したことで、即時で確認ができて良かった

実態に応じたICTの活用

fingerboardの活用

iPadを使ったことで自己評価がおこなえやすくなった。

○目標の理解

ポイントとして提示したことで理解して取り組めていたと思う。

本時の課題を常に掲示

ポイントを押さえないとどうなるか提示したことでポイントへの意識がむきやすくなった

選択肢から選んで表出する事ができるようになってきて、その先、選択肢以外の表出に進む事が難しい。

タブレットのタップが難しい場合には、スイッチ教材を使用するなど検討する必要がある。

○集団の中での協働

動画を用いた共有

子ども達の調理の映像を皆で見ることで、友達の称賛をする場面が見られたら。

児童一人一人が役割を意識して活動していた。

発表の仕方など友達へ見本

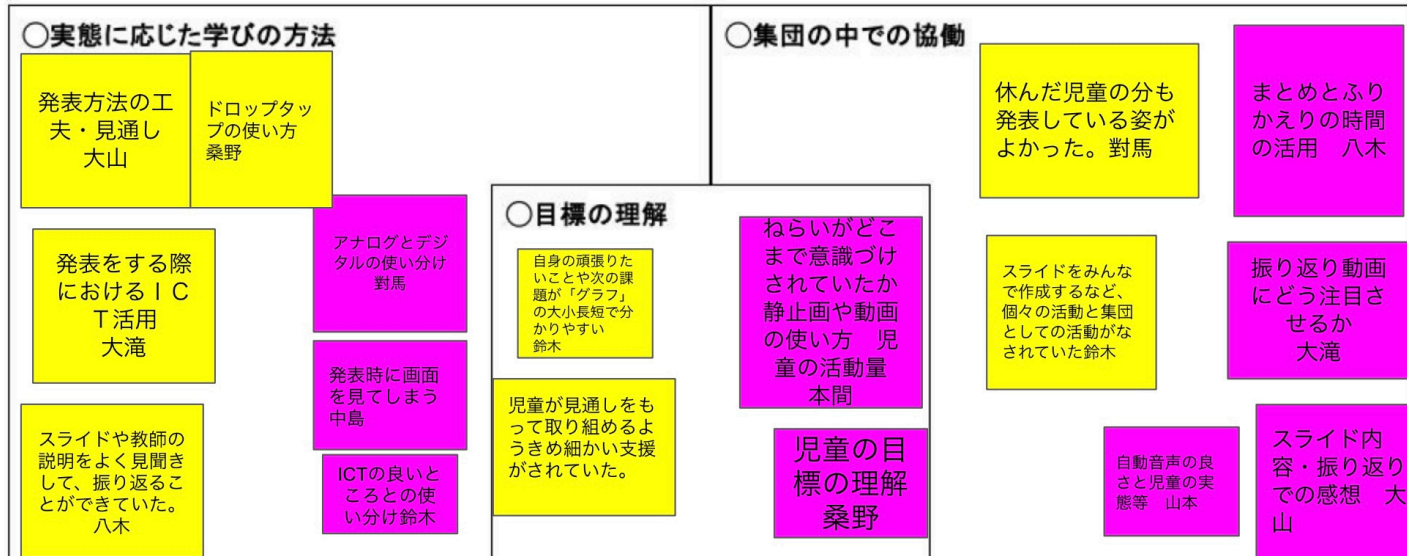
難しかったという評価の具体を聞きたかった

○成果

アナログ（その場で操作できる）とデジタル（選択しやすい 動画を提示）両方の良さ

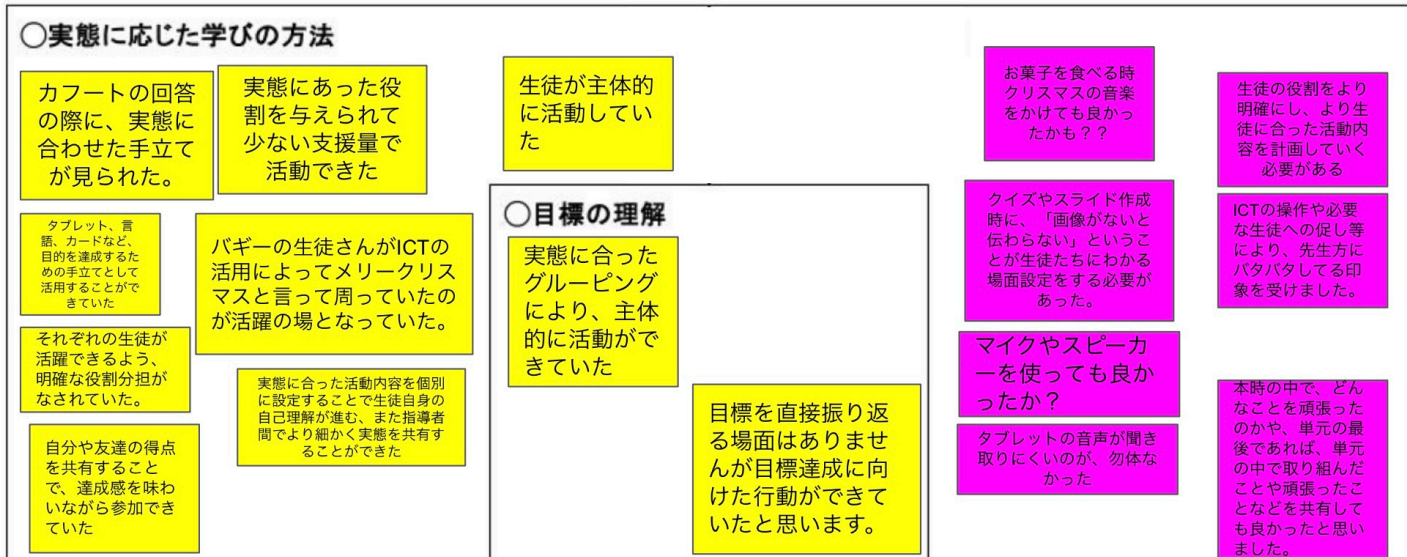
自己選択、自己決定の力を身につけるような取り組み





○成果

児童が見通しをもって取り組めるような単元となった授業の見通しを持つことで、意欲的に学習に取り組める内容となった実態に応じた発表方法の工夫がなされていた



○成果

ICTを使ったことで生徒が主体的に行動し、授業を作り上げていた。

先生方が生徒の実態把握をしていて個別最適な活動を設定していたことが主体的な活動につながった。



○目標の理解

- ①手話を覚え、曲や歌詞にあわせて表現することができる。
- ②友達が紹介する曲を鑑賞し、自分が思ったことや感じたことを伝えることができる。

目標を確認しながら進めていたので、目標を理解して取り組んでいた。

歌うだけでなく、手話を覚えて、自信をもって発表することができていた。

手話を覚えてきた

目標を意識して取り組んでいた

目的をもって鑑賞できるようになってきた

感想を言葉で伝えるだけでなく、身振りで伝えることができた

前のめりになり、興味を持って鑑賞していた

感想を伝えるとき具体的に言えるようになってきた

Aさん、3回の促しで意思表示

Hさん、感想を言い切る

Mさん、「ノリノリ」の言葉が自分から出てくる

自分の気持ちを自分で選んで表現することができていた。

感想の選択や発表内容が、鑑賞と結び付いていない生徒がまだいる

○集団の中での協働

友達の選択に興味をもっていた

他の友達を意識している様子がみられた

ほかの生徒の感想に興味をもって聞いていた

友達のまねをしなくなってきた

言葉だけでなく、身体表現での意思表示があり、それを認めてもらえる雰囲気ができている。

当てられることがわかっているのを見て見るようになった。

鑑賞をきっかけに、音楽の授業に対する興味関心が高くなった

食いつきがよい



○成果

○目標の理解
頑張るポイントを焦点化することで、生徒それぞれがそれを意識し、意欲的な活動につながられた。

○集団の中での協働
ICT活用により、鑑賞への興味、関心、期待感の高まりが向上。友達への意識向上、気持ちを表現することのよさへの実感を深めてきている。



○実態に応じた学びの方法

自分のやる事がわかり取り組んでいた

自分が気に入ったものを選択する際に指差しで選べる

○集団の中での協働

課題

課題

課題

課題

課題

ワークシートの共有

デジタルとアナログの使い分け

生徒自身が活用

ICTのより個に応じた活用方法

○目標の理解

ビデオを見ることで今までの振り返りが容易にでき、今日は発表する学習だと生徒が理解できていた

ワークシートもict化すると字が書けない生徒も取り組みやすい？

成果

ictを活用することで、発表することができていた



○成果

ICTを活用することで、選択しやすく、



研究報告の資料作成および発表ありがとうございました。
次号研究だよりVOL.6（最終号）は今年度のまとめになります。
また、3/21(金)研究日は今年度および2か年のまとめになります。よろしくお願いします。

2024苫小牧支援学校校内研究

ICTを活用した
生きる力を育む
授業実践を目指して
(2年次)

ICTを活用した授業づくりの実践を通して



2年間にわたる研究、大変お疲れ様でした。

令和5年度および令和6年度研究主題『ICTを活用した生きる力を育む授業実践を目指して』に2ヵ年計画で取り組み、8学年中、7学年が概ね「生きる力」を育むことができた」と回答していることから、研究仮説「学習場面において、ICTを活用しながら児童生徒が主体的に学ぶことで、生きる力を育むことができるだろう。」は概ね立証できたという結果となりました。

次年度は、「自立活動」に関する校内研究を進めてはどうかと課題提起をしました。また新たなメンバーで児童生徒によりよい指導を行なっていけるよう、協力して進めていけたらと思います。



研究のまとめアンケート集約結果

●研究のまとめ（3/21実施）に関して御意見・御質問がありましたら御入力ください。

- ・ICTへの挑戦や授業での活用ができ、生徒の興味関心の高さも再認識できた。
- ・特にありません。まとめお疲れ様でした。
- ・何をもって達成できたとするのかは研究報告をまとめていた際に自分自身疑問だったので、田野主事がおっしゃっていた妥当性や信頼性は今後も研究するにあたって考えていく必要があると感じました。

●本研究について御意見・御質問がありましたら御入力ください。

- ・特別支援センターの方から専門的なお話を聞いて、充実した研究となりました
- ・1年間お疲れ様でした！
- ・他校の状況なども公開研究で交流ができた。とても良い機会であると共に実践を進める参考になった。
- ・学年で進めていくことで、成果や課題、改善点を学年職員で共有しながら授業づくりの向上につなげていくことができたと思います。
- ・勉強になりました。推進された皆さんお疲れさまでした。

研究同人

校 長 小笠原 正 樹

教 頭 宮 下 博 一

小学部

木 村 健 志

山 田 美 紀	三 好 みどり	藤 島 音 羽	江 崎 拓 郎
野 村 菜穂子	山 田 俊 寿	藤 井 咲 名	大 矢 初 美
根 本 咲 歩	辻 朋 佳	小 木 曾 準 也	桐 村 優 子
上 西 結 香	早 藤 美紀子	上 野 尚 志	湯 藤 瑞 代
大 辻 知 衣	中 村 彩 奈	土 田 毅	山 本 華 子
中 島 卓 也	下 田 裕 之	桑 野 佳 那 子	鈴 木 千 尋
大 滝 幸 人	柚 原 菜 摘		

中学部

米 山 隆 弘

上 村 春 樹	根 井 亮 宗	大 山 想	中 原 なつみ
戸 坂 有 紀	佐々木 康 太	佐 藤 佑 紀	井 島 祐 輔
掃 部 桂 子	福 士 駿 介	五十嵐 ちひろ	森 可 奈 恵
寺 崎 悟	鈴 木 奈 央 美	及 川 健 太	村 井 文

教育推進部

加 藤 範 嗣

養護教諭

谷 内 潮 布 施 ゆりな

看護師

大 沢 途己枝 山 口 早 希 横 山 香 織

事務

遠 藤 史 憲 佐 藤 み 雪 西 岡 紀 子

研修支援

北海道立特別支援教育センター

自閉症・情緒障がい教室長 日小田 泰昭

北海道教育庁 ICT 教育推進局 ICT 教育推進課 ICT 教育指導係

主任指導主事 田野 大介



令和6年度 北海道苫小牧支援学校 研究集録

令和7年4月 発行

北海道苫小牧支援学校